

令和7年度

学校体育報告書

一児童生徒の体力向上を目指して一

令和8年3月

愛知県教育委員会

は　じ　め　に

今日、我が国では、経済や科学技術の発展により生活が豊かで便利になる一方で、児童生徒を取り巻く生活環境は大きく変化しており、運動機会の減少や生活習慣の変容などが、体力の低下に影響を及ぼしていると指摘されています。全国的に見ても、握力やボール投げの基礎的な体力要素については、長期的な低下傾向が続いており、引き続き憂慮すべき状況にあります。

本県における令和7年度の体力・運動能力調査の結果によりますと、小・中・高等学校男女の全項目のうち、半数以上の項目で前年度の結果を上回るなど、前向きな変化が見られました。これは、これまでの取組が一定の成果として表れ始めた結果であると受け止めています。その一方で、本県の児童生徒における、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を分析すると、筋力を測る項目が相対的に弱いことや、全力で体を動かす経験が不足していること、さらには「運動やスポーツが好き」「運動が大切」「体育の授業にいつも進んで参加している」といった意識面に依然として課題があることも明らかになっています。

こうした課題に対応するため、県教育委員会では「あいっ子・体力向上作戦」をキャッチフレーズに、運動が苦手な児童生徒でも楽しみながら主体的に体を動かすことができる授業づくりや、教員の指導力向上に向けた取組を推進しています。子どもたちの体力・運動能力の向上には、各学校における創意工夫ある体育授業の実践が欠かせません。県教育委員会としても、学校現場の主体的な取組を支援しながら、教育活動全体を通じて体力づくりを推進し、積極的に運動に取り組む児童生徒の育成を図ってまいります。

本報告書では、体力・運動能力調査結果や特別支援学校における体力テストの状況に加え、体力づくり優良校において実践された具体的な取組を紹介しています。各校において、日常の教育活動の参考資料として積極的に御活用いただければ幸いです。

末尾となりましたが、本報告書の作成にあたり、調査及び資料提供等に御協力いただきました各学校の皆様に、心から感謝申し上げます。

令和8年3月
愛知県教育委員会

目 次

I 児童生徒の体力・運動能力調査結果

1	調査の概要	2
2	集計の結果	
	握力・上体起こし	5
	長座体前屈・反復横とび	6
	20mシャトルラン・持久走	7
	50m走・立ち幅とび	8
	ボール投げ（ソフトボール・ハンドボール）	9
	令和7年度本県平均と令和6年度全国平均とのTスコアによる比較	10
3	平成18年度～令和7年度の体力テスト結果県平均の推移	14
4	10年前との比較	23
5	令和7年度本県と令和6年度全国との合計点平均値比較	25
6	結果のまとめ	26
	※資料 1 本県令和7年度と本県令和6年度の平均値比較	28
	2 本県令和7年度と全国令和6年度の平均値比較	28

II 特別支援学校児童生徒の体力テスト調査結果

1	調査の概要	30
2	集計の結果	32

III 体力づくり優良校実践報告

・	名古屋市立成章小学校	37
・	名古屋市立上志段味小学校	39
・	蟹江町立須西小学校	41
・	扶桑町立柏森小学校	43
・	幸田町立中央小学校	45
・	豊橋市立八町小学校	47
・	名古屋市立駒方中学校	49
・	稲沢市立稲沢西中学校	51
・	東郷町立東郷中学校	53
・	碧南市立西端中学校	55
・	愛知県立愛知総合工科高等学校	57
・	愛知県立江南高等学校	59
・	愛知県立西尾東高等学校	61

・ 愛知県立時習館高等学校	63
・ 愛知県立豊橋豊学校	65
・ 私立日本福祉大学附属高等学校	67
○ 体力づくり優良校一覧 （昭和53年度～令和7年度）	69
○ 学校体育研究委嘱校の研究主題一覧 （小・中学校 昭和33年度～平成30年度）	75
（高等学校 昭和32年度～平成10年度）	78

I 児童生徒の体力・運動能力調査結果

1 調査の概要

(1) 調査の目的

体力テストを実施することにより、児童生徒の体力・運動能力の実態を明らかにするとともに指導及び行政上の資料とする。

(2) 調査の対象と人数

校種	性別	男			女			計		
	対象	A	B	A/B	A	B	A/B	A	B	A/B
		調査人数	総数	(%)	調査人数	総数	(%)	調査人数	総数	(%)
小学校	6歳	703	30,647	2.3	697	29,261	2.4	1,400	59,908	2.3
	7歳	698	31,574	2.2	674	30,212	2.2	1,372	61,786	2.2
	8歳	720	32,595	2.2	710	30,922	2.3	1,430	63,517	2.3
	9歳	735	33,360	2.2	724	31,890	2.3	1,459	65,250	2.2
	10歳	752	33,596	2.2	743	31,887	2.3	1,495	65,483	2.3
	11歳	764	33,844	2.3	743	32,295	2.3	1,507	66,139	2.3
	計	4,372	195,616	2.2	4,291	186,467	2.3	8,663	382,083	2.3
中学校	12歳	1,031	34,476	3.0	1,013	32,759	3.1	2,044	67,235	3.0
	13歳	909	34,846	2.6	881	33,439	2.6	1,790	68,285	2.6
	14歳	944	35,466	2.7	861	33,825	2.5	1,805	69,291	2.6
	計	2,884	104,788	2.8	2,755	100,023	2.8	5,639	204,811	2.8
高等学校 (全日制)	15歳	17,679	30,282	58.4	15,830	29,148	54.3	33,509	59,430	56.4
	16歳	17,172	29,481	58.2	15,592	29,009	53.7	32,764	58,490	56.0
	17歳	16,675	29,104	57.3	15,258	28,246	54.0	31,933	57,350	55.7
	計	51,526	88,867	58.0	46,680	86,403	54.0	98,206	175,270	56.0
高等学校 (定時制)	15歳	586	802	73.1	499	724	68.9	1,085	1,526	71.1
	16歳	555	737	75.3	469	643	72.9	1,024	1,380	74.2
	17歳	436	633	68.9	346	536	64.6	782	1,169	66.9
	18歳	311	394	78.9	170	227	74.9	481	621	77.5
	計	1,888	2,566	73.6	1,484	2,130	69.7	3,372	4,696	71.8
総数	60,670	391,837	15.5	55,210	375,023	14.7	115,880	766,860	15.1	

※B総数は令和7年度愛知県学校基本調査による。

(3) 調査の実施期間

令和7年5月～7月

(4) 調査の方法・内容・項目

ア 調査の対象は、公立の小学校50校、中学校40校を抽出し、各学校から性別、年齢別に無作為に小学校は各20名、中学校は各25名を選んだ。ただし、調査対象学年が対象数に満たない場合は、その人数を調査対象とする。（抽出校はP4に掲載）

なお、高等学校は平成20年度から全校を対象とした。

イ 調査項目

(ア) 小学校1年～3年

- ① 50m走 ② 立ち幅とび ③ ソフトボール投げ

(イ) 小学校4年

- ① 長座体前屈 ② 反復横とび ③ 50m走 ④ 立ち幅とび
⑤ ソフトボール投げ

(ウ) 小学校5・6年

- ① 握力（右・左） ② 上体起こし ③ 長座体前屈 ④ 反復横とび
⑤ 20mシャトルラン ⑥ 50m走 ⑦ 立ち幅とび
⑧ ソフトボール投げ

(エ) 中学校・高等学校

- ① 握力（右・左） ② 上体起こし ③ 長座体前屈 ④ 反復横とび
⑤ 20mシャトルラン 又は 持久走（男子1500m・女子1000m）
⑥ 50m走 ⑦ 立ち幅とび ⑧ ハンドボール投げ

(5) 小学校、中学校、高等学校における抽出校一覧表

	小学校	中学校	高等学校
名古屋	千種、金城、千成、新栄、八事 白鳥、長須賀、東海、大磯 上志段味、旭出、引山、八事東	今池、桜丘、北、山田 笹島、津賀田、東港 守山東、神沢、平針	県立高等学校、 豊橋市立豊橋高等学校
尾張	大口北、五条川、貴船 開明、稲沢北 原山、不二、小牧原、本地原 豊明、東（長久手）、志水	千秋、尾西第三、平和、犬山 にじの丘、南城、光ヶ丘 日進東、新川、春木	
海部	甚目寺西、大治南、弥生	佐織、神守	
知多	富貴、河和、横須賀、共長	阿久比、東浦、武豊、青山	
西三河	岡崎、大浜、棚尾、衣浦 若林東、安城東部、西野町 猿渡、高浜、三好丘、深溝	矢作、刈谷南、保見 桜井、東部（西尾）、南（高浜） 三好丘、南部（幸田）	
東三河	形原、西浦、童浦 豊、二川南、御津北部	塩津、田原、二川 西部（豊川）	
新城設楽 支所 設楽教育 指導室	東郷東、舟着、八名、東栄	東郷、東栄	

2 集計の結果

(N・・・標本数、M・・・平均値、S.D・・・標準偏差)

		握 力						単位：kg			上 体 起 こ し						単位：回						
		県			国			県			国			県			国						
		令和7年度			令和6年度			令和6年度			令和7年度			令和6年度			令和6年度						
		N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D				
男	小学	6	/						1,126	8.92	2.10	/						1,123	11.62	5.25			
		7							1,124	10.47	2.51							1,122	14.30	3.17	1,122	14.20	5.41
		8							1,126	12.36	2.78							1,112	18.17	5.54			
		9							1,122	14.30	3.17							1,118	19.81	5.45			
		10	751	15.8	3.89	1,250	15.6	3.94	1,119	16.09	3.61	752	18.4	6.32	1,250	18.1	6.10	1,118	19.81	5.45			
		11	763	19.0	5.13	1,129	19.0	5.11	1,126	19.31	4.62	763	21.1	5.94	1,125	21.2	6.12	1,116	22.45	5.55			
	中学	12	1,026	23.4	6.37	1,341	23.2	6.31	1,389	24.29	6.23	1,025	23.7	6.04	1,341	23.1	5.80	1,374	23.81	5.51			
		13	908	29.1	7.49	1,248	28.7	7.40	1,399	29.46	7.32	908	26.4	6.15	1,247	26.3	6.59	1,381	26.72	5.66			
		14	943	33.7	7.46	1,194	33.1	7.38	1,397	34.41	7.43	942	28.1	6.07	1,195	28.0	6.19	1,391	29.02	5.69			
	高等	15	18,104	36.4	7.25	17,848	36.4	7.23	1,265	37.22	6.93	18,053	27.9	6.14	17,799	28.0	6.07	1,261	28.63	5.60			
		16	17,831	38.9	7.49	17,087	38.8	7.39	1,254	39.22	7.43	17,758	29.9	6.11	17,037	29.8	6.08	1,253	30.19	5.97			
		(全)	17,292	40.3	7.59	16,671	40.2	7.56	1,257	41.01	8.06	17,210	30.9	6.06	16,594	31.0	5.96	1,258	31.46	6.10			
	高等	15	600	34.7	7.88	663	35.3	7.94	186	35.09	7.79	599	22.3	6.31	658	22.4	6.49	179	23.06	6.50			
		16	568	36.9	8.23	517	37.0	7.88	188	36.69	7.53	555	23.7	6.79	503	23.3	6.61	186	24.46	6.60			
		17	470	38.2	8.87	472	38.6	7.74	188	38.46	8.06	463	24.1	7.20	470	23.9	7.06	183	24.99	6.13			
		(定)	319	39.2	8.51	290	39.6	8.16	169	39.47	6.31	316	24.4	6.64	290	23.7	7.09	165	24.67	6.46			
	女	小学	6	/						1,120	8.42	1.96	/						1,125	11.07	5.11		
			7							1,125	9.95	2.35							1,121	13.18	5.23		
8			1,124							11.65	2.63	1,111							16.12	5.22			
9			1,127							13.58	3.01	1,107							17.10	5.20			
10			743	15.2	4.16	1,171	15.4	3.92	1,123	15.99	3.70	741	17.0	5.89	1,171	17.5	5.73	1,108	18.86	5.11			
11			742	18.5	4.43	1,125	18.8	4.63	1,127	19.36	4.31	742	19.3	5.91	1,125	19.4	5.67	1,121	20.15	5.16			
中学		12	1,024	20.5	4.33	1,301	20.7	4.51	1,395	21.45	4.53	1,024	20.3	5.73	1,302	19.6	5.71	1,364	20.10	5.41			
		13	880	23.5	4.60	1,233	22.8	4.80	1,395	23.58	4.66	880	22.3	5.63	1,230	21.3	6.32	1,383	22.07	5.52			
		14	862	24.9	4.52	1,221	24.4	4.70	1,398	25.29	4.58	861	22.8	6.33	1,221	22.3	6.11	1,385	23.92	5.80			
高等		15	16,389	25.0	4.82	16,772	25.0	4.77	1,254	25.44	4.61	16,352	21.7	6.15	16,718	21.7	6.02	1,246	22.40	5.66			
		16	16,387	26.0	4.94	16,323	26.2	4.91	1,250	26.23	4.60	16,309	23.0	6.18	16,260	23.3	6.06	1,242	23.77	5.99			
		(全)	16,001	26.6	5.04	15,919	26.7	4.94	1,252	26.65	5.35	15,933	23.9	6.18	15,848	24.4	6.04	1,243	23.91	6.48			
高等		15	530	22.8	5.56	563	23.4	5.38	175	24.13	5.37	521	15.6	6.23	553	15.6	5.87	172	17.05	5.70			
		16	483	24.1	5.58	425	23.9	5.15	180	24.31	4.60	482	16.2	6.00	416	15.2	6.64	175	18.40	5.69			
		17	374	24.5	5.62	347	24.4	5.05	174	25.84	5.35	369	16.3	7.07	347	16.4	5.79	173	18.55	6.12			
		(定)	179	24.2	5.83	175	25.8	5.78	151	25.78	5.29	174	16.0	5.88	173	17.0	6.19	143	19.00	6.14			

		長座体前屈						単位：cm			反復横とび						単位：回				
		県			国			県			国			県			国				
		令和7年度			令和6年度			令和6年度			令和7年度			令和6年度			令和6年度				
		N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D		
男子	小学校	6	/						1,099	26.42	7.47	/						1,091	27.23	5.12	
		7							1,097	28.41	7.00							1,099	31.06	6.43	
		8							1,089	30.41	7.41							1,099	34.52	7.66	
		9	714	32.8	8.91	1,179	31.5	7.65	1,085	31.87	7.93	734	38.1	7.96	1,182	36.8	8.27	1,099	39.07	7.42	
		10	749	34.6	8.89	1,249	34.3	8.16	1,092	33.41	8.36	752	41.0	8.60	1,250	40.5	7.99	1,094	42.07	7.59	
		11	764	37.0	9.83	1,145	35.8	8.84	1,096	36.48	8.66	763	45.9	7.70	1,142	44.7	7.54	1,095	45.91	7.25	
	中学校	12	1,025	41.9	10.39	1,341	40.3	10.04	1,352	41.72	10.14	1,023	50.6	7.41	1,339	48.9	7.43	1,335	50.18	6.73	
		13	908	46.3	11.51	1,247	44.4	11.02	1,369	45.21	10.49	908	53.5	8.08	1,245	52.7	8.22	1,360	53.43	7.20	
		14	942	49.7	10.49	1,196	48.5	11.95	1,368	48.99	11.24	942	56.5	7.58	1,191	55.3	8.28	1,362	56.57	7.15	
	高等学校	15	18,081	51.2	11.79	17,823	50.3	11.81	1,236	48.81	11.51	18,014	56.6	7.02	17,769	56.3	6.85	1,235	56.71	6.91	
		16	17,801	53.7	12.02	17,070	53.1	11.82	1,224	51.06	11.31	17,708	58.1	7.09	16,995	58.0	6.94	1,227	58.19	7.56	
		(全)	17,256	55.5	11.69	16,642	55.0	11.93	1,224	52.88	11.33	17,153	59.0	7.12	16,567	59.0	6.91	1,225	58.80	8.62	
	(定)	高等学校	15	606	42.9	12.22	660	41.5	12.13	178	43.31	11.36	597	46.6	9.98	655	46.9	9.66	176	49.14	8.36
			16	563	43.9	12.52	508	43.1	12.41	180	44.19	11.93	556	49.3	9.36	511	47.8	10.01	176	50.18	8.69
			17	469	44.3	12.85	471	45.9	12.76	182	47.15	11.35	469	48.5	9.87	466	49.7	8.80	178	51.33	8.62
			18	319	45.7	12.24	289	44.3	12.89	164	44.07	12.74	318	50.0	9.05	286	48.2	9.93	159	51.04	6.99
	女子	小学校	6	/						1,097	29.06	7.13	/						1,084	26.35	4.90
			7							1,096	30.94	7.21							1,086	29.57	5.77
8			1,082							33.18	7.34	1,095							32.92	6.96	
9			703	37.3	9.36	1,082	34.6	7.82	1,095	35.17	7.96	723	35.9	6.99	1,082	34.6	7.68	1,095	37.08	7.06	
10			742	38.4	9.30	1,173	38.5	8.56	1,100	38.34	8.57	741	38.8	7.11	1,173	38.7	7.27	1,103	40.38	6.93	
11			742	40.6	10.02	1,147	40.9	9.12	1,096	41.21	9.04	741	42.1	7.68	1,146	42.0	6.81	1,102	42.95	6.49	
中学校		12	1,024	44.7	10.33	1,301	43.5	9.98	1,354	44.65	10.38	1,024	46.0	6.85	1,302	44.8	6.74	1,343	45.77	6.30	
		13	880	47.5	10.61	1,233	46.3	11.01	1,361	46.46	10.10	879	48.1	6.19	1,229	46.3	7.84	1,359	47.05	6.62	
		14	861	51.1	10.54	1,221	47.7	10.86	1,364	49.79	10.05	861	49.0	6.58	1,219	47.7	6.59	1,356	48.80	6.35	
高等学校		15	16,371	50.2	10.94	16,749	49.5	10.84	1,227	48.27	10.22	16,335	48.0	6.10	16,700	47.9	5.96	1,217	48.52	6.12	
		16	16,352	51.2	10.92	16,300	51.4	10.99	1,222	49.82	10.64	16,288	48.4	6.37	16,203	48.9	6.14	1,219	49.45	6.45	
		(全)	15,975	52.8	10.92	15,891	52.9	10.63	1,217	51.13	10.22	15,879	49.1	6.37	15,812	49.3	6.25	1,219	49.16	7.24	
(定)		高等学校	15	529	42.1	11.94	557	40.8	11.39	169	44.33	12.02	522	39.8	7.99	554	39.3	8.27	164	42.25	6.96
			16	479	41.8	11.39	420	42.1	10.66	177	42.87	11.05	478	40.9	7.58	409	39.9	8.15	174	42.33	6.40
			17	371	42.9	11.13	348	43.7	11.69	170	45.51	9.57	362	40.6	7.91	339	40.5	6.95	164	42.67	7.24
			18	179	44.1	13.78	176	41.4	11.07	146	44.05	10.69	175	39.6	8.03	172	38.6	8.01	139	42.46	6.89

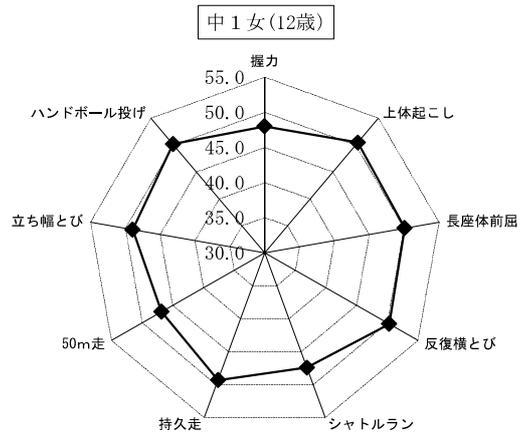
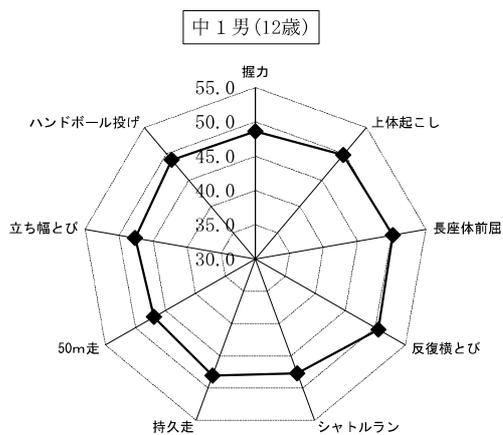
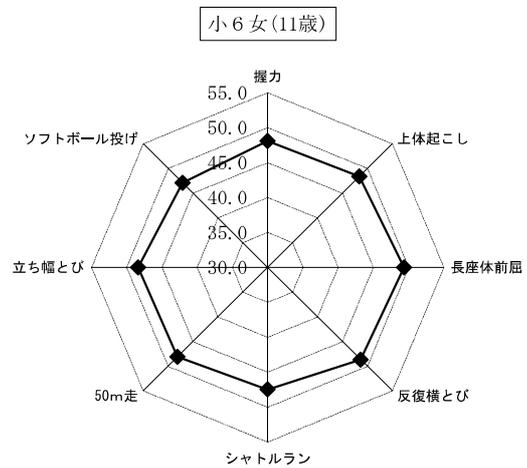
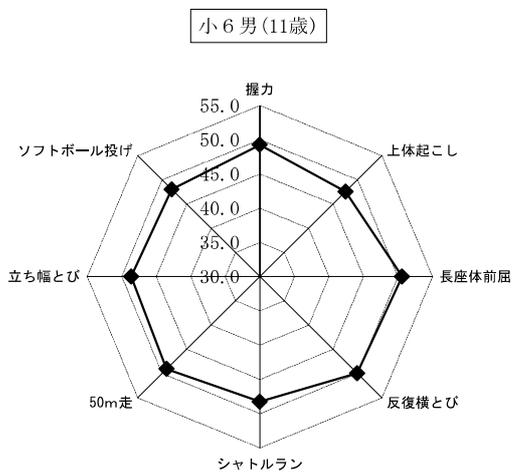
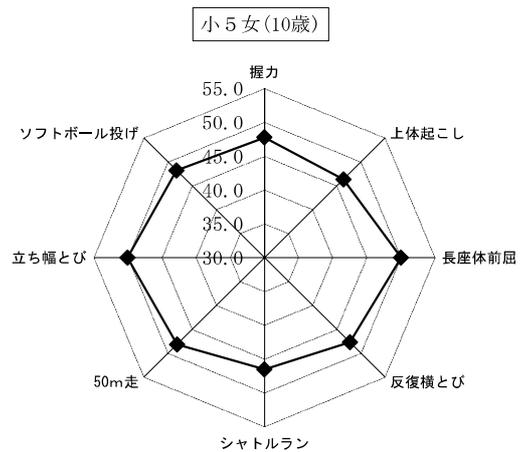
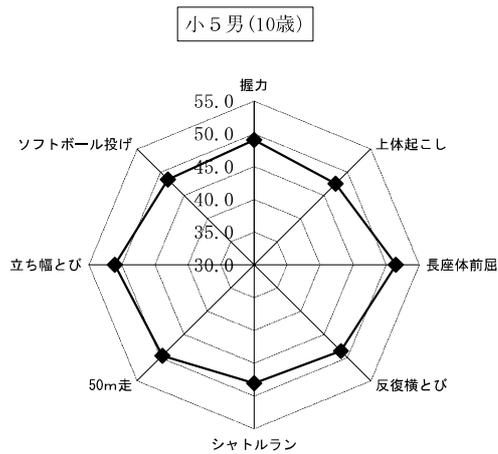
		20mシャトルラン									持久走(男子…1500m、女子…1000m)																		
		県									国			県									国						
		令和7年度			令和6年度			令和6年度			令和7年度			令和6年度			令和6年度												
		N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D							
男	小学校	6	/									1,096	17.95	9.35	/														
		7										1,124	27.26	13.76															
		8										1,125	34.85	17.12															
		9										1,121	43.71	19.49															
		10										752	46.4	21.00										1,248	43.7	20.17	1,121	50.51	21.22
		11										759	56.1	22.81										1,124	52.9	21.51	1,124	59.96	22.23
	中学校	12	485	62.1	24.63	455	63.5	22.77	1,101	67.81	24.95	536	435.6	70.38	850	469.0	103.28	392	423.77	59.96									
		13	361	73.4	24.70	481	79.4	24.86	1,110	83.12	24.87	544	402.8	81.34	735	417.1	102.80	402	390.05	52.54									
		14	390	84.7	25.51	488	83.1	24.99	1,091	90.60	24.31	552	382.0	68.01	678	399.9	73.40	415	377.90	53.58									
		高等学校	15	13,087	80.4	22.86	12,219	80.1	22.62	953	84.26	23.91	4,530	404.0	65.44	5,190	402.0	64.88	381	388.68	56.41								
			16	12,284	85.7	24.18	11,135	87.3	24.34	918	89.56	26.00	5,219	394.2	66.84	5,681	392.5	65.74	412	369.98	52.68								
			(全)	11,992	87.0	25.33	10,832	87.2	24.82	929	90.80	26.57	4,966	392.3	63.69	5,552	389.2	67.01	391	363.71	51.67								
	(定)	15	441	50.1	23.51	470	54.8	24.48	169	55.15	23.54	128	491.6	104.42	165	507.0	124.77	16	385.50	72.03									
		16	410	54.6	25.24	356	57.6	24.83	166	60.25	25.26	129	479.9	99.71	133	509.3	131.37	19	419.53	64.50									
		17	342	56.9	26.57	326	56.7	25.67	169	61.92	24.56	111	485.1	96.43	128	495.9	114.97	17	395.71	48.16									
		18	257	55.4	25.43	196	49.3	24.11	154	58.58	23.31	58	464.0	75.13	79	549.3	196.12	13	385.31	47.44									
	女	小学校	6	/									1,092	15.29	6.56	/													
			7										1,111	21.30	9.04														
8			1,111										27.59	12.47															
9			1,119										33.63	14.89															
10			742										34.3	15.40	1,171										34.8	15.06	1,124	40.01	16.40
11			740										41.0	18.17	1,123										39.8	16.76	1,117	45.55	17.90
中学校		12	480	42.5	17.87	434	43.1	16.64	1,095	47.39	19.27	540	316.3	53.45	832	327.1	63.66	406	313.36	42.99									
		13	363	50.0	18.87	485	48.7	18.19	1,109	54.17	20.52	514	298.6	57.50	729	308.9	80.41	391	298.12	41.84									
		14	351	51.1	18.97	494	48.4	17.98	1,110	56.06	19.53	506	299.7	52.29	699	303.7	66.02	389	294.53	42.16									
		高等学校	15	11,556	46.2	15.88	11,457	46.0	15.74	952	48.74	18.05	4,380	321.3	45.81	4,928	320.5	44.66	372	307.60	40.32								
16			11,114	47.3	17.46	10,738	49.0	17.63	923	51.81	19.83	4,918	317.0	47.96	5,220	314.9	68.76	399	304.29	46.61									
(全)			10,833	48.3	17.90	10,407	48.9	17.94	927	51.13	20.25	4,766	315.5	47.73	5,157	314.5	49.86	385	309.01	48.15									
(定)		15	382	24.8	12.45	397	24.9	12.46	161	29.43	14.80	109	442.8	97.66	126	446.6	93.09	12	336.75	44.43									
		16	352	27.4	13.71	314	26.2	13.86	166	28.60	13.56	90	440.4	116.55	79	443.6	106.36	14	325.93	42.56									
		17	281	26.3	12.35	231	25.8	13.13	161	31.77	13.54	58	428.5	95.76	79	415.5	94.74	11	353.36	44.88									
		18	146	23.3	12.76	128	23.3	11.24	139	27.04	12.70	23	421.9	87.60	30	494.0	172.13	11	324.64	57.79									

146 23.34247 12.76

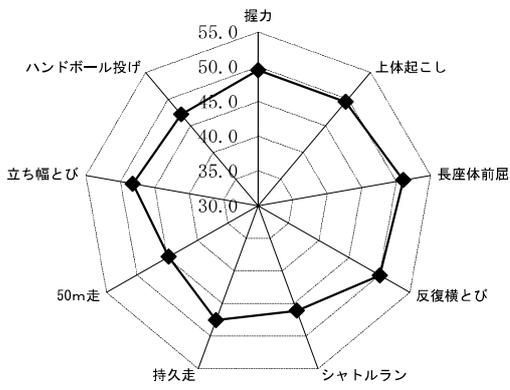
		50m 走									立ち幅とび										
		単位：秒									単位：cm										
		県			国			県			国										
		令和7年度			令和6年度			令和6年度			令和7年度			令和6年度							
		N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D		
男	小学校	6	697	11.7	1.23	983	11.6	1.36	1,085	11.59	1.04	696	111.7	19.84	961	112.1	19.29	1,100	116.02	17.05	
		7	697	10.8	1.95	1,208	11.0	1.36	1,096	10.69	0.87	696	124.5	19.52	1,208	122.7	21.22	1,102	126.53	18.30	
		8	713	10.3	1.39	1,242	10.3	1.10	1,115	10.19	0.93	716	135.5	21.26	1,243	133.0	19.16	1,099	135.44	18.94	
		9	733	9.8	1.15	1,235	9.9	1.01	1,117	9.70	0.85	734	145.5	21.48	1,235	144.1	22.27	1,096	145.59	18.52	
		10	752	9.4	1.03	1,271	9.6	1.03	1,112	9.38	0.92	752	156.2	51.77	1,270	151.8	22.02	1,092	154.01	20.71	
		11	763	9.0	1.02	1,145	9.1	1.07	1,120	8.90	0.85	762	163.4	24.33	1,145	161.0	25.91	1,100	166.56	22.59	
	中学校	12	1,020	8.7	0.96	1,340	8.8	1.02	1,354	8.41	0.79	1,025	181.0	25.35	1,340	177.7	26.80	1,349	187.07	25.84	
		13	908	8.2	0.98	1,242	8.1	1.27	1,361	7.82	0.69	908	198.7	28.20	1,246	196.4	28.02	1,358	203.20	25.14	
		14	942	7.7	0.76	1,191	7.7	0.80	1,393	7.47	0.62	943	212.8	27.11	1,197	209.9	27.73	1,359	216.97	24.00	
	高等学校	15	17,971	7.6	0.73	17,658	7.6	0.99	1,258	7.42	0.62	18,041	214.7	27.02	17,768	215.0	26.18	1,223	222.51	23.61	
		16	17,609	7.4	0.91	16,930	7.4	0.99	1,242	7.25	0.58	17,695	221.7	26.73	16,986	222.1	25.97	1,219	227.42	24.31	
		(全)	17,095	7.3	0.99	16,525	7.3	0.64	1,245	7.15	0.75	17,174	225.8	26.78	16,581	226.3	26.10	1,226	231.86	24.70	
		15	585	8.4	1.93	645	8.2	1.29	166	7.70	0.74	598	197.6	32.40	653	197.1	34.51	173	211.53	26.96	
	(定)	16	545	8.1	1.03	494	8.1	2.02	174	7.74	0.68	556	203.5	33.15	502	205.6	30.56	177	210.60	26.09	
		17	457	8.3	3.66	455	8.0	1.15	177	7.64	0.75	464	207.6	34.90	465	209.3	31.09	180	217.75	25.81	
		18	316	8.1	1.32	284	8.4	1.87	156	7.58	0.56	317	209.0	30.25	284	202.8	39.02	163	215.87	25.12	
	女	小学校	6	694	12.1	1.28	941	12.0	1.33	1,083	11.95	1.02	695	104.5	17.69	919	105.6	18.31	1,099	108.22	16.39
			7	672	11.1	1.07	1,125	11.3	1.27	1,090	11.07	0.89	674	117.3	17.86	1,125	117.8	17.67	1,099	117.90	16.56
8			705	10.6	1.00	1,118	10.6	1.03	1,099	10.43	0.90	706	127.9	18.58	1,117	127.7	18.04	1,100	128.02	17.49	
9			722	10.1	1.02	1,148	10.2	0.93	1,117	10.04	0.85	723	139.0	20.10	1,149	136.9	18.95	1,087	136.04	18.39	
10			742	9.8	0.96	1,194	9.8	0.95	1,122	9.64	0.87	741	145.5	20.13	1,190	145.9	19.90	1,100	145.38	19.89	
11			741	9.4	1.09	1,146	9.5	1.07	1,117	9.24	0.81	741	152.1	23.20	1,144	152.0	22.00	1,099	155.61	21.77	
中学校		12	1,024	9.3	1.11	1,294	9.3	0.97	1,375	9.07	0.77	1,024	164.1	24.60	1,300	161.0	24.18	1,349	166.43	22.66	
		13	879	9.1	0.94	1,218	9.0	0.87	1,381	8.80	0.79	880	171.5	24.03	1,231	164.4	29.33	1,354	172.38	24.02	
		14	861	8.9	0.87	1,214	9.0	0.94	1,388	8.66	0.74	861	173.7	25.07	1,221	169.2	26.26	1,368	176.79	23.33	
高等学校		15	16,255	9.2	1.06	16,605	9.1	1.42	1,245	8.87	0.77	16,313	167.0	23.92	16,697	167.1	23.32	1,219	172.52	22.57	
		16	16,210	9.1	1.34	16,139	9.0	0.93	1,223	8.79	0.78	16,281	168.0	23.94	16,190	170.2	23.33	1,221	175.76	22.02	
		(全)	15,811	9.1	1.12	15,736	9.0	1.13	1,225	8.83	0.85	15,889	170.6	24.43	15,808	171.8	23.15	1,223	174.77	22.72	
		15	505	10.3	1.83	536	10.0	1.30	156	9.38	0.87	519	144.0	29.16	550	148.2	26.72	168	159.17	22.92	
(定)		16	451	10.2	1.39	403	10.2	1.58	157	9.46	0.90	471	149.5	27.74	412	146.9	29.07	179	153.64	24.52	
		17	363	10.3	1.60	321	10.1	1.36	157	9.34	0.85	373	149.0	26.89	344	146.3	31.89	167	162.32	23.78	
		18	172	10.5	1.55	159	10.4	1.48	133	9.61	0.91	177	144.5	28.56	173	145.5	26.13	143	155.77	21.76	

		ボール投げ(小…ソフトボール、中・高…ハンドボール)									単位：m		
		県						国					
		令和7年度			令和6年度			令和6年度					
		N	M	S・D	N	M	S・D	N	M	S・D			
男子	小学校	6	697	8.0	3.49	964	8.0	8.02	1,096	8.34	3.30		
		7	697	11.0	4.58	1,197	10.5	4.76	1,099	11.80	4.85		
		8	717	14.1	6.08	1,244	13.3	5.80	1,102	15.05	5.97		
		9	735	17.4	7.19	1,235	16.9	7.28	1,097	18.95	7.21		
		10	752	20.4	8.13	1,271	19.3	7.95	1,093	21.67	8.14		
		11	762	23.8	9.64	1,137	22.9	9.41	1,101	25.67	9.47		
	中学校	12	1,022	17.8	5.55	1,335	16.9	5.34	1,354	18.38	5.36		
		13	909	19.5	6.20	1,247	20.2	6.32	1,374	21.36	6.30		
		14	942	22.7	6.39	1,193	22.6	6.67	1,372	23.96	6.57		
	高等学校	15	18,048	23.4	6.41	17,730	23.4	6.34	1,240	24.23	6.19		
		16	17,692	25.4	6.83	17,001	25.4	6.75	1,225	25.77	6.51		
		(全)	17,181	26.6	6.99	16,613	26.6	6.91	1,225	26.69	6.57		
	(定)	高等学校	15	595	20.4	6.35	653	20.5	6.18	182	21.41	6.01	
			16	551	21.5	6.57	498	22.0	6.67	184	21.44	5.81	
			17	460	23.2	7.98	461	22.8	6.42	183	22.61	6.29	
			18	318	23.3	6.60	288	23.8	6.60	163	22.95	6.35	
	女子	小学校	6	694	5.2	1.88	919	5.9	8.08	1,094	5.69	1.94	
			7	673	7.1	2.57	1,125	7.2	2.97	1,081	7.37	2.40	
8			707	8.9	3.23	1,118	9.3	3.74	1,072	9.47	3.07		
9			724	11.1	3.83	1,152	11.1	4.47	1,085	11.57	3.82		
10			741	12.7	6.02	1,193	12.9	4.78	1,088	13.56	4.61		
11			741	14.1	5.26	1,136	14.6	5.60	1,081	15.68	5.39		
中学校		12	1,024	11.5	4.03	1,299	10.8	3.48	1,357	11.43	3.92		
		13	881	13.0	4.58	1,230	12.1	4.27	1,356	13.14	4.42		
		14	861	13.3	4.56	1,220	13.1	4.58	1,368	14.38	4.61		
高等学校		15	16,317	13.3	4.19	16,686	13.3	4.10	1,226	13.80	4.33		
		16	16,296	14.0	4.44	16,232	14.4	4.44	1,219	14.47	4.48		
		(全)	15,928	14.8	4.57	15,846	14.9	4.56	1,217	14.64	4.41		
(定)		高等学校	15	519	11.0	3.67	555	11.2	4.70	172	11.48	3.78	
			16	470	11.8	5.06	412	11.3	3.86	180	11.30	3.41	
			17	369	11.8	5.28	333	11.4	3.84	171	12.71	4.18	
			18	176	11.6	3.80	166	11.9	4.09	147	12.33	4.07	

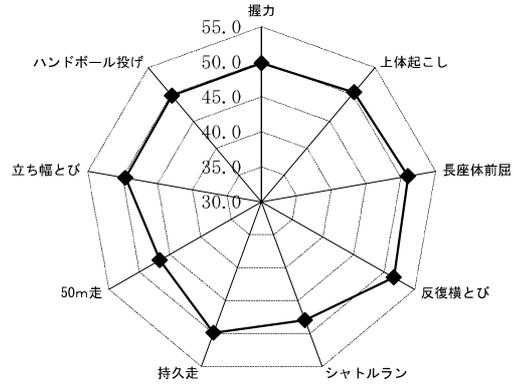
<令和7年度本県平均と令和6年度全国平均とのTスコアによる比較（グラフ）>



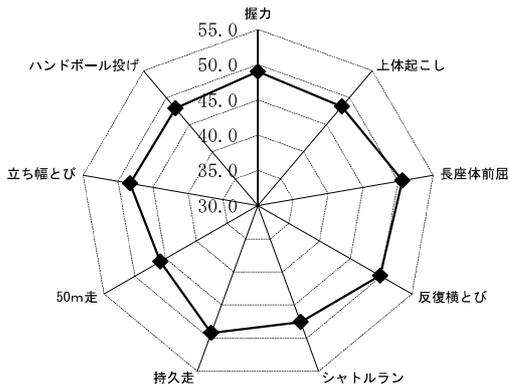
中2男(13歳)



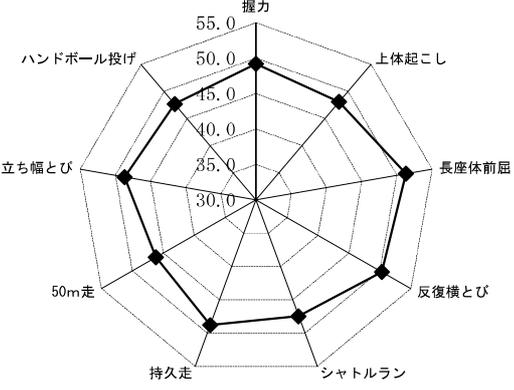
中2女(13歳)



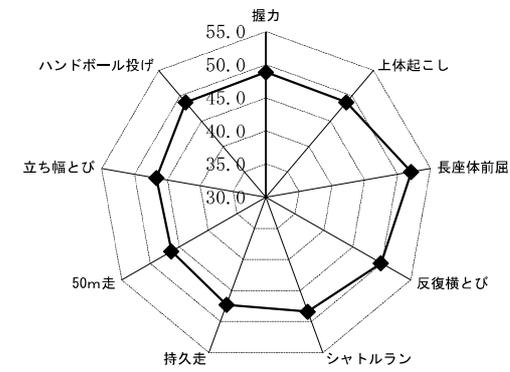
中3男(14歳)



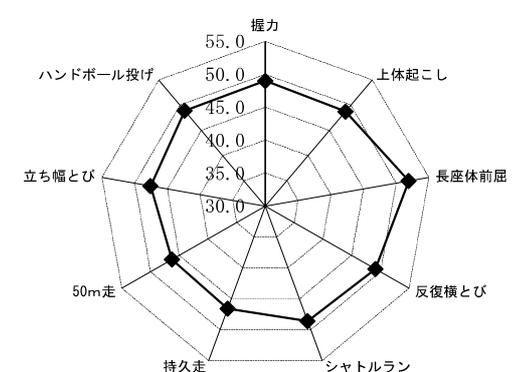
中3女(14歳)



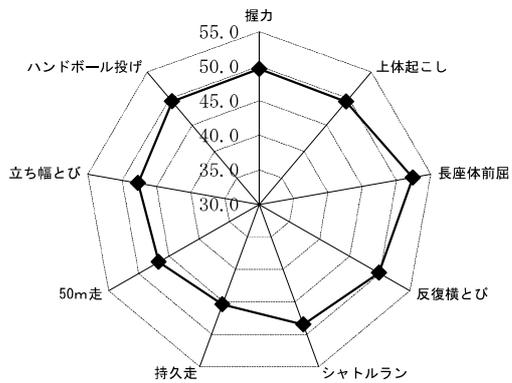
全高1男(15歳)



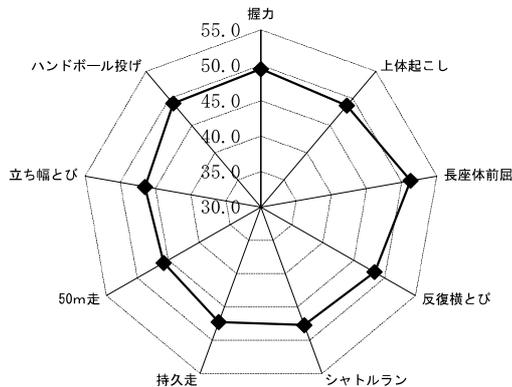
全高1女(15歳)



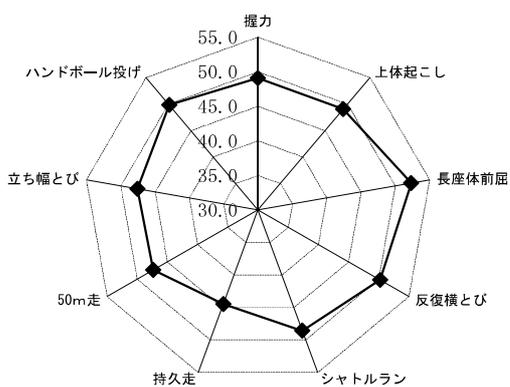
全高2男(16歳)



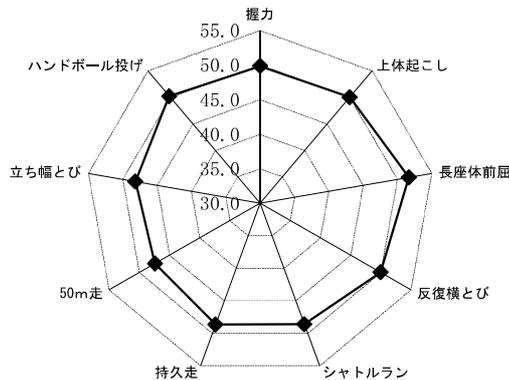
全高2女(16歳)



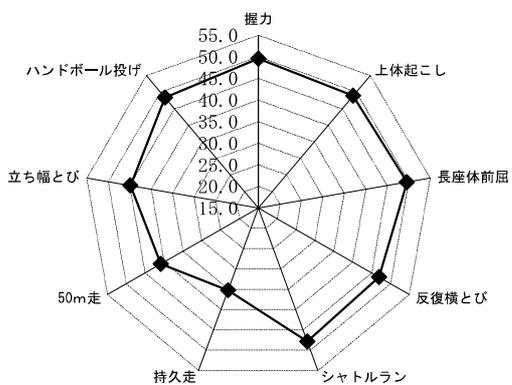
全高3男(17歳)



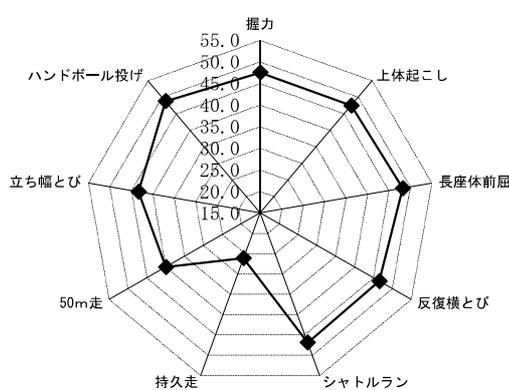
全高3女(17歳)



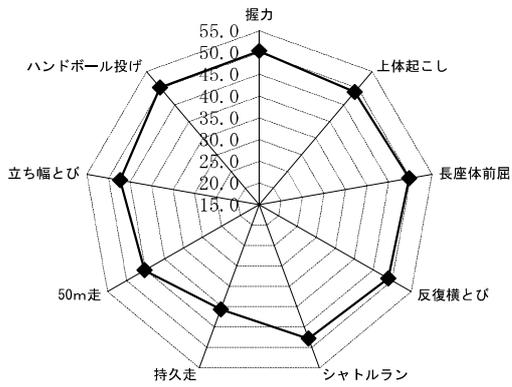
定高1男(15歳)



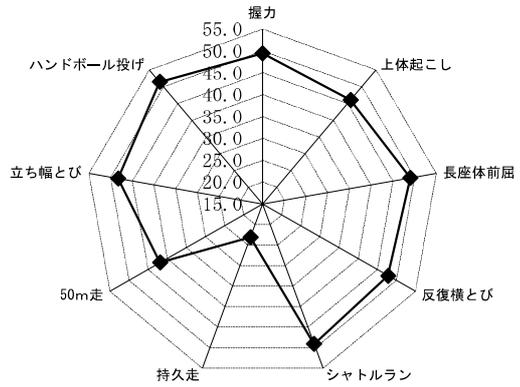
定高1女(15歳)



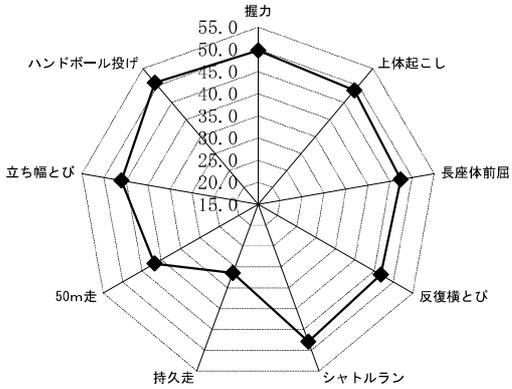
定高2男(16歳)



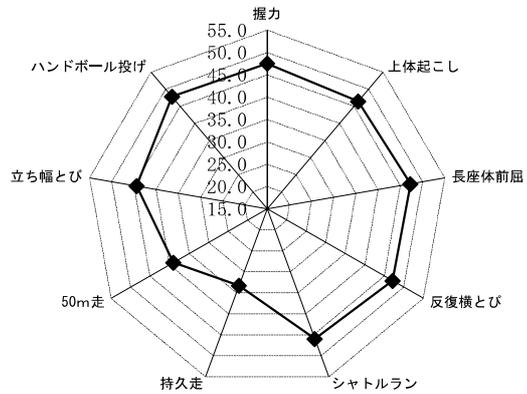
定高2女(16歳)



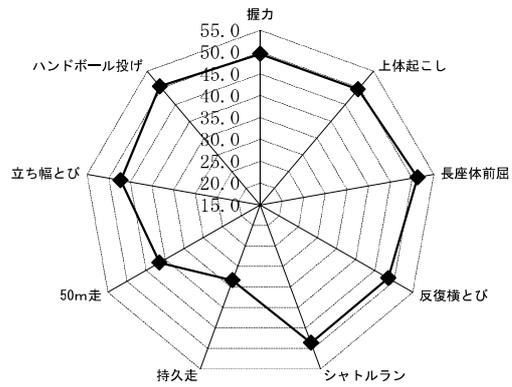
定高3男(17歳)



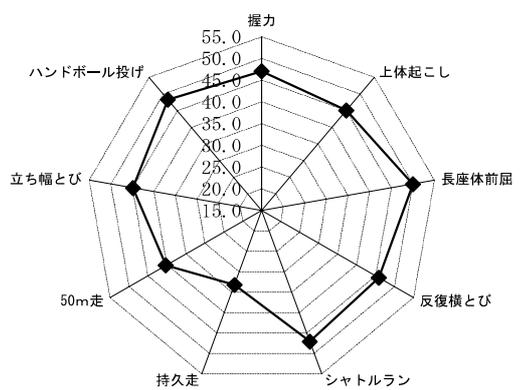
定高3女(17歳)



定高4男(18歳)

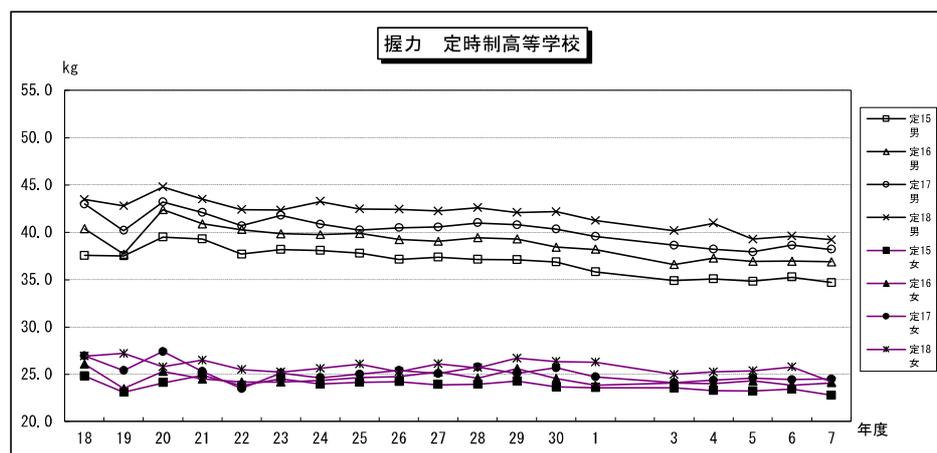
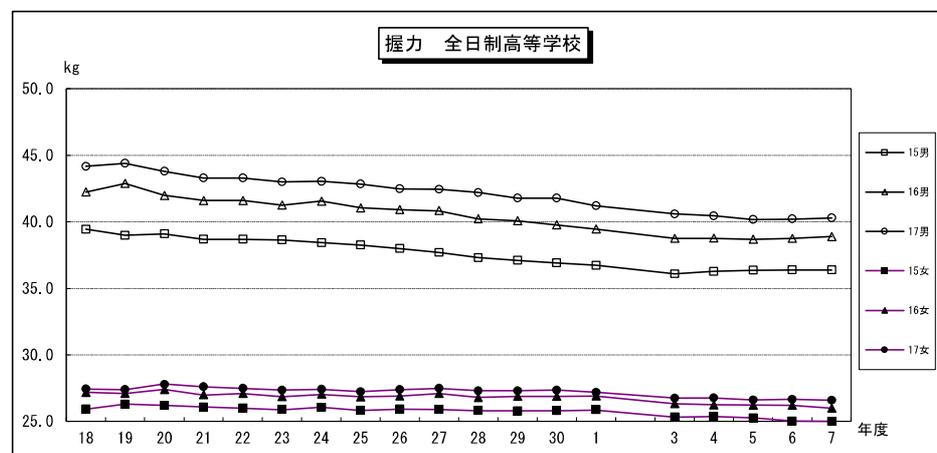
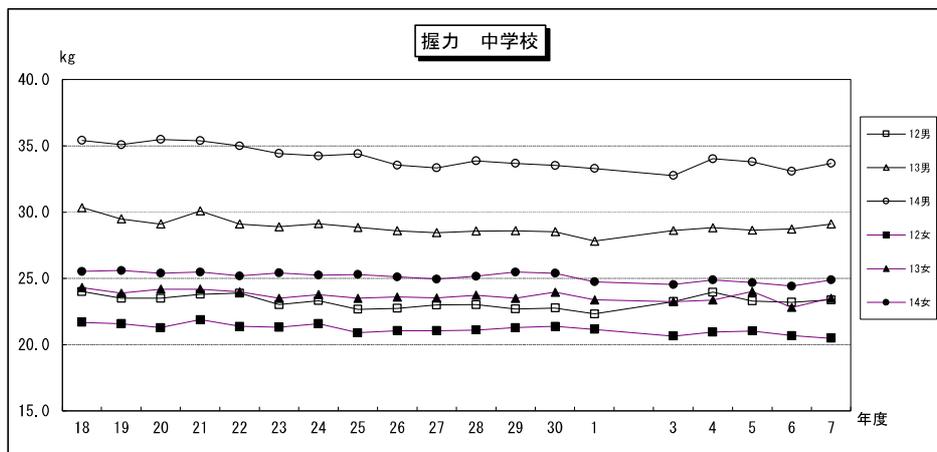
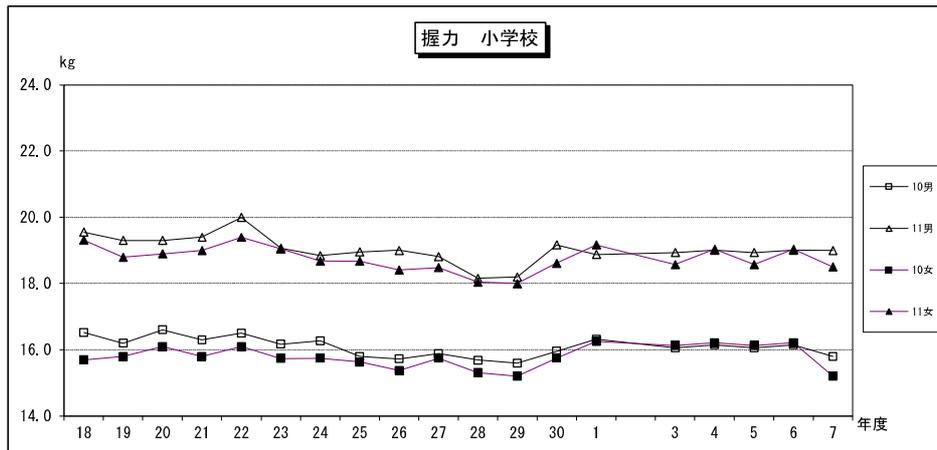


定高4女(18歳)

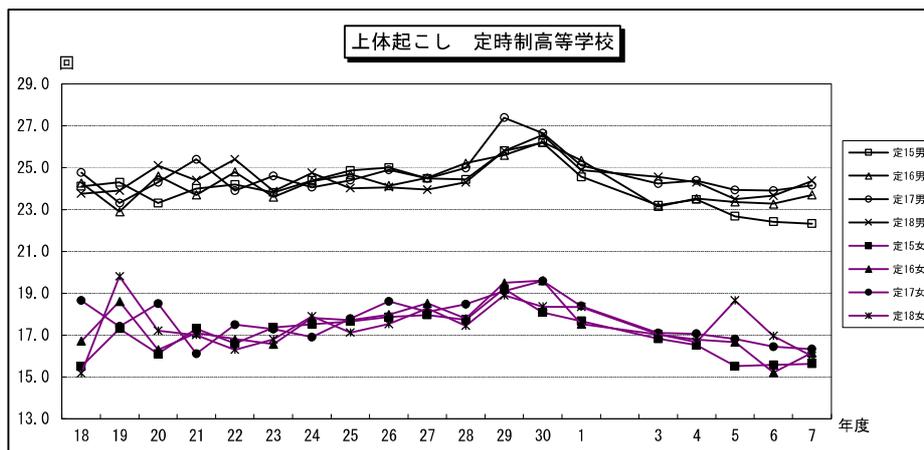
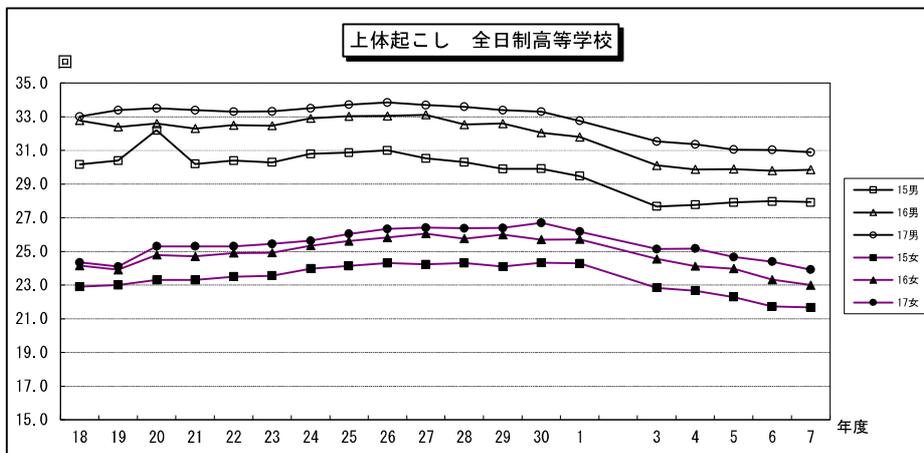
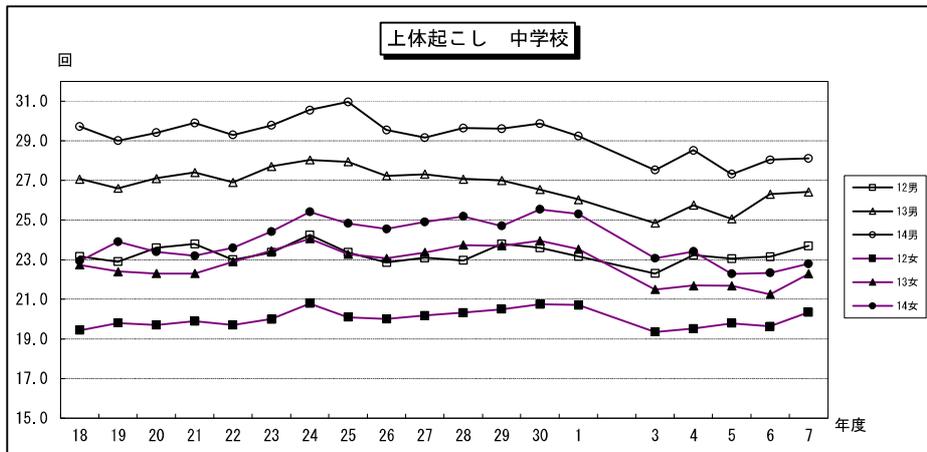
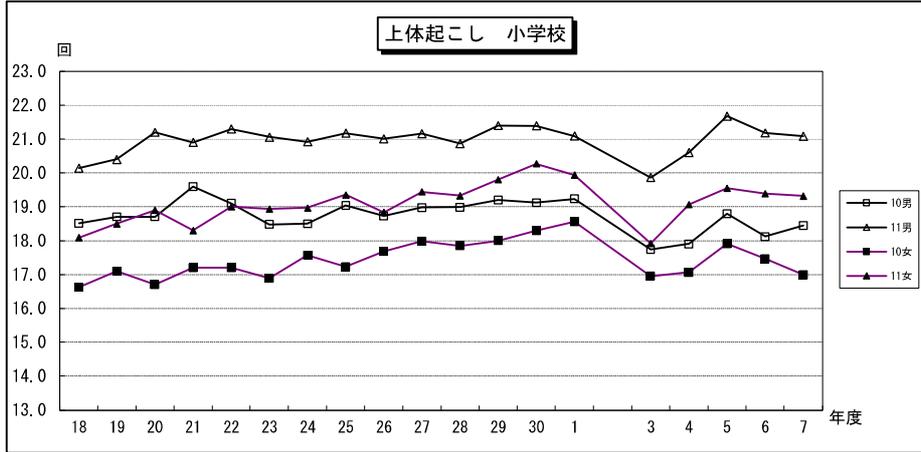


3 平成18年度～令和7年度の体力テスト結果県平均の推移

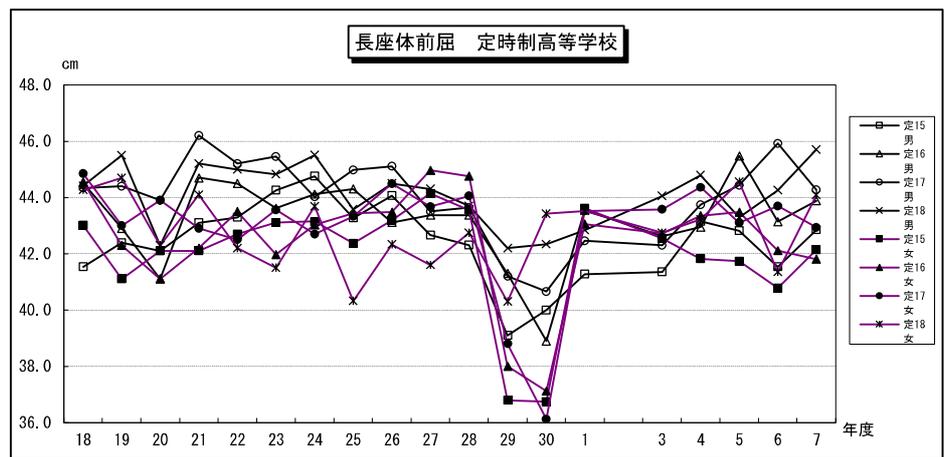
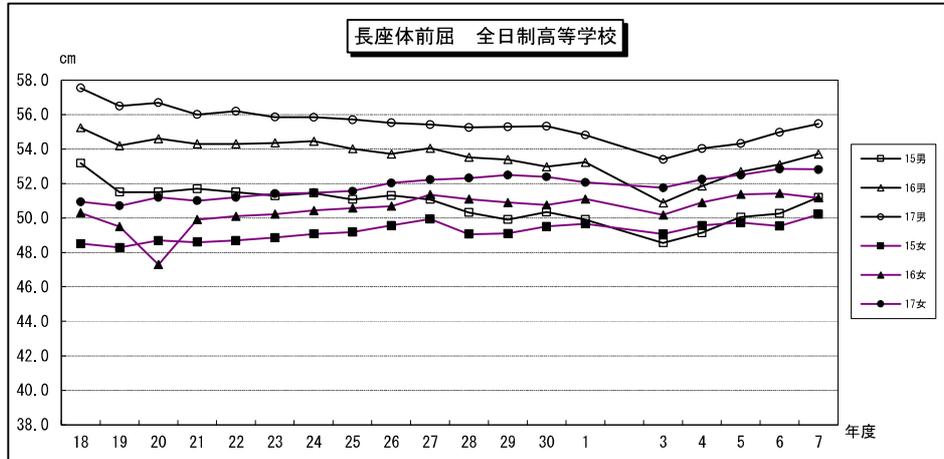
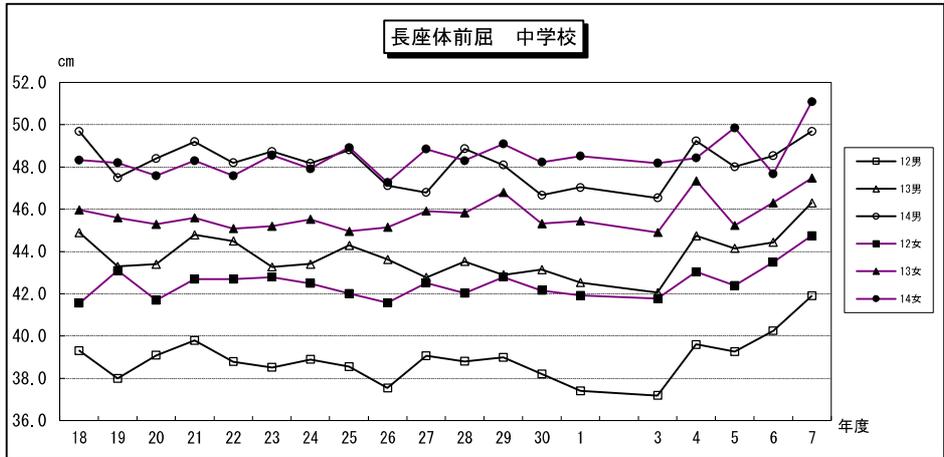
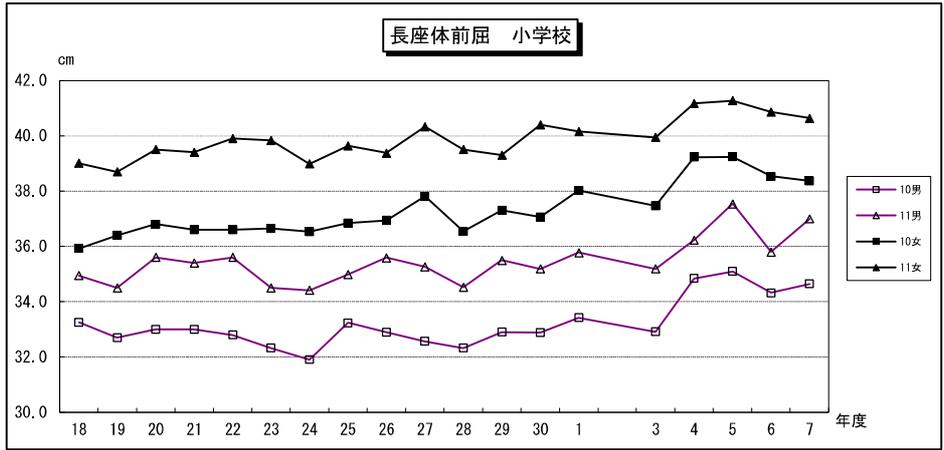
【握力】 平成18年度から令和7年度の県平均の推移



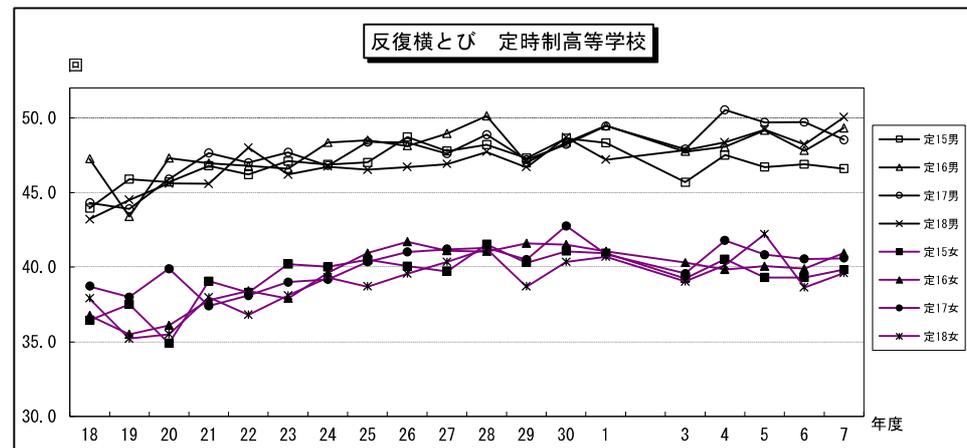
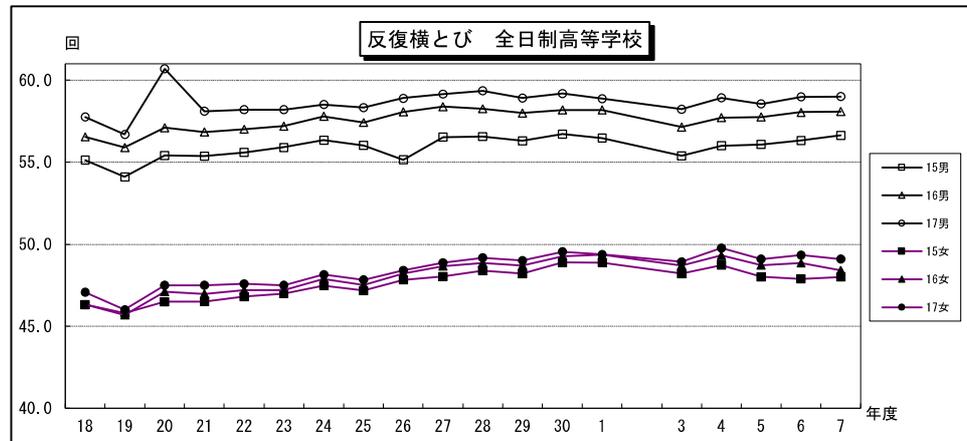
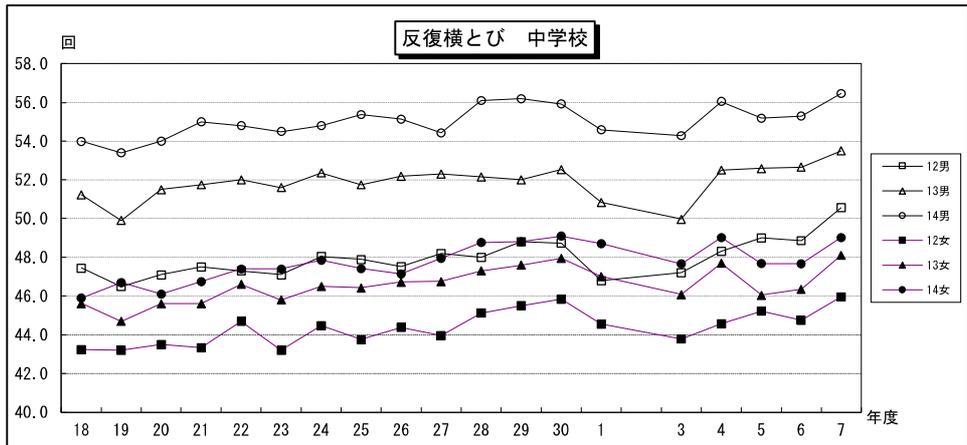
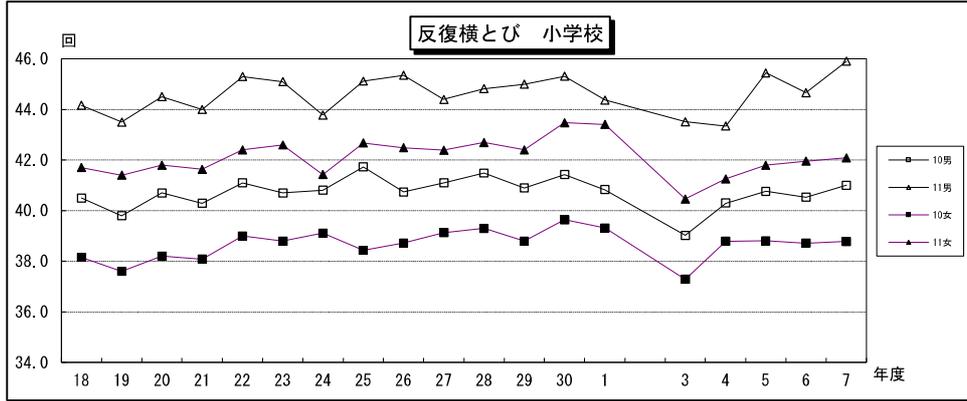
【上体起こし】 平成18年度から令和7年度の県平均の推移



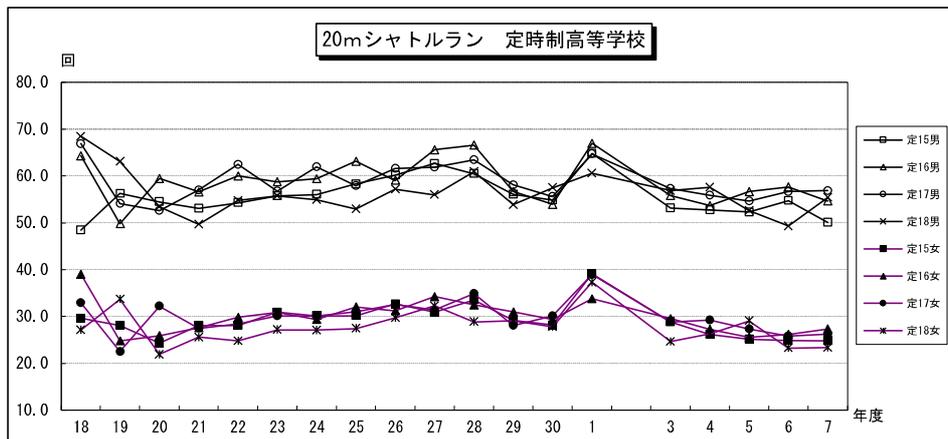
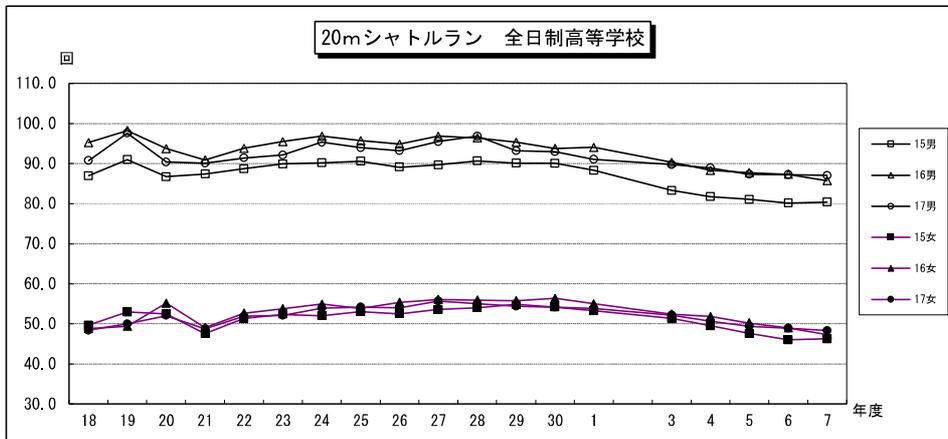
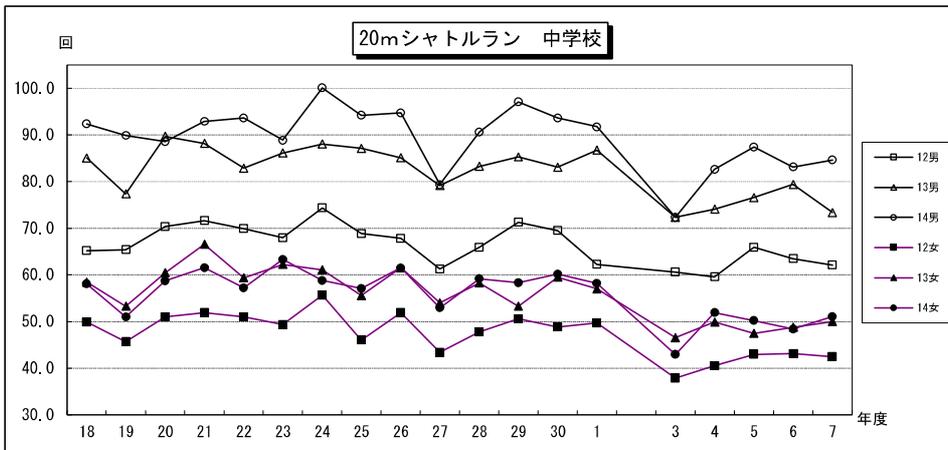
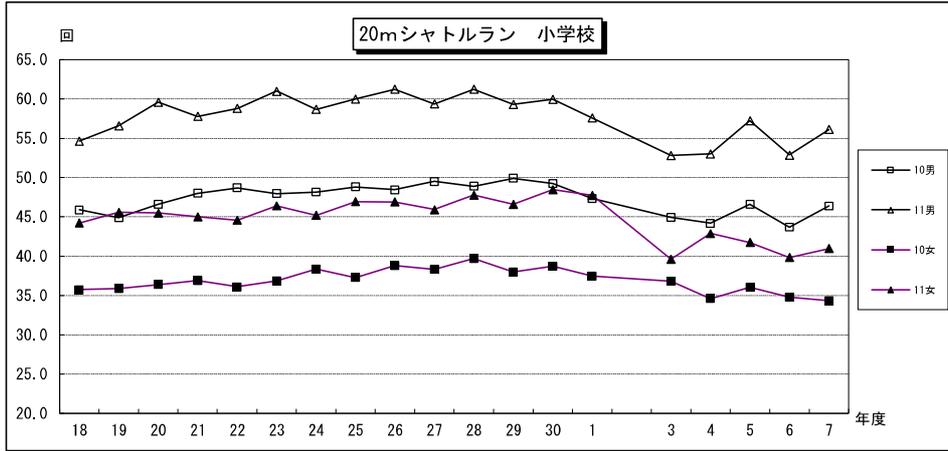
【長座体前屈】 平成18年度から令和7年度の県平均の推移



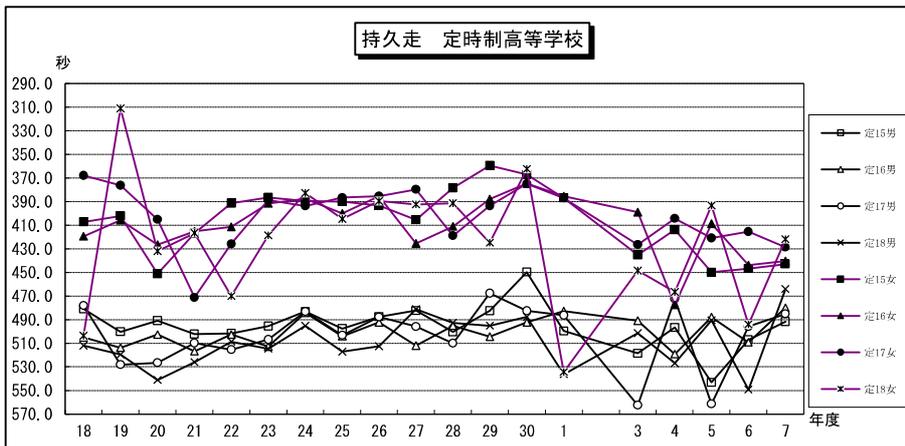
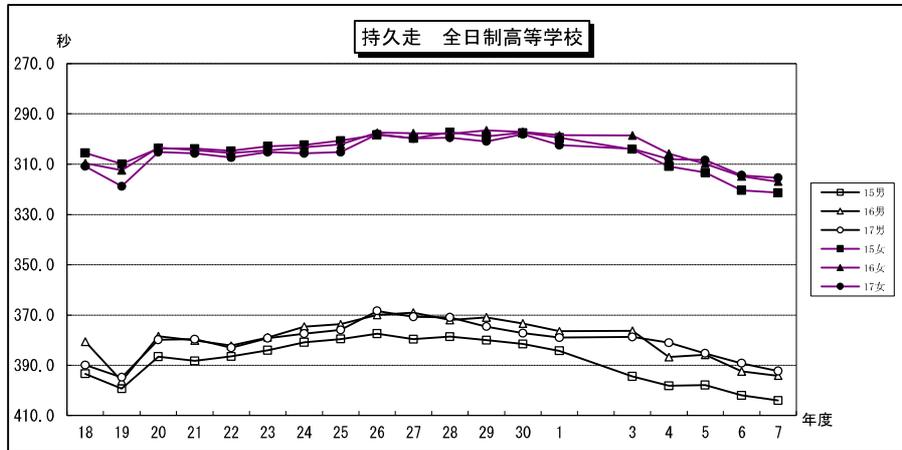
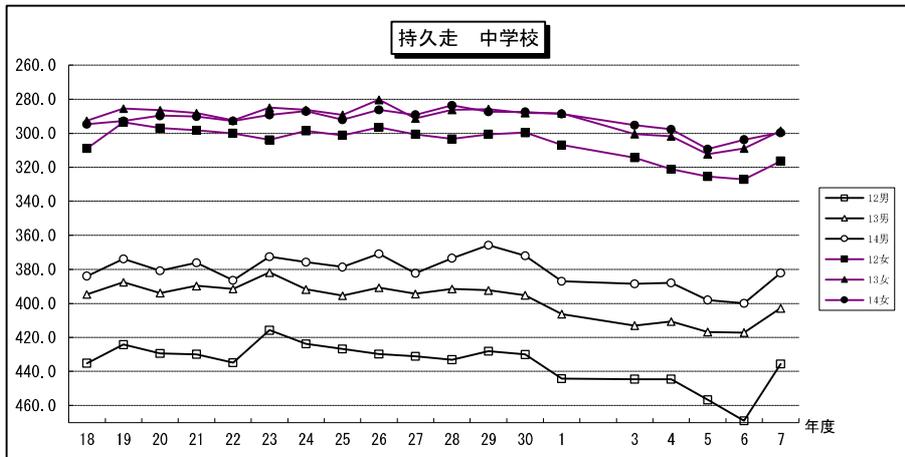
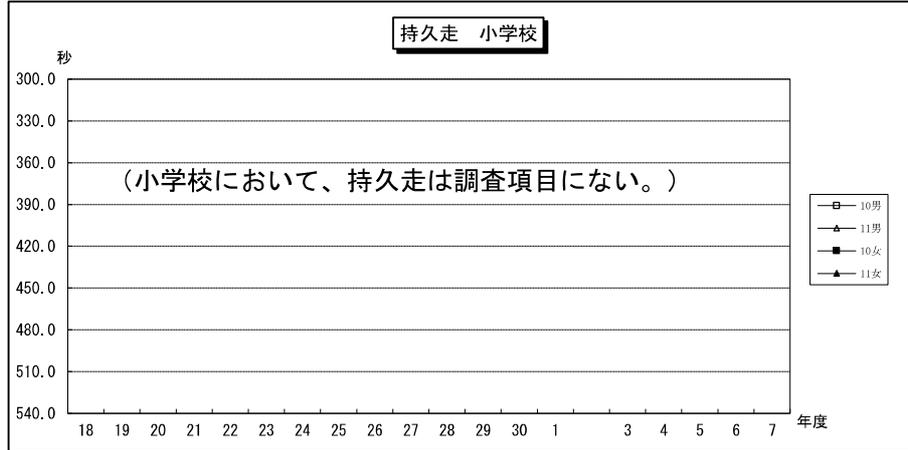
【反復横とび】 平成18年度から令和7年度の県平均の推移



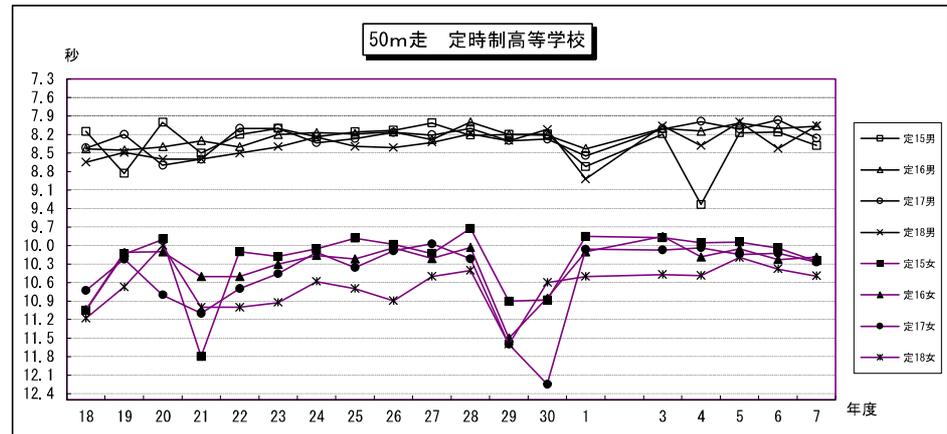
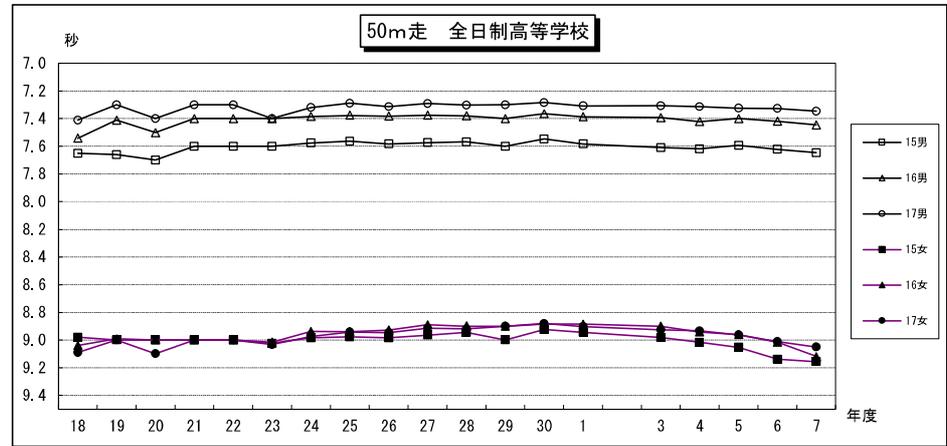
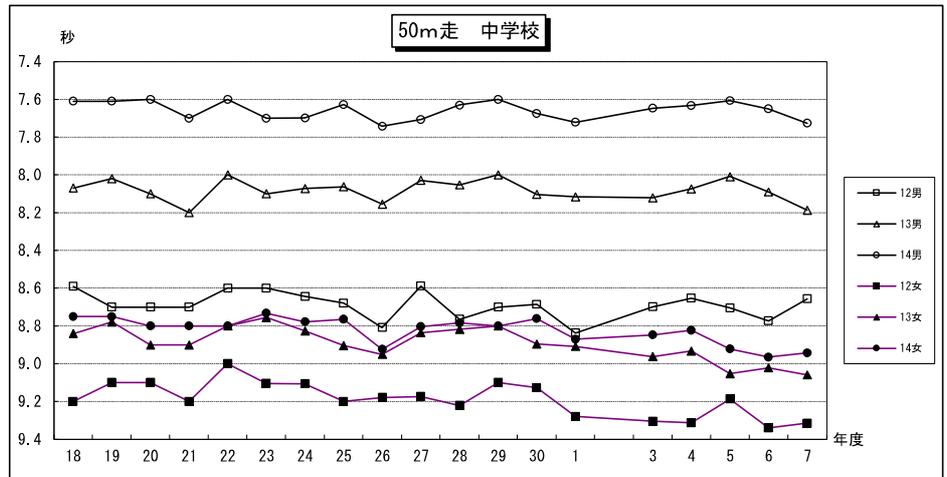
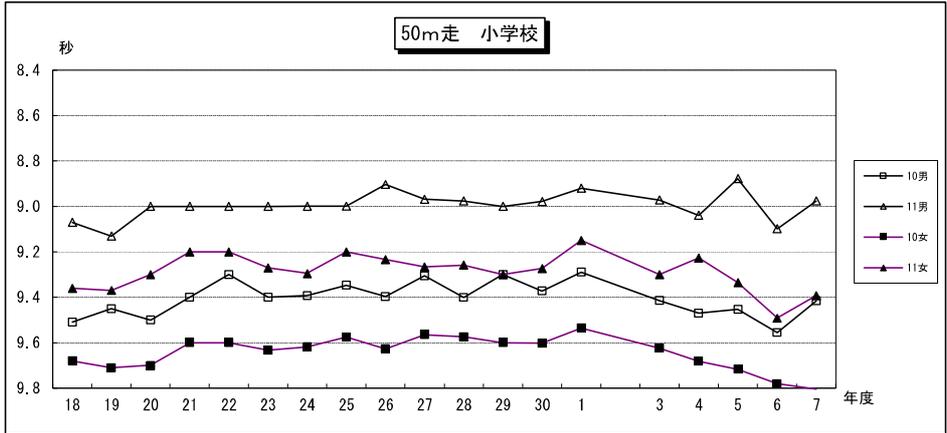
【20mシャトルラン】 平成18年度から令和7年度の県平均の推移



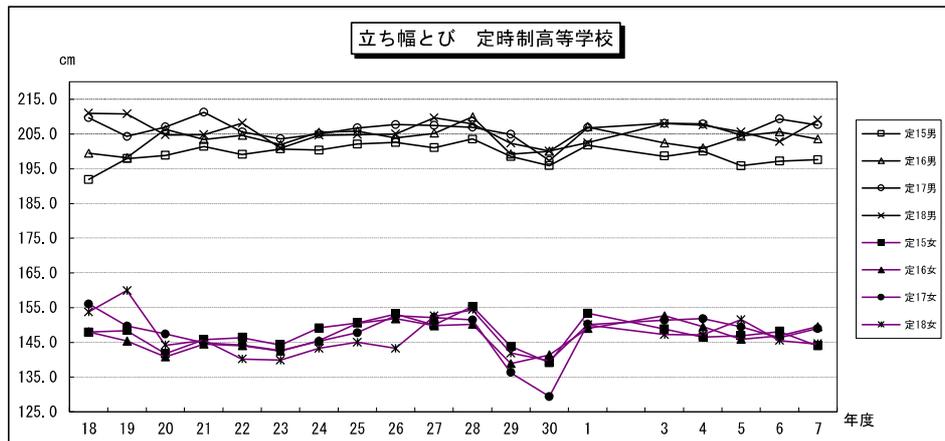
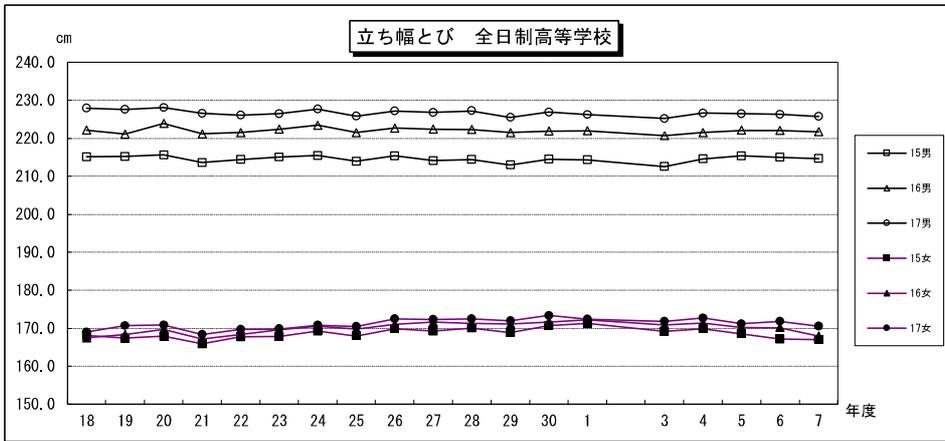
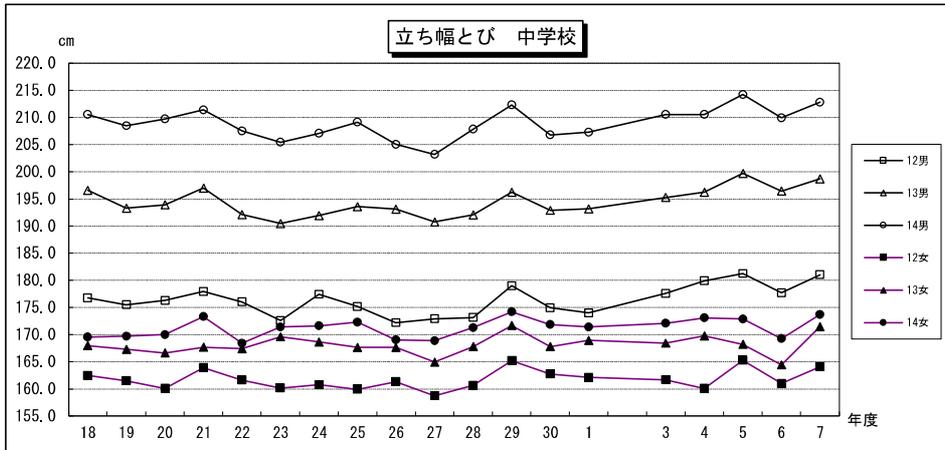
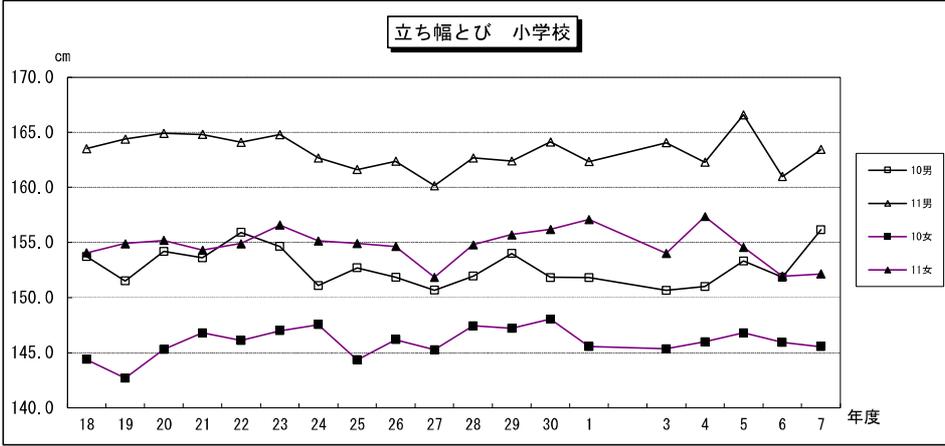
【持久走】 平成18年度から令和7年度の県平均の推移



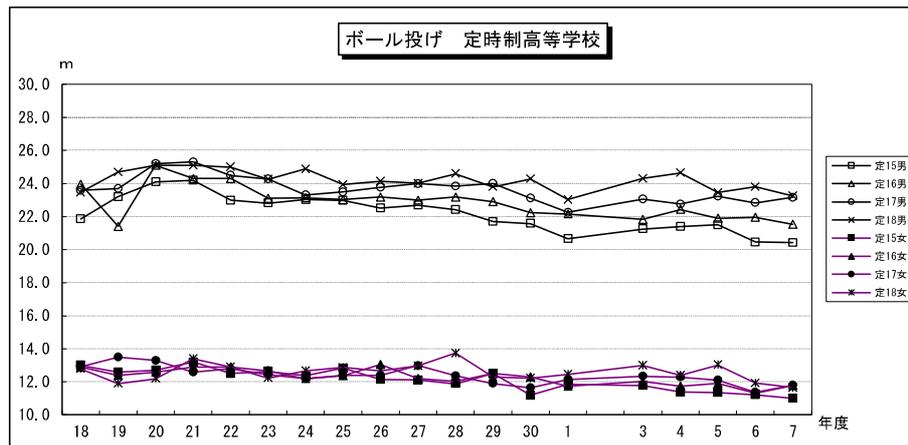
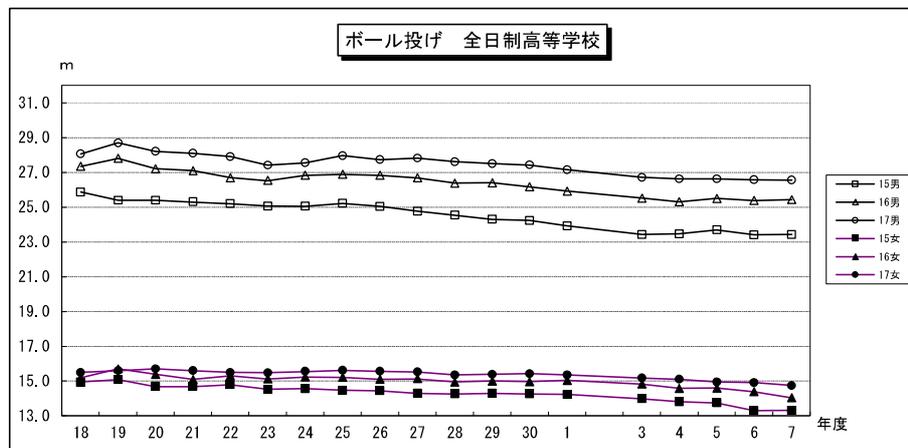
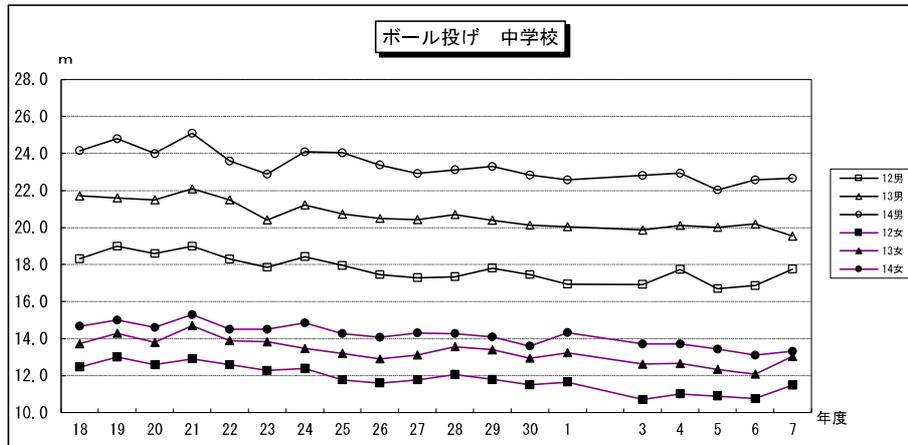
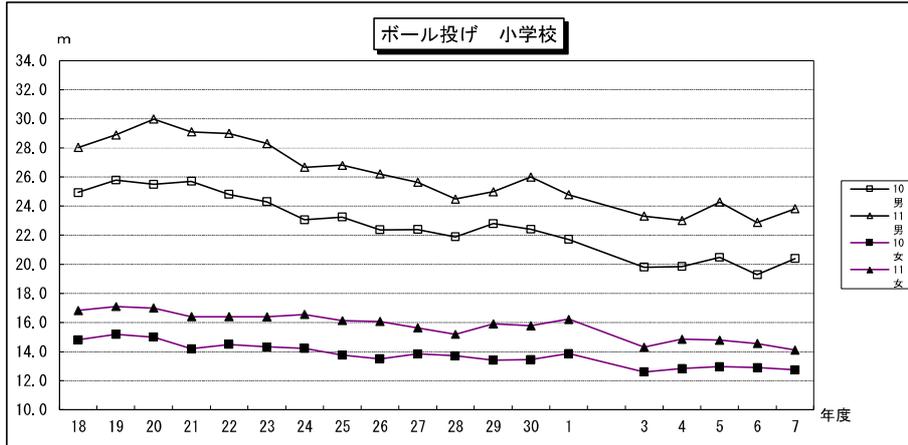
【50m走】 平成18年度から令和7年度の県平均の推移



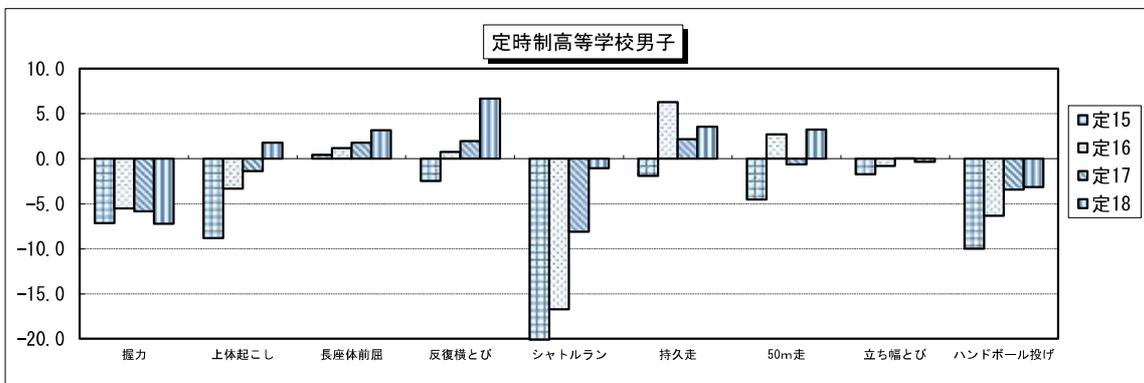
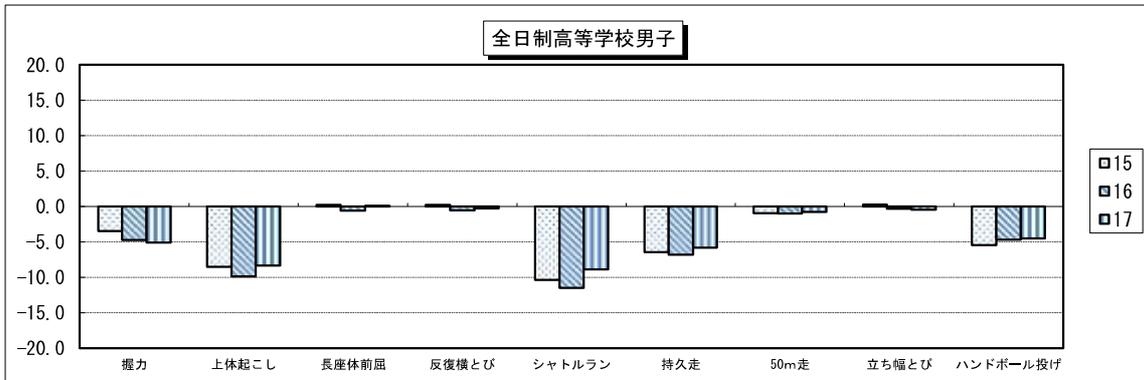
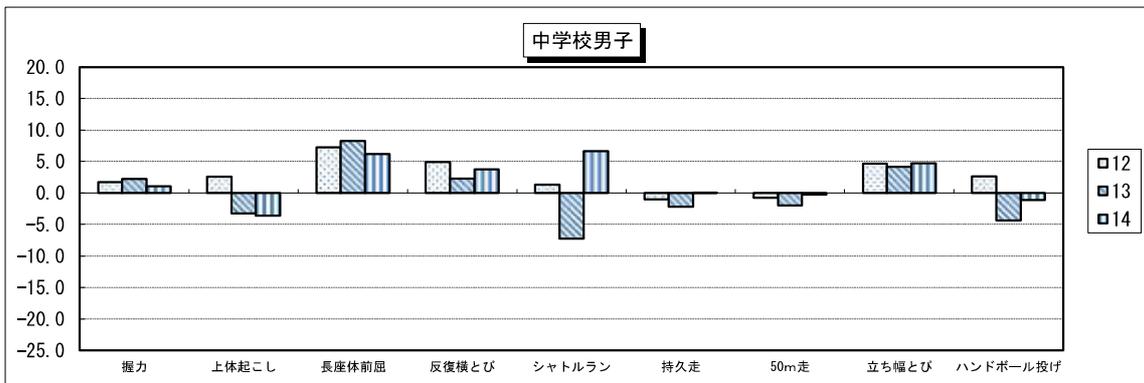
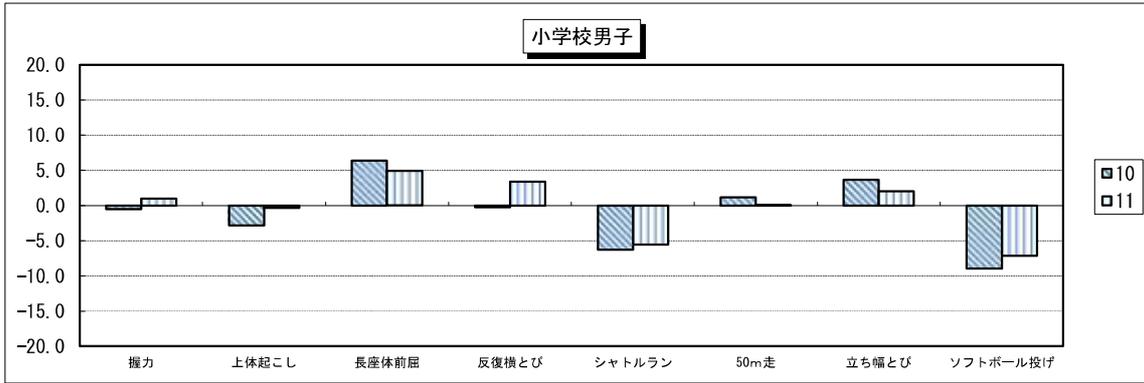
【立ち幅とび】 平成18年度から令和7年度の県平均の推移

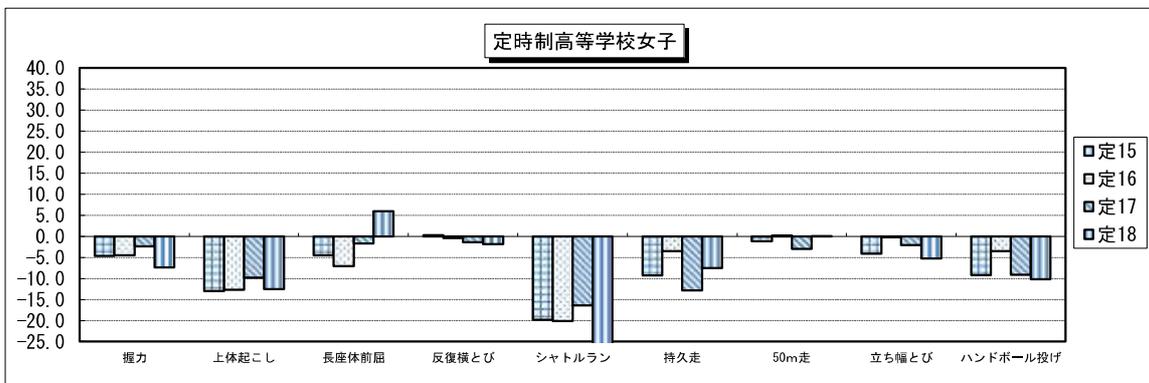
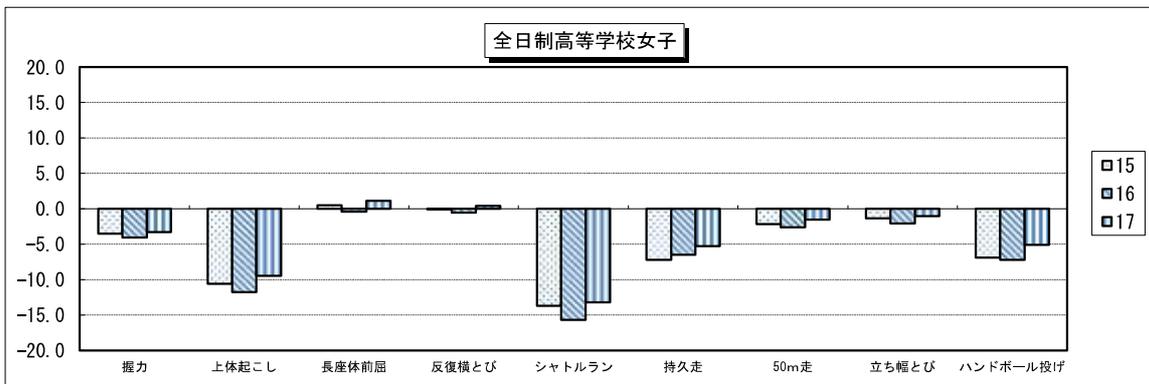
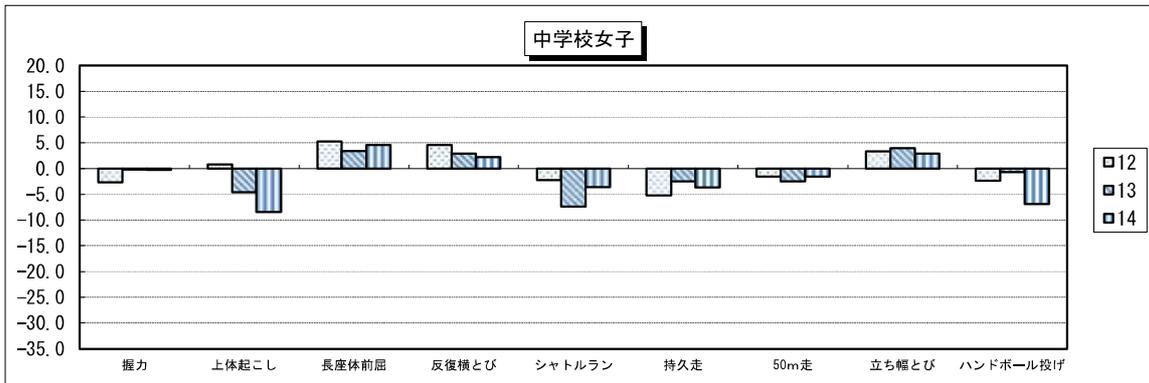
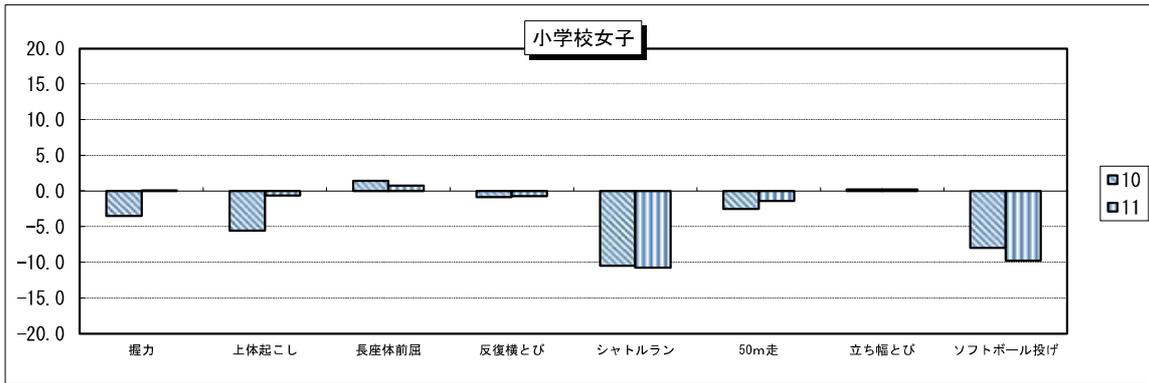


【ボール投げ】 平成18年度から令和7年度の県平均の推移
 (小…ソフトボール 中・高…ハンドボール)



4 10年前との比較(平成27年度県平均を100としたときの指数【令和7年度県平均との差】)





5 令和7年度本県と令和6年度全国との合計点平均値比較

	男子						女子						
	本県(R 7)			国(R 6)			本県(R 7)			国(R 6)			
	区分	標本数	得点平均	標準偏差	標本数	得点平均	標準偏差	標本数	得点平均	標準偏差	標本数	得点平均	標準偏差
小学校	10歳	748	52.69	9.70	1,043	54.06	8.59	739	52.84	9.07	1,048	55.54	8.27
	11歳	758	59.19	10.14	1,061	60.96	8.82	739	58.54	9.81	1,047	60.97	8.53
中学校	12歳	1,019	34.27	9.70	1,249	35.94	9.02	1,020	42.68	11.28	1,243	44.26	10.60
	13歳	904	41.73	11.73	1,289	44.20	10.20	876	48.49	11.65	1,272	49.62	11.21
	14歳	939	48.24	11.37	1,309	50.93	10.43	857	50.81	12.14	1,296	53.66	10.96
高等学校 (全日制)	15歳	17,293	49.33	10.88	1,178	51.23	10.39	15,667	48.75	11.43	1,170	50.98	10.90
	16歳	17,038	53.59	11.37	1,176	55.03	11.07	15,633	50.66	11.93	1,149	53.58	11.31
	17歳	16,489	55.84	11.20	1,175	57.52	10.82	15,236	52.65	11.91	1,149	53.65	10.41
高等学校 (定時制)	15歳	539	36.97	11.04	142	43.11	10.41	459	33.70	10.24	142	40.60	10.67
	16歳	514	40.22	11.63	156	43.14	10.84	416	36.02	10.73	134	41.14	10.40
	17歳	431	41.87	11.46	158	46.36	10.82	319	36.58	11.26	145	43.51	10.41
	18歳	300	42.81	11.34	144	45.62	10.14	156	35.08	11.57	119	41.54	11.01

6 結果のまとめ

(1) 本県（令和6年度）との差の検証

本年度の調査では、中学校の男女を中心に多くの項目で回復の兆しが見られる一方、高等学校の女子において低下傾向が顕著となっています。小学校では、10歳と11歳の男子において「20mシャトルラン」や「ボール投げ」などの項目で昨年度の平均値を上回り、体力の向上が見られました。一方で、10歳の女子は多くの項目で昨年度を下回る結果となりました。また、6歳の男女は3項目全てで昨年度より下回る結果となりました。中学校については、男子が全年齢で「長座体前屈」や「反復横跳び」、「持久走」において昨年度を有意に上回っており、校種別で最も強い回復傾向を示しました。高等学校では、全日制男子の全年齢で「握力」や「長座体前屈」が向上したものの、16歳と17歳の全日制女子は全種目、定時制男子の全年齢で「握力」が昨年度より下回る結果となりました。

(2) 全国（令和6年度）との差の検証

本県の児童生徒の体力は、依然として全校種多くの項目において全国平均を下回っています。また、合計点の平均値も全国平均に達していない厳しい状況が続いており、早急な対策が必要です。項目別に見ると、男女ともに多くの年齢で「長座体前屈」が全国平均を上回っており、本県の強みとなっております。しかし、その一方で「持久走」や「50m走」、「立ち幅とび」等は多くの年齢で全国平均を有意に下回っており、走力や跳躍力に依然として課題があることが浮き彫りとなりました。全校種を通じた本県の特徴として、柔軟性には優れるものの、筋持久力や投力が低いという共通の課題が確認されています。

(3) 平成18年度～令和7年度の県平均推移

長期間の推移を概観すると、「長座体前屈」および「反復横とび」については、平成18年度付近から多少の変動はあるものの、上昇傾向を維持しています。これには、各校で取り組まれている技能習得のためのスモールステップによる指導の工夫や、ICT活用による「動きの可視化」が寄与されていると考えられます。対照的に「握力」や「持久走」、「ボール投げ」は全校種において長期的な低下傾向を示しています。特に「ボール投げ」の低下幅は全校種で依然として大きく、児童生徒の投げる動作を行う機会の不足が深刻な課題となっています。「上体起こし」や「50m走」、「立ち幅とび」については、年度によって多少の上下動はあるものの、全体としては横ばい、あるいは微減の状態です。

(4) 本県10年前（平成27年度）との比較

10年前と比較すると、すべての校種において「長座体前屈」の記録が顕著に向上しており、

柔軟性の高まりが見られます。また、中学校男子では「反復横とび」や「立ち幅とび」においても向上が確認されました。しかし、その一方で「20mシャトルラン」や「持久走」、「ボール投げ」の記録はすべての校種で大幅に低下しています。特に女子や定時制高校での低下が目立っており、これには運動習慣の二極化や、外遊びおよび日常的な運動時間の減少が長期的な影響を及ぼしていると考えられます。

(5) 今後に向けて

本年度の調査では中学校男子などで回復の兆しが見られたものの、県全体としては依然としてコロナ禍前の令和元年度水準までの回復には至っていません。体力の向上や低下については、さまざまな要因が関わっていると考えられますが、スポーツ庁の調査によれば、「体育の授業が楽しい」と答える児童生徒の割合が高い都道府県ほど、体力テストの合計点が高い傾向にあります。本県においても、体力上位県に比べて運動を「好き」で「進んで参加する」生徒の割合が低いことが大きな課題です。したがって、今後の体力向上に向けては、単なるトレーニングの繰り返しではなく、児童生徒が主体的に「楽しい」と思える質の高い授業づくりを推進することが不可欠です。具体的な取組として、運動が苦手な児童生徒でも活躍できる種目の導入や、ICTを活用した自己の変容の視覚化により、技能習得の過程そのものを楽しませ、達成感を保障していく必要があります。さらに、外部講師や地域のトップアスリートとの連携を通じた専門性の高い指導で運動の魅力を伝えるとともに、学校・家庭・地域が連携して「体育の時間以外」でも自ら体を動かしたくなる環境を整え、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基盤を育成していくことが重要です。

※資料

1 本県令和7年度と本県令和6年度の平均値比較

○…前年度を上回る ▼…前年度を下回る 塗りつぶしは5%水準で有意差あり

		男 子							女 子													
		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20メートルラン	シャトルラン	持久走	50メートル走	立ち幅とび	ボール投げ	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20メートルラン	シャトルラン	持久走	50メートル走	立ち幅とび	ボール投げ	
小学校	6								▼	▼	▼									▼	▼	▼
	7								○	○	○									○	▼	▼
	8								○	○	○									▼	○	▼
	9			○	○				○	○	○				○	○				○	○	▼
	10	○	○	○	○	○			○	○	○	▼	▼	▼	○	▼				▼	▼	▼
	11	▼	▼	○	○	○			○	○	○	▼	▼	▼	○	○				○	○	▼
中学校	12	○	○	○	○	▼	○	○	○	○	▼	○	○	○	○	▼	○	○	○	○	○	○
	13	○	○	○	○	▼	○	▼	○	▼	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	14	○	○	○	○	○	○	▼	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高等学校 (全日制)	15	○	▼	○	○	○	▼	▼	▼	○	▼	▼	○	○	○	▼	○	○	▼	▼	▼	○
	16	○	○	○	○	▼	▼	▼	▼	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
	17	○	▼	○	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
高等学校 (定時制)	15	▼	▼	○	▼	▼	○	▼	○	▼	▼	○	○	○	▼	○	○	○	▼	▼	▼	▼
	16	▼	○	○	○	▼	○	○	▼	▼	○	○	▼	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	17	▼	○	▼	▼	○	○	▼	▼	○	○	▼	▼	○	○	○	○	○	▼	○	○	○
	18	▼	○	○	○	○	○	○	○	▼	▼	▼	○	○	○	○	○	○	▼	▼	▼	▼

2 本県令和7年度と全国令和6年度の平均値比較

○…全国を上回る ▼…全国を下回る 塗りつぶしは5%水準で有意差あり

小学校	6								▼	▼	▼									▼	▼	▼
	7								▼	▼	▼									▼	▼	▼
	8								▼	○	▼									▼	▼	▼
	9			○	▼				▼	▼	▼				○	▼				▼	○	▼
	10	▼	▼	○	▼	▼			▼	○	▼	▼	▼	○	▼	▼				▼	○	▼
	11	▼	▼	○	▼	▼			▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
中学校	12	▼	▼	○	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	○	○	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	○	○
	13	▼	▼	○	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	○	○	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
	14	▼	▼	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	○	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
高等学校 (全日制)	15	▼	▼	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
	16	▼	▼	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
	17	▼	▼	○	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	○	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	○	○
高等学校 (定時制)	15	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
	16	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	○	○
	17	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
	18	▼	▼	○	▼	▼	▼	▼	○	▼	▼	▼	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼

※ 全国のデータは令和6年度分(令和7年10月 スポーツ庁発表)

Ⅱ 特別支援学校児童生徒の体力テスト 調査結果

1 調査の概要

(1) 調査の実施期間

令和7年5月～7月

(2) 調査の方法・内容・項目

ア 県立31校（校舎含む）、豊橋市立1校、瀬戸市立1校、刈谷市立1校、豊田市立1校、計35校の特別支援学校から提出された児童生徒の新体力テスト集計報告書を各部別・学年別に集計した。ただし、小学部については5年・6年のみ集計した。平均値は、各校実施者数に各校平均値を乗じた数を合計し、これを総実施者数で除して算出した。

イ 調査項目

(ア) 盲学校

a 小学部5年・6年

- | | | | |
|-------------|---------|---------|---------|
| ① 握力（右・左） | ② 上体起こし | ③ 長座体前屈 | ④ 反復横とび |
| ⑤ 20mシャトルラン | ⑥ 50m走 | ⑦ 立ち幅とび | |
| ⑧ ソフトボール投げ | | | |

b 中学部・高等部

- | | | | |
|-------------|-------------------------|------------|---------|
| ① 握力（右・左） | ② 上体起こし | ③ 長座体前屈 | ④ 反復横とび |
| ⑤ 20mシャトルラン | 又は 持久走（男子1500m・女子1000m） | | |
| ⑥ 50m走 | ⑦ 立ち幅とび | ⑧ ハンドボール投げ | |

(イ) 聾学校

a 小学部5年・6年

- | | | | |
|-------------|---------|---------|---------|
| ① 握力（右・左） | ② 上体起こし | ③ 長座体前屈 | ④ 反復横とび |
| ⑤ 20mシャトルラン | ⑥ 50m走 | ⑦ 立ち幅とび | |
| ⑧ ソフトボール投げ | | | |

b 中学部・高等部・専攻科

- | | | | |
|-------------|-------------------------|------------|---------|
| ① 握力（右・左） | ② 上体起こし | ③ 長座体前屈 | ④ 反復横とび |
| ⑤ 20mシャトルラン | 又は 持久走（男子1500m・女子1000m） | | |
| ⑥ 50m走 | ⑦ 立ち幅とび | ⑧ ハンドボール投げ | |

(ウ) 知的障害特別支援学校

a 小学部 5年・6年

- ① 握力（右・左） ② 上体起こし ③ 長座体前屈 ④ 反復横とび
⑤ 20mシャトルラン ⑥ 50m走 ⑦ 立ち幅とび
⑧ ソフトボール投げ

b 中学部・高等部

- ① 握力（右・左） ② 上体起こし ③ 長座体前屈 ④ 反復横とび
⑤ 20mシャトルラン 又は 持久走（男子 1500m・女子 1000m）
⑥ 50m走 ⑦ 立ち幅とび ⑧ ハンドボール投げ

(エ) 病弱特別支援学校

a 小学部 5年・6年

- ① 握力（右・左） ② 上体起こし ③ 長座体前屈 ④ 反復横とび
⑤ 20mシャトルラン ⑥ 50m走 ⑦ 立ち幅とび
⑧ ソフトボール投げ

b 中学部・高等部

- ① 握力（右・左） ② 上体起こし ③ 長座体前屈 ④ 反復横とび
⑤ 20mシャトルラン 又は 持久走（男子 1500m・女子 1000m）
⑥ 50m走 ⑦ 立ち幅とび ⑧ ハンドボール投げ

(オ) 肢体不自由特別支援学校

小学部 5年・6年・中学部・高等部

- ① 握力（右・左） ② 上体起こし ③ 長座体前屈 ④ 反復横とび
⑤ 5分間走 ⑥ 30m走 ⑦ スラローム ⑧ ソフトボール投げ

(3) 集計結果の見方

盲学校・聾学校・知的障害特別支援学校・病弱特別支援学校については、各学年男女別で在籍者合計、実施者合計及び各項目の平均値を記載した。

肢体不自由特別支援学校については、小学部 5年・6年・中学部・高等部それぞれ全体で在籍者合計、実施者合計及び各項目の平均値を記載した。

単位については、在籍者・実施者…人、握力…kg、上体起こし…回、長座体前屈…回、反復横とび…回、20mシャトルラン…回、持久走…秒、50m走…秒、立ち幅とび…cm、ボール投げ…m、5分間走…m、30m走…秒である。

2 集計の結果

小学部 5年

男子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	3	1	11.0	10.0	27.0	17.0	3.0	—	15.9	39.0	3.0
聾	9	9	12.0	12.0	27.7	28.2	19.2	—	12.2	104.2	12.4
知的障害	148	62	6.6	5.6	24.7	22.1	4.5	355.3	21.9	61.6	4.1
病弱	1	0	11.0	12.0	37.0	28.0	—	—	—	126.0	14.0

女子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	4	2	11.0	11.0	25.0	22.0	5.0	—	17.4	94.0	3.0
聾	5	5	14.2	17.2	32.2	31.6	30.8	—	11.9	125.4	12.8
知的障害	61	27	5.5	3.5	26.5	24.5	4.4	395.3	25.1	42.5	2.9
病弱	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

小学部 6年

男子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	5	4	12.0	10.0	39.0	18.0	6.0	—	16.7	77.0	6.0
聾	15	15	16.1	18.9	32.2	37.9	43.1	—	10.2	153.3	17.9
知的障害	166	76	8.0	6.9	28.6	20.0	7.0	384.3	22.4	58.6	3.9
病弱	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

女子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	2	1	14.0	18.5	42.0	29.0	31.0	—	11.6	121.5	6.0
聾	10	9	13.9	15.1	38.6	34.0	19.7	—	11.6	128.5	12.9
知的障害	56	26	7.6	6.4	27.3	25.6	4.2	264.0	21.1	54.6	3.9
病弱	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

小学部 5・6年男女

学校種別		握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	5分間走	30m走	ソフトボール 投げ	スローム
肢体不自由	平均値	7.2	11.5	29.4	10.8	277.7	46.5	2.7	26.5
	実施者数	44	17	29	33	41	46	40	2
	在籍者数	140							

中学部 1 年
男子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	5	4	18.8	11.7	32.6	32.8	19.7	—	15.8	151.0	8.0
聾	10	8	19.0	16.1	35.0	30.8	—	676.8	11.0	137.5	10.4
知的障害	241	114	9.8	7.7	28.5	16.8	7.8	897.5	20.4	76.8	4.6
病弱	2	1	10.0	12.0	20.0	29.0	—	745.0	23.0	101.5	5.0

女子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	2	2	8.0	10.5	33.2	16.0	6.0	—	36.9	54.5	3.5
聾	12	10	17.5	16.1	33.1	31.0	—	420.3	12.4	128.5	8.1
知的障害	112	51	9.4	6.2	30.9	16.2	4.4	700.5	22.3	68.6	4.5
病弱	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

中学部 2 年
男子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	3	2	21.8	18.0	41.8	35.5	13.0	—	10.8	155.0	8.9
聾	4	4	21.0	24.5	42.2	44.8	—	496.3	8.2	177.3	16.3
知的障害	258	129	12.3	9.9	29.4	19.6	9.9	798.5	18.5	95.8	6.5
病弱	7	0	15.8	—	—	42.0	—	—	14.8	145.0	9.7

女子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	4	4	20.3	18.3	40.0	38.8	24.5	—	10.7	133.3	10.0
聾	5	4	21.0	20.5	47.3	38.9	—	387.5	8.9	155.4	10.9
知的障害	99	52	10.8	7.9	31.5	18.6	7.0	762.0	22.4	67.5	4.6
病弱	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

中学部 3 年
男子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	3	3	23.2	16.0	36.7	32.0	23.0	—	11.6	117.7	0.3
聾	20	14	27.3	21.9	35.7	43.0	—	449.5	9.8	176.0	14.3
知的障害	200	124	15.1	11.3	29.2	21.8	13.2	906.5	18.5	104.6	7.3
病弱	1	1	13.0	0.0	20.0	25.0	—	1075.0	13.7	108.0	4.0

女子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	1	0	9.0	—	19.0	6.0	3.0	—	37.0	42.0	1.0
聾	15	12	19.2	17.2	39.4	38.0	—	380.6	14.0	138.1	11.6
知的障害	78	45	13.0	10.1	33.8	20.5	11.9	680.8	18.6	92.2	5.6
病弱	2	1	15.0	0.0	42.0	22.0	—	732.0	15.6	66.0	4.0

中学部男女

学校種別		握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	5分間走	30m走	ソフトボール 投げ	スローム
肢体不自由	平均値	10.7	10.7	31.6	12.3	321.4	28.0	3.5	42.7
	実施者数	98	32	74	82	91	84	102	8
	在籍者数	218							

高等部 1 年

男子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	5	4	25.2	21.5	40.0	47.0	35.3	—	13.9	170.0	10.1
聾	21	16	27.4	23.0	35.4	44.2	—	505.8	9.0	178.4	16.3
知的障害	519	366	25.0	15.8	34.1	33.9	66.4	648.1	12.1	149.2	12.6
病弱	4	0	24.7	27.0	51.3	38.0	—	—	—	186.5	9.5

女子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	4	4	20.5	11.5	40.8	21.8	14.5	—	28.9	88.8	4.0
聾	7	7	18.1	18.0	33.7	35.3	—	420.5	10.3	120.3	7.8
知的障害	210	150	16.5	11.0	34.9	26.7	11.9	530.6	15.8	109.1	7.8
病弱	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

高等部 2 年

男子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	5	4	30.3	24.7	47.5	42.9	24.9	—	11.9	170.3	12.5
聾	18	15	29.1	26.0	39.0	46.0	—	500.1	8.7	175.1	16.7
知的障害	483	339	25.9	16.1	35.4	34.4	18.9	568.6	11.5	152.2	12.9
病弱	1	0	—	—	—	44.0	—	—	—	130.0	22.0

女子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	4	3	18.6	12.0	50.3	26.2	44.0	—	17.9	97.3	4.7
聾	24	24	23.8	19.5	45.5	44.6	—	355.1	9.5	152.4	11.9
知的障害	195	131	18.6	12.0	36.6	29.5	17.9	490.8	13.4	118.7	7.8
病弱	3	0	14.0	—	57.0	11.0	—	—	—	—	—

高等部 3 年

男子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	7	5	27.9	22.9	40.0	37.4	29.4	—	15.0	143.8	9.0
聾	19	15	32.9	24.2	37.9	48.8	—	414.0	7.3	200.6	19.1
知的障害	500	350	28.3	18.0	34.7	36.8	25.8	527.7	10.5	157.9	14.7
病弱	1	0	35.0	—	—	—	—	—	—	—	10.0

女子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
盲	1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
聾	10	10	20.8	17.5	39.9	35.6	—	256.6	7.3	136.9	9.9
知的障害	230	152	19.1	12.7	35.7	30.9	17.6	439.8	12.8	116.9	8.7
病弱	1	0	10.0	—	—	—	—	—	—	—	3.0

高等部男女

学校種別		握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復横 とび	5分間走	30m走	ソフトボール 投げ	スローム
肢体不自由	平均値	13.4	11.6	32.4	13.4	357.0	31.3	5.3	59.8
	実施者数	146	67	109	122	109	121	143	22
	在籍者数	277							

専攻科1年

男子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
聾	3	3	32.3	22.7	29.3	47.0	—	457.0	8.0	164.3	16.7

女子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
聾	2	2	26.0	18.5	27.0	41.0	—	368.0	10.4	134.0	14.5

専攻科2年

男子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
聾	4	4	42.8	33.0	56.3	61.8	—	363.0	6.7	252.5	26.3

女子

学校種別	在籍者数	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
聾	9	2	22.5	22.8	34.7	54.7	—	365.0	10.0	168.8	12.5

専攻科男女

学校種別	実施者数	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	持久走	50m走	立ち 幅とび	ボール 投げ
聾	11	33.2	25.7	39.7	52.7	—	389.9	8.3	191.7	19.0

Ⅲ 体力づくり優良校実践報告

自ら運動に親しむ児童を育てる体育活動

— 運動機会の確保と体力向上を目指して —

名古屋市立成章小学校

1 はじめに

本校児童の体力・運動能力調査結果に着目すると、令和5年度は「俊敏性」及び「瞬発力」が全学年で名古屋市の平均を下回る結果となった。令和6年度は、高学年で「俊敏性」、低学年で「瞬発力」が依然として低く、本校の課題であると考え。これを受け、令和5年度から児童が運動に親しみながら意欲的に取り組むことができる環境整備を進めてきた。その結果、休み時間に校庭で体を動かす児童が増えるなど、運動への関心や意欲は高まりつつある。

しかし一方で、生活習慣に目を向けると、昨年度の本校の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、スクリーンタイムの増加や家庭での運動時間の減少といった課題も残る。年度初めの休み時間の外遊びの様子を見ると、運動場で体を動かす児童は全校児童の約1割強にとどまり、室内で過ごす児童が多い状況である。児童の体力向上は、短期間で急速に成せるものではなく、現状のままでは、児童の体力・運動能力のさらなる低下が懸念される。また、生涯にわたって健康で豊かな生活やスポーツライフを実現するためにも、「自ら運動に親しむ児童を育てる」ことが急務であると考え。そこで、学校生活において、仲間と一緒に楽しく体を動かしたり、ICT（タブレット）を活用して視覚的に体の動かし方やこつなどの知識を得たりして、「面白そうだな」「やってみたい」といった関心・意欲を引き出すような運動機会を確保する場面を意図的に設定する。これらの取組を通じ、児童が運動の習慣化による体力向上を図ることで、主題である「自ら運動に親しむ児童を育てる体育活動」の在り方を明らかにしていきたい。

2 実践の内容

(1) 実践のねらい

ア 運動機会の確保

「体力アップ週間・習慣」という運動遊びを楽しく行う機会を設定する。すべての休み時間を活用し、体育委員が中心となって体力・運動能力調査の種目（投げる・跳ぶ・走る）に慣れ親み、いつでも、誰でも、何度でも、楽しく運動に取り組める環境を整備する。体育委員の児童も一緒に取り組みながら、他の児童に実施上の留意点や記録を伸ばすためのこつをアドバイスする。

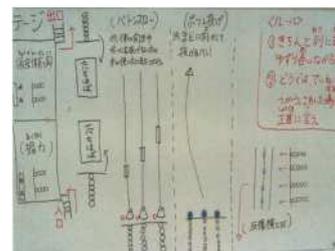
イ ICTの活用

「体力テスト デジタル集計システム」を活用し、昨年度の自己記録に基づく、目標記録の設定や各種目における「こつ動画や動作解説動画」の視聴を行うことで、児童は目標意識をもち、正しい方法やポイントを理解した上で記録に挑戦することができる。また、システム内の「授業で使える運動コンテンツ」を活用することで、児童はコンテンツに示された運動遊びを休み時間に取り組むことができ、教員は運動や領域に適した運動遊びを準備運動として取り入れることができる。

(2) 実践の様子

ア 「体力アップ週間・習慣」の設定

体育館で「バトンスロー」や「紅白球投げ」など、普段の休み時間ではできない運動遊びに児童が進んで取り組む姿が見られた。初めて取り組む児童に対しては、そばにいる体育委員が優しく声を掛け、取り組み方を丁寧に教えていた。また、仲間と競い合っている姿も数多く見受けられた。さらに、教員も一緒に参加して児童が運動に取り組むきっかけをつくったり、運動のこつを紹介したりした結果、多くの児童が体育館に集まり、自分の能力を高めさせようと意欲的に取り組んだり、楽しそうに運動したりする姿が見られ、運動機会の確保につながった。



【写真1 「体力アップ」の会場図】

イ 「体力テスト デジタル集計システム」の活用

児童は体力・運動能力調査の前に、休み時間等を活用して「こつ動画」や「動作解説動画」を視聴し、全ての種目における正しい測定の仕方やポイントを知識として得ることができた。また、システム内には昨年度までの各種目の個人データが蓄積されているため、その記録をもとに今年度の目標記録を設定していた。

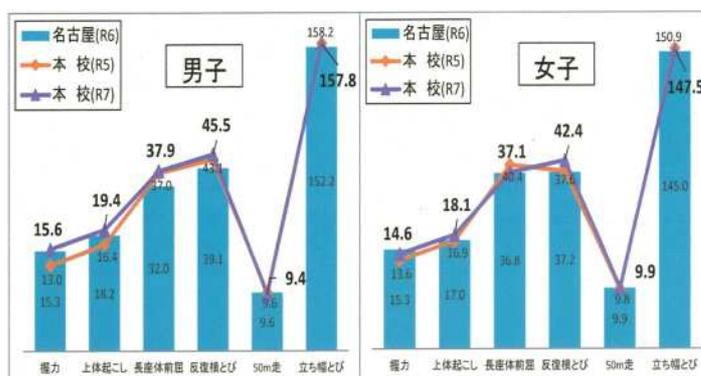


【写真2 タブレットで「こつ動画」を見る児童】

体力・運動能力調査当日は、測定前に自分の目標記録を口頭で周囲の仲間に伝えてから取り組んでいる児童が多く、目的意識をもった取組が促された。

右の表は、本校5年生の令和5年度と7年度の記録を名古屋市の平均記録と比較したものである。測定者が同一ではないが、令和7年度の記録は少しずつ向上している。

児童の中には、体力・運動能力調査のときだけでなく、日頃の体育授業に取り組むときもシステム内の「授業で使える運動コンテンツ」動画を視聴したり、そこで示された動きや運動遊びを休み時間に行ったりしていた。



【図1 本校5年生児童の体力・運動能力調査の変化（名古屋市の平均記録との比較）】

3 おわりに

自ら運動に親しむ児童を育てるために、運動機会の確保に向けた環境を整備し、体を動かすことを楽しめるようにしたり、体力向上につながるようにICTを活用したりして体育的活動に取り組んできた。その結果、一定の成果は数値として見えたものの、やはり、児童の体力は短期間で向上するものではなかった。また、学校生活だけで児童の運動に対する興味・関心を喚起したり、持続させたりすることは難しいと感じた。

今後は、今年度の取組を継続していくとともに、運動習慣にかかわる啓発活動を進め、家庭・地域と連携しながら運動に親しめる環境を整えていきたい。そして、日頃の体育授業においても「目標記録を設定すること」「動き方やこつを知識として得ること」を継続していくことが、体力向上につながっていくと考える。カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、本校の研究主題である「自ら運動に親しむ児童を育てる」ためのより効果的な体育活動の在り方について、児童や保護者の声を聞きながら検討していきたい。

好きなこといっぱい できることいっぱい 学校って楽しいな！

— 運動大好き かみっこの育成 —

名古屋市立上志段味小学校

1 はじめに

本校では、「好きなこといっぱい できることいっぱい 学校って楽しいな！」をテーマに掲げ、運動が大好きな児童の育成を目指して継続的な実践をしている。このテーマは、本校児童にとって重要な目標であると捉えている。体を動かすことを好む児童が多いという実態を踏まえ、運動を通して楽しく明るい生活を営もうとする態度をさらに伸長させたいと考えているためである。本校児童のよさを継続・発展させるため、本テーマのもと「運動大好きな名古屋の子」の育成を推進し、今年で三年目を迎えた。

昨年度は、東京パラリンピック銅メダリストの大島選手によるパラスポーツ講演や、ロングウッドスポーツクラブによる泳ぎ方講習を実施した。これらの取組を通して、児童が「できた」「わかった」を実感し、運動の楽しさや喜びを味わえるよう働きかけてきた。その結果、児童が運動に親しみ、進んで楽しもうとする態度の向上が見られた。

今年度も昨年度同様、外部講師を招いた出前授業や「できた」を実感できる体育授業を充実させ、児童が主体的に楽しく運動に取り組むことができる機会を設けていく。こうした経験を積み重ねることで、多くの児童に運動の楽しさを実感させ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成していきたい。

2 実践の内容

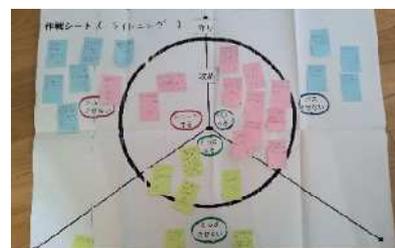
(1) 実践のねらい

児童が主体的に運動に取り組むことができるように、体を動かす機会を設けたり、運動する楽しさを存分に味わわせたりしたい。また、児童の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、児童が「できた」を実感し、運動の楽しさに気付くことで、体力・運動能力の向上に繋げていきたい。

(2) 具体的な実践例

ア 主体的に運動に取り組む態度を育てる体育の授業

5年生ハンドボールの学習では、課題解決に向けて主体的に運動に取り組むことができる児童の育成を目指して実践を行った。できるポイントを基に自分の動きを振り返り、課題に応じた練習方法を選択する学習過程を取り入れることで、児童は目標をもって繰り返し挑戦する姿が見られるようになった。練習を重ねる中で「シュートが決まった」「パスが繋がった」など、できたという達成感を味わうことにつながった。こうした成功体験の積み重ねにより、児童は仲間と関わりながら運動の楽しさや喜びに気づき、より意欲的に運動に取り組もうとする態度が育まれた。



【児童が見付けたできるポイント】

イ 児童の「できた」を生み出す外部講師の招へい

専門的な知識や技能を有する方々を外部講師として招聘した。

(ア) 日本サッカー協会 JFA コーチによる小学校体育サポート研修会（現職教育）

9月上旬、日本サッカー協会 JFA コーチである尾形行亮氏に来校を依頼し、体育でのサッカー指導について教員が学ぶ研修を実施した。児童が「できた」という達成感を味わいながら主体的に運動に取り組むために仲間とつながる練習方法や安心して取り組める環境作りの大切さを学ぶことができた。そして、その後の体育の授業で生かすことができた。

(イ) リーフラスによる走り方講習

昨年度同様、リーフラス株式会社の協力を得て、2～6年生を対象に体力・運動能力調査に向けた「ボール投げ、立ち幅跳び講習」を行った。技能向上だけではなく、楽しみながら運動する内容に児童は意欲的に取り組むことができた。



【立ち幅跳び講習の様子】

(ウ) ロングウッドスポーツによる泳ぎ方講習

昨年度同様、ロングウッドスポーツ株式会社の協力を得て、全学年を対象に泳ぎ方講習を行った。能力別に3つの場を用意し、児童自身で自分に合った場を選択して泳ぎ方を学んだ。能力別の指導により、多くの児童が、「できた」「楽しい」を実感することができた。



【泳ぎ方講習の様子】

ウ 投げる楽しさを広げる体育委員会の取り組み

本校の体育委員会が、体力・運動能力調査の結果を分析したところ、市平均と比較して「投げる力」に課題があることが明らかとなった。そこで、児童が楽しみながら投げる動作に親しみ、技能の向上につなげることを目的に「投げ投げフェスティバル」を企画・実施した。活動内容は発達段階に応じて低学年・中学年・高学年に分け、的当てや距離を競う投げ方の工夫など、多様な動きを経験できるよう工夫した。



【投げ投げフェスティバルの様子①】

当日は多くの児童が進んで「投げ投げフェスティバル」に参加し、記録の更新を目指して繰り返し挑戦したり、友達と励まし合ったりするなど、夢中になってボールを投げる姿が見られた。楽しさを感じながら運動量を確保することで、「できた」という達成感を味わう機会にもつながった。



【投げ投げフェスティバルの様子②】

3 おわりに

これまでの3年間、「好きなこといっぱい できることいっぱい 学校って楽しいな！」というテーマのもと、主体的に運動に取り組む態度の育成を目指した体育授業の工夫に加え、外部講師を招いた出前授業や体育委員会の活動を通して、運動の楽しさを広げる実践を行った。その結果、児童は技能の向上を実感し、「できた」という達成感を味わいながら、仲間と運動する楽しさに気づく姿が見られた。今後もこれらの実践を生かし、児童が主体的に楽しく運動に取り組める指導方法や機会の充実を図り、「運動大好きなごやっ子」の育成につなげていきたい。

認め合い 助け合う 心つながる須西っ子を目指して

―体力の向上を図るコーディネーショントレーニングを用いた授業展開の工夫―

蟹江町立須西小学校

1 はじめに

本校では、休み時間になると多くの児童が外に出て遊ぶ姿が見られる。体を動かすことが好きな児童が多く、竹馬や鉄棒、鬼ごっこやドッジボールなど多様な遊びをしている。体育の授業でも、積極的に体を動かす様子が見られ運動に対する意欲が高いのを感じる。しかし、体育の授業では各単元において、動きにぎこちなさを感じる面もある。例えば、ボールを投げる動作では上半身だけでボールを投げようとし、助走や下半身の力をうまく使えていない児童がいるのが現状である。昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査におけるボール投げの記録を見ると、本校5年生男子の記録が愛知県や全国の平均値より低い値を示した。

そこで、ゴールデンエイジである12歳までに特に有効と考えられているコーディネーショントレーニングを体育の授業に取り入れ、児童の運動能力の向上を図りたいと考えた。このため、準備運動や単元につながる補助運動として取り組み、巧みに体を使うことができる児童を育成していく。また、運動が苦手な児童や低学年でも取り組めるよう、ペア運動や運動遊びなども取り入れた。運動をとおして友達と関わる喜びや運動の楽しさを知ることによって、自ら運動に関わろうとする気持ちが高まることにも期待したい。

2 実践内容

(1) ボールキャッチ

低学年から中学年のボール遊び運動や高学年のボールを使う単元での準備運動において、「見る力」「空間を把握する力」「手指を巧みに操作する力」「身体を連動させて動かす力」など、ボール操作に必要な基礎的コーディネーション能力を高める運動を行った。【写真1】は、ボールを頭上に投げ、一回転してボールをキャッチする運動や、頭上に投げたボールが1バウンドしたところをキャッチする運動である。その他には、友達と2つのボールをパスし合う「ペアキャッチ」、背中合わせになり2つのボールを送り合う「ペアハンドリング」などのペア運動も取り入れた。多くの児童が「ボールを見る」「両手、両腕を使ってキャッチする」という動作を身に付けることができた。こうしたバリエーションの多い活動は、児童がそれぞれの活動に夢中になって取り組むため集中が途切れず、楽しみながら運動に取り組んでいた。



【写真1 ボールキャッチ】



【写真2 ケンケンパ】

(2) ケンケンパ(高学年はラダートレーニング)

フラフープを活用し、「リズム能力」「バランス能力」「連結能力」といったコーディネーション能力を

高め、走る・跳ぶ・止まるなどの基本的動作の向上を目的とした運動を行った【写真2】。高学年は、ラダーを活用し実践した。ラダーを使ったコーディネーショントレーニングでは、スピード感に困惑する児童が見られたため、ゆっくり正確に行ってもよいことを伝えた。慣れてくると、友達とどちらが早く正確に行えるかを競い合う児童の姿も見られた。始めたころに比べるとふらつきが少なく、足の出し入れが速くなり、体幹の安定性やバランス・リズム感覚、敏捷性や瞬発性の向上が見られた。

(3) 指示ジャンプ

二人ペアを作って、一人はリーダーとなり指示を出す。リーダーは、「右」「左」「上」「前」「後ろ」などの指示を出し、もう一人は指示を受けて、その方向へジャンプする。慣れてきたら、指示を声ではなく指で差したり、リーダーが出した指示とは逆方向にジャンプしたりするなどのバリエーションを増やした【写真3】。また、指示を待つ間に足踏みを取り入れることで、



【写真3 指示ジャンプ】

リズム能力、反応能力、バランス能力、連結能力などを高めることができた。「初めの頃より速く友達の指示通りに動けるようになった」と効果を感じる児童が見られた。指示ジャンプは友達の指示に合わせて動くことで「協調性」が育まれ、加えて、指示に素早く反応することで、「敏捷性」や「身体コントロール力」などを高めることに効果的であった。

(4) 子豚とコック

子豚とコックは、子豚役とコック役に分かれて活動する。子豚役は両手両膝（又は両手両足）を地面につけてハイハイをするような形でコック役から逃げるように移動し、コック役は子豚役に逃げられないように腰をつかむ



【写真4 子豚とコック】

【写真4】。どちらの役も手や膝で踏ん張るため、「バランス能力」や「筋持久力」などの向上が期待できる。運動を行う児童からは、「腕が疲れたけど、

どちらの役も友達とできて楽しかった」という感想を聞くことができた。また、翌日には、腕だけでなく腹筋なども筋肉痛になったとの声も多くあったことから、腕の「筋力」や「体幹」を鍛える効果が得られたと考えられる。

3 おわりに

コーディネーショントレーニングを取り入れることによって、児童は実践当初より素早く反応したり、動いたりすることができ、巧みに体を動かせるようになった。特にボールキャッチやケンケンパ、ラダートレーニングでは、児童自身も上達している実感があると確認できた。自分がイメージしたところにボールを高く投げることやそのボールをしっかりキャッチすること、ラダーやフラフープに足を出し入れし、素早く正確に取り組めたことが児童の自信につながったとを感じる。また、運動中に友達同士で上手にできたところを褒め合ったり、笑いながら運動に取り組む児童が増えたりする様子が見られたことから、運動が苦手な児童にとっても楽しむことができる実践となった。

今後も、引き続きコーディネーショントレーニングの種類やそのバリエーションを増やし、児童の運動能力を幅広く向上させていきたい。

主体的・協働的に体力を高める児童の育成

扶桑町立柏森小学校

1 はじめに

本校は、現職教育の研究主題を「心豊かにつながり合う子どもの育成～『高め合う』授業を中心として～」と定めて授業改善を進めており、その取組の一環として「主体的・協働的に体力を高める児童の育成」を目指した体力づくりの実践を計画した。本実践では、児童が自分自身の課題に向き合い、その改善に向けて仲間と関わり合いながら運動に取り組むことを通して、成長を実感し、運動に対する喜びや達成感を味わうことを重視した。また、こうした経験が生涯にわたってよりよい運動習慣を身に付けることや望ましい生活習慣の形成につながることを目指した。取組にあたっては、児童が必要を感じられるとともに、楽しみながら継続できることを大切にし、日常の体育授業や学校生活の中で無理なく実践できる活動となるよう工夫した。

2 実践の内容

(1) 体力テストを活用した目標に向かって取り組みたくなる環境整備

ア 体力テスト記録カードを活用した目標の明確化

学校独自の体力テスト記録カードを作成・活用している。各自の6年間の記録及び各学年の項目ごとの全国・愛知県の平均値、項目別得点表を確認できるよう工夫した。体力テスト実施前に各児童に配付し確認できるようにしたことで、昨年度の自分の記録や各自が設定をした目標記録の更新に向けて意欲的に取り組もうとする姿が見られた。

イ 計測時にしっかりと力を発揮できることを目指した実施前の取組

毎時間の体育授業のはじめに、体力テストの測定方法の確認と動きづくりにつながるウォーミングアップを取り入れ、段階的に実施した。また、休み時間に体力テストと同様の測定場所を設置し、教員の見守りのもと児童が自由に取り組めるようにした。

ウ 結果の分析を今後の目標につなげることを目指した取組

本校の令和6年度の結果から「持久力」に課題があることがわかった。また、日頃の児童の体育授業等の様子から、動きを正確に行ったり姿勢を保持したりするなどの「調整力」の向上が必要であることが明らかとなった。これらの課題については、現職教育等を通して全教職員で共通理解を図り、ねらいを明確にした上で重点的な取組を計画・推進した。

(2) 持久力の向上を目指した実践

ア 体育の授業実践

体育授業において、児童が楽しみながら持久力を高められる活動を実践した。ウォーミングアップの一環として、音楽をかけながらの5分間走を取り入れた【写真1】。教員のおすすめの曲や児童からのリクエスト曲を流すことで、意欲的に取り組む児童の姿が



【写真1 音楽とともにランニング】

見られた。また、主運動の内容に応じて継続的に取り入れることで、持久走の記録を延ばす児童が増えた。高学年の体づくり運動（体の動きを高める運動）で、12分間リレーマラソンに取り組んだ。4

～5人編成でチームをつくり、走る周回数と走順をチーム内で相談して決め、最高記録を目指した。児童はチームで協力して楽しみながら取り組み、多くのチームが互いの体力差に配慮しながら対話を進め、合意形成を図ることができた。運動が苦手な児童も、仲間の応援を受け、自分にとって無理のない距離を、最後まで前向きな気持ちで走る様子が伺えた。体力の差に関わらず、互いのがんばりを讃え合う児童の笑顔が印象的であった。

イ 業間の取組

全校児童を対象とした業間（休み時間）の活動として、児童会体育委員会が中心となって、体力づくりイベントを実施した。ランニングイベントでは、体力差に関わらず、多くの児童が自分に合った楽しみ方を選択し、主体的かつ継続的に取り組むことができるよう工夫した。ペースやコースを複数用意したり、継続して取り組んだ記録をランキング形式で確認できるようにしたりすることで、自分に合った走り方を選択でき、走る楽しさを味わわせることができた。また、昔遊びなどの体力づくりにつながる遊びを取り入れたイベントを実施したことで、運動の楽しみ方は多様であることを体験的に理解するよい機会となった。

(3) 調整力の向上を目指した実践

ア 体幹トレーニング

学校保健委員会の取組として、近隣の民間スポーツ教室より外部講師を招き、5年生児童を対象とした出前授業を実施した。児童は体幹についての基礎知識を学び、それらを鍛える



【写真2 体幹について】



【写真3 体幹トレーニング】

ことで「姿勢がよくなる」「ケガをしにくくなる」「疲れにくくなる」「運動が得意になる」といった効果を理解した【写真2】。また、児童が日常的に取り組める4種類の体幹トレーニングについて実技指導を受けた。講師からは、それぞれの運動で意識すべき部位や正しい姿勢、体の支え方などの具体的なポイントを示していただき、児童は説明を聞きながら意欲的に体を動かしていた【写真3】。

イ 児童会保健委員会による自作動画で全校ストレッチ体操

保健委員の児童が学校保健委員会で学んだ体幹の重要性について理解を深め、その内容を全校に伝える動画を作成し、全校児童が視聴することで共通理解を図った。また、よい姿勢を意識する具体的な活動として、保健委員の児童が「1分間めざましストレッチ」を考案した。これは座ったまま実施できる簡単な1分間のストレッチで、体幹を意識しながら姿勢を整えることをねらいとしている【写真4】。毎朝、全校一斉で行い、継続して実施することで体づくりへの意識向上につなげることができた。



【写真4 1分間めざましストレッチ】

3 おわりに

本実践を通して、運動や外遊びが好きな児童も苦手な児童も自分自身の体力に応じた選択をしながら、仲間とともに楽しんで運動に取り組む姿が多く見られた。こうした経験を継続的に積み重ねることで協働する力や粘り強く協力する態度が着実に育まれるとともに体力の向上にもつながると考えられる。今後も児童が生涯にわたり主体的に運動に取り組み、協働的に他者と関わりながら健康的に生活することができる資質・能力の育成を目指し、教職員と児童が力を合わせ、継続した実践を続けていきたい。

「児童の『やりたい』を引き出し、 主体的に体力の向上を図る実践」

－全校ランニングの実践を通して－

幸田町立中央小学校

1 はじめに

本校では、開校当初より「あいさつ・そうじ・ランニング」を三つの宝として大切にしており、全校で力を入れて取り組んでいる。毎朝、運動場では、宝の一つである「ランニング」に取り組む子どもたちの姿が見られる。コロナ禍以前は毎日全校で走っていたが、コロナ禍以降は、2学年ずつ走っている【写真1】。週に一度、朝8時15分から8時25分の10分間をランニングタイムとして、子どもたちが「10分で〇周走ろう」「10分間走り続けることを目標にしよう」と、全員が目標をもってランニングに取り組んでいる。子どもたちのやる気を引き出すための手立てとして、「ランニングカードの活用」「体育委員会による、走るコースを工夫する取組」「マ



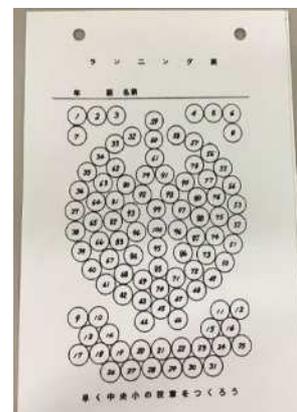
【写真1 ランニングタイムの様子】
ラソン大会に向けてのインターバル練習」が挙げられ、具体的な内容は以下に示す。

2 実践の内容

(1) ランニングカード

一つ目の手立てとして、開校当時より使用しているランニングカードを活用している。ランニングカードには1枚に1～100までの数が書いてあり、児童は毎朝走った周数分の色を塗る。全ての数字に色が塗られると校章のマークになるデザインとなっている

【写真2】。10級から始まり、100周走ると1級上の級が認定される。これまでは認定証の表彰を各学期の終業式に行うのみであったが、子どもの意欲を高めるために毎週給食の時間に放送を使って、級が認定された児童の名前を紹介することとした。給食の時間に認定された児童の名前が発表されることは、「もっと走りたい」という子どもたちの意欲を高めている。本校では、ランニングタイム以外に主体的にランニングに取り組むことを「宝」と「ランニング」を合わせて「宝



【写真2 ランニングカード】
(たからん)」と呼んでいるが、発表の翌日は、登校後すぐに「宝ンに行ってきます」と外に出て走っている子どもたちの姿が多く見られる。また、子どもたちの会話の中でも、「僕、今〇級だよ」「このままいけば目標の級にいける」「去年の級をもう超えたよ」など、ランニングについての話が多く聞かれる。ランニング認定証の表彰と校内放送による認定級の発表があることが、子どもたちの「ランニングをやりたい」という意欲の原動力になっていることがよく分かる。走ることが苦手な児童も、目標をもって努力し続けることで認定級が上がることで、達成感を味わうことができ、次への意欲につながっている。また、教師が子どもたちへ粘り強く声掛けをしたり、一緒に走ったりすることで、学校全体で目標に向かって挑戦し続ける雰囲気が醸成され、子どもたちが「宝ン」に取り組むことができたといえる。

(2) 体育委員会による、走るコースを工夫する取組

体育委員の子どもたちが「ランニングを盛り上げたい」という思いを抱き、「もっと楽しく走りたい」「トラックを走るだけだと苦しい」という意見から、走るコースを工夫する取組を行うことにした。運動場の端を走る「外周」や、校舎の周りを走る「超外周」を設定し、校庭の小川の隣や校舎の間を走るコースが加わった。また、体育委員が全校児童にコースを紹介し、走る楽しさを呼びかけたことで、子どもたちは新たに設置されたコースを走りたいという意欲を高めた。新たに設置されたコースがランニングカードの記録に反映されるように、距離を明確にした。外周1周 400m、超外周1周 500mと明示することで、楽しみながら距離を伸ばせると新たに設置したコースを選ぶ児童が多くおり、こうした取組の結果、全体的に走る距離が伸びた。児童の2学期末の振り返りには「ランニングが楽しくなってきました」「前は走るのが嫌いだったけど、今は走ることが楽しいです」などと記されていた。このことから、体育委員会による走るコースを工夫する取組は、児童のランニングを「やりたい」という気持ちを引き出すために有効だったと考えられる。

(3) マラソン大会に向けてのインターバル練習

1年間のまとめとして11月にマラソン大会を実施している。中・高学年は大会に向けてさらに力をつけるために体育の授業の導入部分で「インターバル練習」を行っている。タイムの上位の子を赤チーム、下位の子を白チームとし、それぞれで競い合えるよう2グループに分けた。赤チームが走る間は白チームが休憩し、赤チームが休憩している間に白チームが走るという方法で行った。200mを走るのに、赤チームの目標は40秒、白チームの目標は1分としたが児童自身がインターバル練習での目標を決めることもあった。子どもたちの「やりたい」という気持ちを引き出すために、教員が「200mを1分で走れたらすごいね」「前回よりも1秒でも記録を上げよう」と、挑戦することを促すよう前向きな声掛けを積極的に行った。インターバル練習で大切にすることとして、「記録は、競争ではなく成長の確認につなげること」「速さよりも続けて走ることに挑戦すること」の二つを伝えている。このことは、子どもたちの「もっと走りたい」「記録を伸ばしたい」という「やりたい」思いにつながっていると考えられる。

今回インターバル練習を行ったことで、4年生の児童は、単元「持久走」の導入時とまとめ時を比較すると平均して記録を約30秒縮めることができた。持久走の記録を伸ばした児童がクラスの3分の1以上（約10名）もいた。持久走の単元終了後、マラソン大会に消極的だった児童が「ランニングを頑張っ、マラソン大会で去年より良い順位を取りたい」「家に帰った後、友達と一緒に練習したよ」と前向きな言葉を発するようになった。体力づくりだけでなく、児童の自己肯定感や「挑戦してみよう」という気持ちを育てることができる練習方法であると感じた。

3 おわりに

本年度も毎年行われる町の駅伝大会に4、5、6年生の多くが出場する。愛知万博メモリアル駅伝選考会においては、挑戦する児童が非常に多く、今年は1年生の児童が挑戦していた。日々の取り組みが子どもたちの力となり、自信になっているといえる。開校時より全校で取り組むランニングを子どもの「やりたい」を大事にしながら、今後も宝として磨き続けていきたい。

夢中になって学ぶ八町っ子の育成

—「できた！」を通して成長を実感する—

豊橋市立八町小学校

1 はじめに

本校では、校訓「みんな 仲よく 力いっぱい」のもと、児童一人一人が前向きに活動し、夢中になって学ぶ中で自分の力を伸ばしていくことを大切にしている。体力づくりにおいても、単に運動量を確保するのではなく、児童が進んで体を動かしたくなるような活動や環境づくりを重視してきた。

そのため、仲間と関わりながら楽しく取り組める活動を設定し、運動に対する抵抗感を減らすことで、自然と体を動かす機会が増えるよう工夫している。こうした取組を継続することで、体力の向上とともに、最後までやり抜こうとする気持ちや仲間と協力する態度の育成につなげたいと考えている。

以下に、児童が安全かつ意欲的に体力づくりに取り組み、運動の中でも夢中になって学ぶ姿勢が身につくよう工夫した主な実践について紹介する。

2 実践内容

(1) 30分放課の設定

週に一度、全校で運動場に出て活動する「30分放課」を設けており、児童が元気よく、楽しそうに運動場を走り回る機会となっている。休み時間を通常より10分延長することで時間に余裕をもって体を動かすことができるようになり、外遊びに参加する児童が増えた。その中で、児童が自ら内容を考えて遊ぶ姿や学級単位で活動内容を企画して外に出る学級も見られるようになった。ふだんは外遊びに消極的な児童も仲間と一緒に取り組むことで安心して参加し、楽しみながら体を動かすようになった。

このように、全校での取組の中に児童の主体的な活動を位置付けることで、運動への意欲を高めるとともに、仲間と協力する姿勢を育む機会にもつながっている。

(2) スポーツトレーナーによる出前授業

近年、体力テストの結果や日常の運動の様子から、投げる運動に苦手意識をもつ児童が増え、投てき動作に必要な力や技能の低下が見られることが課題となっていた。

そこで、本校ではここ数年、専門的な知見を有するスポーツトレーナーを招き、出前授業を実施している。体力テストの実施を前に、体の使い方について学ぶ機会を設け、特にボール投げの動作に焦点をあて授業を行い、また、秋にはマラソンに向けた長距離走やハードル走のポイントを、実技を交えて指導していただいた。



【写真1 出前授業の様子】

児童は実際に体を動かしながら学ぶことで、自らの動きを振り返り、改善しようとする姿が見られた。専門家から直接指導を受けたことで、「できた！」という実感を持ち、自信をもって体力テストや

運動に臨むことができた。

(3) MEKIMEKI 体操 ～カラダうごかせ！ニッポン！～

体育の準備体操の一環として、「カラダうごかせ！ニッポン！」プロジェクトの MEKIMEKI 体操を取り入れている。この体操を取り入れた取組は、本校の卒業生でマラソン選手の鈴木亜由子氏の所属する日本郵政グループのイベントで紹介されて以来、三年目になる。この体操は、有酸素運動・柔軟運動・筋力運動・リラックスの4つの要素をバランスよく組み込み、首・上肢・下肢・体幹など全身を動かすことができる内容となっている。

音楽に合わせて体を動かし、かけ声を出しながら行うことで、児童は楽しみながら自然に体を動かすことができ、自然と笑顔にもなっている。

この体操を体育的活動の導入で実施することは、けがの予防や心身をほぐすことにつながり、児童が運動を前向きに行うための有意義な取組となっている。また、楽しい雰囲気の中で全身を使うことで、「夢中になって学ぶ」姿勢にもつながっている。

(4) 体力向上に向けての日常的な教育環境づくり

本校では、日常的に児童がすすんで体を動かし、体力向上に取り組める環境づくりを行っている。

ア 投てき運動においては、新聞紙を丸めてガムテープで固定した手作りボールを用意し、安全に配慮しながら繰り返し練習できるよう工夫している。この特製ボールにより、児童は休み時間や放課後の時間にも進んで投げる活動に取り組み、楽しみながら技能の向上を図っている。

イ 教室内に握力計を設置し、児童がいつでも自分の握力を測定できる環境を整えている。数値として自分の体力を確認できることで、児童は自身の成長を実感し、繰り返し挑戦しようとする意欲を高めている。

ウ 児童が自主的に運動に取り組めるよう、なわとび用ジャンプ台を設置している。休み時間や授業後に自由に使用でき、遊び感覚で体幹や下肢の力を養うことができる。設置後は挑戦する姿が増え、成功体験を通して、自己肯定感や協力する力も育まれている。

これらの取組を通して、児童は自主的に運動や体力づくりに取り組む姿勢を身につけ、日常の学校生活の中で楽しみながら体力向上を目ざしている。こうした経験が自信につながり、「夢中になって学ぶ八町っ子」の育成にもつながっている。

3 おわりに

これらの体力づくりの取組を通して、児童が自ら体を動かし、仲間と協力する姿が増えていることを確認できた。運動を楽しむ中で、目的意識をもち「もっとやってみたい」と夢中になって取り組むことで、体力だけでなく心の成長にもつながっている。今後も、児童が安全に体を動かしながら挑戦できる環境を整え、校訓「みんな 仲よく 力いっぱい」に沿った、「夢中になって学ぶ八町っ子」の育成を続けていきたい。



【写真2 運動会で MEKIMEKI 体操
に取り組む様子】

ダンスに親しむ子どもの育成

名古屋市立駒方中学校

1 はじめに

本校は、日常的に運動に親しむ生徒が多い学校である。昼休みになると、運動場でボールを使ってバレーボールやサッカーなどに取り組む生徒の姿を多く見ることができ、保健体育の授業においても、意欲的に活動する様子が見られる。その一方で、昼休みや保健体育の授業、運動部活動などの場面で怪我をする生徒は依然として多く、特に骨折などの大きな怪我が毎年のように発生していることが課題となっている。

これまでの学校保健安全委員会において、学校医の先生から、体幹を意識して動かす運動や全身を使った表現活動が、転倒防止や怪我の予防に有効であるとの助言をいただいていた。しかし、生徒にとってダンスは、「恥ずかしい」「動き方が分からない」といった理由から、必ずしも好意的に受け止められていない単元である。R5、R6年度と同様に、実践前に「小学校の体育の授業で、ダンスの単元は好きですか。」という質問でアンケートを行ったところ、「あまり好きではない」「好きではない」と回答した生徒が半数程度おり、ダンスに対して苦手意識をもつ生徒が一定数いる実態が明らかになった。

このような実態を踏まえ、本校では引き続き、ダンスの楽しさや魅力を味わわせることで、ダンスに親しむ子どもの育成を目指したいと考えた。ダンスを通して思い切り体を動かし、平衡性や柔軟性を高めることで、怪我をしにくい体づくりにつなげることも重要である。そこでR7年度は、これまでの取組に加え、特別支援学級に在籍する生徒13名も本実践に参加することとした。学級や障害の有無にかかわらず、すべての生徒が安心して活動に参加し、ダンスの楽しさを味わうことができる共生の授業づくりを目指した。そのため、R5、R6年度と同様に、ダンス指導を専門とする外部講師を招き、個々の実態に応じた関わりや活動の選択が可能となるよう配慮しながら、保健体育の授業において実践を行うこととした。

2 実践の内容（1年生 単元：ダンス）

(1) 体育の授業での取組

授業は男女共習で実施し、単元の1時間目は単独クラスで、2時間目から4時間目は2クラス合同で行った。R7年度は、特別支援学級の生徒13名も通常の学級の生徒と共に参加し、同一の活動内容の中で実践を行った。活動にあたっては、外部講師および担当教員が連携し、生徒一人一人の実態に応じて、動きの大きさや回数、参加の仕方を選択できるよう配慮した。R5、R6年度の実践を踏まえ、ダンスに親しむための手立ての柱を「自分の体の動きを感じるマインドフルネス」「自分や仲間を大切にするハグコミュニケーション（「ハグ」と「コミュニケーション」を組み合わせた造語）」「曲に合わせて体を動かすリズムダンス」の3点とした。

ア 「自分の体の動きを感じるマインドフルネス」

授業の導入として、ウォームアップを兼ねたマインドフルネスの活動を行った。正しい立ち姿勢を意識しながら、へそを中心とした呼吸や、指先から足先までの関節一つ一つの動きを丁寧に感じ取る活動である。外部講師の声掛けにより、生徒は自分の体の状態や動きを意識しながら、静かに体を動

かすことができました。特別支援学級の生徒については、立位や座位など自分に合った姿勢を選択しながら参加できるようにし、それぞれが自分の体の動きを感じ取ることを大切にしました。日常生活ではあまり意識することのない呼吸や体の細かな動きに目を向けることで、自分の体と向き合う貴重な時間となった。

イ 「自分や仲間を大切にするハグニケーション」

次に、「ハグニケーション」について学び、実践した。「スキンシップのハグ」「言葉のハグ」「心のハグ」という三つの考え方を知り、おじぎや笑顔、相手の目線に合わせた関わりも大切なコミュニケーションであることを学んだ。ハグには心を落ち着かせたり、仲間との一体感を高めたりする効果があることを知り、生徒は安心した雰囲気の中で活動に取り組むことができた。特別支援学級の生徒も、無理のない形で仲間と関わることができ、互いを認め合う温かい雰囲気の中で活動を進めることができた。



【写真1 ハグニケーションの様子】

ウ 「曲に合わせて体を動かすリズムダンス」

リズムダンスでは、R5、R6年度と同じで2・3年生におなじみの曲に合わせて、講師が考案した振り付けを段階的に学んだ。動きを一つずつ丁寧に示してもらうことで、生徒は無理なく曲に合わせて体を動かすことができた。振り付けの一部には難易度の異なる動きを設定し、生徒が自分の実態に合った動きを選択できるようにした。動きの大きさや難易度については複数の選択肢を示し、特別支援学級の生徒を含め、すべての生徒が自分のペースで参加できるよう工夫したことで、意欲的に挑戦する姿が多く見られた。単元の後半には、曲に合わせて最後まで踊り切ることができ、達成感を味わう生徒の姿が印象的であった。



【写真2 リズムダンスの様子】

3 おわりに

(1) 本年度実践の成果

単元終了後のアンケートで、「ダンスの授業で、ダンスが好きになりましたか。」という質問をしたところ、「好きになった」「まあまあ好きになった」と回答した生徒が8割程度を占めた。また、「今後も保健体育の授業でダンスの授業を受けたいですか。」という質問に対しても、多くの生徒が肯定的に回答しており、R5、R6年度に引き続き、一定の成果が得られたと考えられる。

(2) 次年度に向けての課題など

一方で、ダンスに対する意識が大きく変化しなかった生徒も少数ながら見られた。今後は、生徒一人一人の実態や思いをより丁寧に把握し、3年間ご指導いただいた外部講師の授業を参考にしながら、多くの生徒がダンスの楽しさを実感できる授業づくりを工夫していく必要がある。ダンスに親しむ子どもの育成を通して、生涯にわたって運動に親しむ態度の育成を引き続き目指していきたい。

体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自ら体の動きを高める方法を学ぼうとする生徒の育成

ー保健体育科の授業における指導方法の工夫と、楽しみながら体を動かす機会の設定を通してー

稲沢市立稲沢西中学校

1 はじめに

近年、児童生徒の体力や運動能力は全国的に低下傾向であり、その背景にはコロナ禍に伴う生活習慣の変化とテレビゲームやスマートフォンの普及など、児童生徒の運動する機会の減少があると考えられる。また、本校の体力テストの結果を全国平均と比較して分析すると、男女ともに「巧みな動き」と「力強い動き」に関する項目において課題が見られた。

そこで、生徒の主体性を伸ばし、自己の課題を合理的に解決することができる資質・能力を育成するための指導方法を工夫したり、運動が苦手な生徒でも楽しみながら思い切り体を動かすことができる機会を設定したりすることで、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自ら体の動きを高める方法を学ぼうとする生徒の育成を目指して、さまざまな実践に取り組んだ。

2 実践の内容

(1) 保健体育科の授業における実践

ア “INANISHI 体力向上プロジェクト” の実施

保健体育科の授業において、「体の柔らかさを高めるための運動」「巧みな動きを高めるための運動」「力強い動きを高めるための運動」「動きを持続する能力を高めるための運動」を取り入れ、単元「体づくり運動」の授業実践だけでなく、その他の単元の授業においても「関連して高まる体力」や「体力の高め方」の学習を行った。特に、バランスボールを使った体幹トレーニング等



【写真1 「体づくり運動」の授業の様子】

の「巧みな動きを高めるための運動」と、通常よりも重い（1.25 kg）縄を使った縄跳び等の「力強い動きを高めるための運動」に重点をおいて取り組み、それらをサーキットトレーニング形式で実施することで、併せて「動きを持続する能力」の向上にも努めた【写真1】。

どの生徒も各運動に対して個人差はあるものの、楽しみながら積極的に取り組んでいた。特に、運動がうまくできない生徒も諦めることなく、その運動ができるまで粘り強く取り組む姿が見られた。

イ 生徒主体の授業実践

保健体育科の全ての運動領域の授業において、「①自己分析・課題の把握」→「②課題の解決方法の検討（練習方法の工夫など）」→「③実践」→「④解決方法の振り返り」という学習サイクルを取り入れた。体力テストの結果を基に、体力づくりの面から自己の課題を分析・把握・改善（上述の学習サイクル）する時間を設定した。

この学習サイクルにより、自己やチームの課題を見だし、仲間と協力しながら解決方法や作戦を

考え、実践したり助言し合ったりする姿が見られた。また、振り返り活動では自己やチームの解決方法について振り返り、その学びを次の授業に生かそうとする記述も見られた。

(2) 体育的行事などの特別活動における取組

ア 生徒会を中心とした体育祭種目の企画・立案

従来の陸上競技大会のような種目だけではなく、運動が苦手な生徒も体を動かすことを楽しめるように、生徒会が中心となって体育祭種目を企画・立案した【写真2】。

本年度は、サイコロを振って出た目の数だけのカラーコーンまで走る「出た目で勝負」や、フリスビーを投げて距離を競うだけではなく、並んでいるカラーコーンを倒すと加点される「モンスターストライク1724」などを実施した。どの生徒も仲間と協力しながら、笑顔で運動に親しむ姿が数多く見られた。



【写真2 生徒考案の「出た目で勝負」の様子】

イ 運動委員会によるキャンペーンの企画・立案

普段から体を動かす習慣を身に付けるために、運動委員会が中心となって、朝の短学活の時間などを活用して、「体の柔らかさ」「巧みな動き」「力強い動き」「動きを持続する能力」を高めるための4つの運動を取り入れたキャンペーンを企画・立案した。

本年度は運動委員会でも体力テストの結果を分析し、ストレッチを実施した。各学級において運動委員が動きの見本を示しながら取り組んだ。朝からストレッチを実施したことで、血行が促進されるなど、体だけではなく精神面にも効果があり、落ち着いて1日の学校生活を始めることができた。

(3) 地域企業による特別授業の開催

運動の多様な楽しみ方やできる喜びを味わうことを目的に、プロスポーツ選手（豊田合成ブルーファルコン名古屋）による体づくりに関する特別授業を開催した【写真3】。

生徒は、個人やペアで日頃から気軽に実践できるような「体の柔らかさ」「巧みな動き」「力強い動き」「動きを持続する能力」を高めるための運動に楽しみながら、取り組んでいた。また、選手一人ひとりから、夢や目標に向けて努力することについて話を聞いた。生徒にとってプロスポーツ選手から楽しく学ぶ貴重で有意義な時間となった。



【写真3 プロスポーツ選手による体づくり講座の様子】

3 おわりに

授業における指導方法の工夫や生徒会などによる企画・立案を通して、生徒からは「もっと運動したい」「今後は〇〇をやりたい」という声があがるほど、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自ら体の動きを高めようという姿が見られた。

今後も、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自ら体の動きを高める方法を学ぼうとする生徒の育成を目指して実践に取り組んでいきたい。

生涯にわたって運動に親しむ生徒の育成

—「楽しい」「やってみたい」とワクワクする活動を通して—

東郷町立東郷中学校

1 はじめに

本校は、校訓である「敬愛」を基調とし、豊かで強い心を育み、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成を目指している。そのため、本校の現職教育では、今年度のテーマを「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の創造」に設定し、日々の授業に取り組んでいる。具体的には、効果的な学習課題の提示や学習の振り返りの活用、思考ツールを活用した学び合いの充実に重点を置き、各教科で工夫した授業を行っている。

保健体育科においては、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指し、生徒の「楽しい」という感情を大切にしながら、運動に対して「やってみたい」と学びに向かう力を引き出すことを目標としている。そこで、生徒が興味・関心をもてる活動や、授業の中で「分かった」「できた」と実感できるような学習課題を設定することで、運動する楽しさを味わい、主体的に運動に関われるようにしたいと考えている。また、体育の授業だけではなく、休み時間の活用や生徒会との連携を図ることで、異学年や異学級の生徒と交流しながら、生涯につながる運動の価値を実感できる機会の創出を目指している。

2 実践の内容

(1) 振り返りを活用した授業づくり

3年生のバスケットボール授業では、AARサイクルを用いて授業を行った。AARサイクルとは、Anticipation〈見通し〉→Action〈行動〉→Reflection〈振り返り〉の三段階から構成される学習プロセスである。前時の振り返りを活用し、生徒たち自身で課題を見つけ、見通しを立ててから授業に参加することで、課題を自分事として捉えられるようにした。第4時では、「オフェンスが数的有利な状況ではなくなったとき、うまくシュートまでつなげるにはどうしたらよいか」と前時の生徒からの振り返りに対して、学び合いの場【写真1】を設定し〈見通し〉、生徒が本時で何を学ぶのかを明確にした。そのうえで実践を行う〈行動〉ことにより、生徒は課題に関連する多様な気付きを得ながら、運動に取り組むことができた。課題に対して見通しを立てたことにより、予想とおりのうまくいったことやうまくいかなかったこと、新たな気付きなど、自身の学習状況をメタ認知しな



【写真1 課題に対して見通しをたてる様子】

バスをうまくつなぐためには？

まず、相手の裏を取ることが一番だと思った。例えば、バスをもらう前に行こうとしていることと逆の方に一個動きを入れてから自分が行きたい方向に行くことで相手が逆の方に行っているからフリーでボールを受けられると思った。

あとはいつでもバスをもらえるようにしておくことも大切だと思った。ゆっくり動きながらバスをもらうよりゆっくりから急に動きを早くすることによって相手の反応を遅らせられるからバスをつなげやすいと思った。

【資料1 生徒の振り返りシート】

がら、次時の活動につなげることができた〈振り返り〉【資料1】。

事後アンケートでは、「今までは試合のときにどうすれば良いか分からなくてその場にいることしかできなかつた。しかし、授業を通して何をやればいいのか具体的に分かるようになり、チームにもたくさん貢献できて、毎授業が楽しく、達成感を感じることができた」と回答する生徒がおり、深い学びにもつながったことが確認できた。

(2) 昼休みの活用と自主練習の時間の設定

生徒の運動機会を増やすために、昼休みに運動場、体育館、武道場を開放する取組を体育委員会が行った。生徒は、キャッチボールやサッカー、バスケットボール、卓球などを自由に行い、他学年や他学級の友達と楽しそうに運動する姿が見られた。また、体育の授業では、どの単元においても授業開始のチャイムが鳴るまでは自主練習の時間とした。これにより、自分のやりたい練習に取り組めるほか、授業中とは異なるリラックスした雰囲気の中で自ら進んで運動に取り組む生徒【写真2】を多く見ることができた。



【写真2 長距離走の授業開始前に縄跳びで楽しそうに体を動かす生徒】

(3) 学校行事の活用

本校は行事が盛んであり、体育祭においては、運動の得意・不得意に関わらず、真剣かつ楽しみながら活動している。体育祭当日までの昼休みには、学級で大縄練習【写真3】に進んで取り組んでいる。また、本校の伝統は縦割り活動を通しての異学年交流である。生徒会役員が企画する縦割りふれあいタイム【写真4】や体育祭前に行う縦割り体育、体育祭のプログラム内に含まれる縦割り演技などを通して、運動に親しむ機会を設けている。縦割り活動を行うことで、先輩の運動する様子を見て自ら学び、自分たちの運動を改善する生徒がいたり、アドバイスをする先輩がいたりするなど、他学年との交流は生徒の主体性や体力向上につながったと考えられる。さらに、体を動かすことについて生徒が主体的に考え、さまざまな企画を楽しみながら活動する姿が見られた。



【写真3 昼休みに学級で大縄を練習する様子】



【写真4 縦割りふれあいタイムでの縦割り雑巾がけレースの様子】

3 おわりに

生徒が運動に対して、「楽しい」という感情や「やってみたい」と興味をもつことができれば、積極的に運動し、そこから主体的に考えながら運動に取り組む生徒が増えると考えられる。そして、今後とも授業内外の時間を活用しながら生徒の「楽しい」「やってみたい」という感情を引き出す工夫の継続と改善を繰り返し、生涯にわたって運動に親しむ生徒を育成したい。

仲間と共に運動する楽しさや喜びを味わう体育学習

—多様性を認め合い、互いを高め合う学びを通して—

碧南市立西端中学校

1 はじめに

本校は全校生徒 195 名の小規模校である。1 小 1 中の学区で入学し、各学年 2 学級で学校生活を送るため、生徒同士の仲がよく、男女関係なく協力して活動している。部活動も少人数で活動しており、学年関係なく仲よく過ごす姿が見られる。体育大会では学年を縦割りにした団で競い合い、一致団結して一生懸命に取り組む生徒が多い。こうした生徒の特性を生かし、授業ではグループ活動を多く取り入れている。球技に限らず、マット運動や陸上競技などでも男女混合のチームを組み、話し合いや教え合いを行いながら学習を進めている。

近年、運動習慣の二極化が問題視されているが、本校でも授業や部活動の様子から、積極的な運動習慣がない生徒が多いと感じる。保健体育科の大きな目標として、生涯にわたって運動に親しむ生徒の育成が挙げられている。そのためには、中学校段階から身体を動かすことや仲間と運動することが楽しいと実感できる経験が重要であると考える。

そこで、生徒が授業を通して運動の楽しさを実感できるように、「できた」と実感できる授業実践に取り組み、運動を少しでも好きになる生徒を育てたいと思い、次の 3 つの実践を行った。

2 実践の内容

(1) 「西中体操」の実施

本校では、身体のコンビネーション運動である「西中体操」を準備運動に取り入れている。これには 9 つの動きがあり、上半身から下半身へと流れるように作られている。肩関節や上腕のストレッチから始まり、肘関節、腕筋、体側、背筋、腰筋、殿筋、股関節、大腿四頭筋、大腿二頭筋、膝関節、ふくらはぎ、アキレス腱などたくさんの筋肉や関節等を動かすことができる。この運動を行うことで体をしっかり動かす準備ができる【写真 1】。



【写真 1 西中体操】

(2) 運動量確保に向けた場の工夫

運動種目には、天候による影響を受けない室内種目を多く取り入れている。それにより、安定した授業時間の確保が十分にでき、技能の習得及び体力の向上につながっている。

ネット型の種目はもちろん、ベースボール型やゴール型の種目を室内で行えるようにしている。ベースボール型では「ベースボール 5」を行った。狭いスペースでも塁間やベースの位置を工夫することで運動量を確保しつつ、ベースボール型の内容を理解しながら授



【写真 2 ベースボール 5】

業を行うことができた【写真2】。ゴール型では、「フットホッケー」を行った。サッカーに似た種目であるため、キックやスペースへの動きなどの技能を習得・向上させることができた。また、独自のルールとして体育館の壁を利用し、跳ね返りをプレーに活用できるようにしたことで、プレーが途切れず、運動量が増加した。

また、バドミントンにおいてはネットの張り方や簡易のネットの使用など、工夫をすることでたくさんのコートを用意し、多くの生徒がゲームを行うことができた。この結果、待ち時間を減らし、運動量が増加した【写真3】。

(3) ICTを活用した話し合い活動の実施

タブレットにあるカメラのスロー撮影機能を利用し、動きを見える化することで自分の技能の課題を見つけることができた。また、グループでお互いの動きを撮影し合うことで、具体的なアドバイスのやり取りができる。それにより、アドバイスされた側も、アドバイスした側も互いに意識するべき点を理解しながら運動することができた。さらに、チーム競技においても試合の様子や練習の様子を動画で撮影することで、作戦会議に使用したり、改善すべき点をチームで共有したりすることで、チームの一体感が高まり、アドバイスを試合に生かせたという達成感も得られた【写真4・5】。



【写真3 バドミントン】



【写真4 撮影し合う様子】



【写真5 教え合いの様子】

3 おわりに

(1) 現在の問題点

本校の生徒は、素直で真面目な生徒が多く、指示されたことはしっかりと行える反面、考えたことを自分の言葉で伝えることが苦手な生徒が多い。そのため、話し合い活動を多く取り入れている。

また、新体力テスト8種目のうち、5種目で全国平均並みもしくは上回った。一方で、20m シャトルラン、50m 走、ボール投げの3種目は全国平均以下となっている。小中学生のゲーム時間やスマートフォンのスクリーンタイムが増加する傾向が本校でも外遊びの減少や運動習慣の不足につながっていると考えられている。

(2) 今後に向けて

今年度の実践により、多くの生徒が新体力テストにおいてよい結果を得ることができた。しかし、同じ実践を続けるだけで、今後もよい結果を残すことは限らない。そのため、生徒同士の交流をさらに増やし、アドバイスし合うことによって技量を高めていきたい。また、生涯スポーツにつなげるために、さまざまな種目を授業に取り入れ、生徒がより多くの種目に触れ、スポーツが楽しいと思えるようにしていきたい。そして、自分に合った運動をこれからも取り入れられるように支援を続けていきたい。

デジタル人材の育成に結び付く体育活動

—生徒の主体性を大切に—

愛知県立愛知総合工科高等学校

1 はじめに

本校は、校訓「夢志実現、輝かせ 知・技・心」の理念のもと、理工科、機械加工科、機械制御科、電気科、電子情報科、建設科、デザイン工学科といった多様な専門学科を有する工科高校として、知識・技術・人間性の調和を図った人材育成に努めている。特に理工科では、教科横断的な探究学習を重視し、大学進学にも対応できる教育体制を整えている。また、令和8年度から附属中学校（理工探究コース）を開校し、中高一貫教育のもと、早期からものづくりに親しむ環境を整える。これにより、専門知識・技能の習得に加え、健康でたくましい体力が社会で活躍するために欠かせない要素であることを踏まえ、生徒の体力づくりにも一層力を注いでいきたい。

2 科目「体育」の取り組み

(1) ラジオ体操第一の実践

本校では開校以来、準備運動としてラジオ体操第一を行っている。その理由は、現在も製造業を中心に、始業時にラジオ体操第一を実施している企業が多いためである。この取組は、企業文化と教育の接点として重要な役割を果たすものと捉えており、短時間で全身を動かすことができる効率的な運動で、限られた時間の体育活動に適していると考えている。

(2) ICTの積極的な活用

本校はDXハイスクール指定校であり、科目「体育」の授業においてもICTを様々な場面で活用し、デジタル人材の育成に努めている。ICTを活用することで、効果的に身体の動かし方を習得し、その結果、体力向上にもつながっていると考えられる。ここでは個人種目における授業実践を紹介する。

ア 「陸上競技」では、ジャベリックスロー【写真1】や三段跳び【写真2】などの動画撮影を行い、グループごとに共有して動作分析を行う。話し合いと実践のサイクルを繰り返すことで、技能の向上を図っている。

イ 「器械運動」では、生徒同士でマット運動の演技を撮影し、オンラインコミュニケーションツールに投稿して教員からフィードバックを受ける【写真3】。この方法により、複数の生徒へのリアルタイム指導や、個別の評価・改善点等をコメントとして残すことが可能となる。生徒自身が後から見直せる点でも、きめ細や



【写真1 動画撮影】



【写真2 動画分析】

かな指導の実現につながっていると考える。

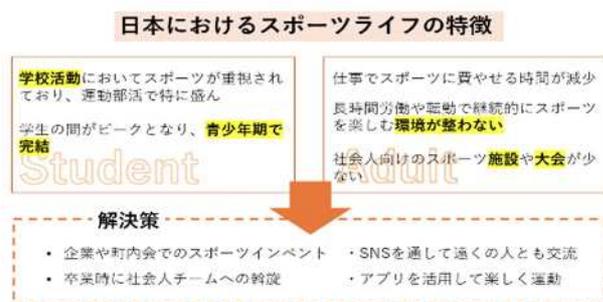
ウ 「ダンス」では、見本となる動画をオンラインコミュニケーションツール上に投稿し、リズムや規定ステップの例を資料で示すことで、学びの可視化を図っている。また、生徒が自ら音源の編集に挑戦するなど、タブレットの活用は多岐にわたる。



【写真3 マット運動】

(3) 主体的・対話的で深い学びの実現

本校では「体育理論」において、オンラインコミュニケーションツールのファイルにグループごとのパワーポイントを共有し、個人で小単元別にスライドを作成して、共同編集を経て一つの単元を完成させている【写真4】。一人ひとりに役割と責任を与えることで、誰かに任せきりになることを防ぎ、主体的に調べてまとめたり、グループ内でコミュニケーションを図りながら理解を深めたりすることができる【写真5】。また、その後の全体発表を通して、プレゼンテーションによる「伝える力」と、他者の知識や意見を取り入れた上で考える「聞いてまとめる力」が養われる。こうした活動が、生徒主体の授業の実現につながっている。



【写真4 生徒が作成したスライド】



【写真5 グループ別共同編集の様子】

3 スポーツ大会

3月に1・2年生を対象とし、生徒会執行部、議員の運動常任委員、運動部活動に所属する生徒が中心となって実施している。実施競技は、4×4バスケットボール（3×3の4人制 ver.）、ボッチャ、ノンプレッシャーテニスボールを使用した3人制テニスなどのインクルーシブスポーツや、ソフトバレーボール、フットサルである。運動が得意な生徒だけでなく、運動が苦手な生徒も楽しめるように工夫することで、活気あるスポーツ大会となっている。

4 終わりに

開校以来、授業や体育的行事など試行錯誤を繰り返し、取組が形になってきた矢先に新型コロナウイルス感染症拡大により、一時的に停滞を余儀なくされた。しかし、開校10年目を迎え、一定の成果を得ることができている【写真6】。令和8年度からは附属中学校の開校により、中高一貫教育が導入される。このことを新たな好機と捉え、相互に連携を図りながら積極的に交流する中で体力向上を模索していきたい。また、生涯にわたり運動に親しむ態度を育成し、日本一の工科高校になるべく、生徒の主体性を生かしながら、デジタル人材の育成につながる体育活動を追求していく。



【写真6 開講10周年の人文字】

生涯にわたって運動に親しむ力を育む体育活動

— 「運動嫌い」を減らす体育活動の実践 —

愛知県立江南高等学校

1 はじめに

本校は、全日制普通科で、各学年8クラスを有し、全校生徒948名が在籍している。校訓「学び はげみ 学べ」のもと、「変化の激しい時代を生き抜く力を育む」という教育目標を掲げ、予測困難な社会を力強く生きることができる生徒の育成を目指して教育活動を展開している。

生徒の特徴として、運動好きな生徒が比較的多い一方で、自分のイメージどおりに身体を操作できず、その結果、運動に苦手意識を抱いてしまう、いわゆる「運動嫌い」の生徒も一定数見受けられる。保健体育科では、運動に苦手意識を抱く生徒が「運動は楽しい」「もっとやりたい」と感じられるような活動を取り入れ、「運動嫌い」を減らすことを目指しており、こうした活動が生涯にわたって自発的に運動に親しむことができる資質・能力を育成すると確信している。

2 科目「体育」の授業について

(1) 授業時間について

本校では、1単位時間を65分とし、A週・B週の2パターンの時間割で教育活動を行っている。体育の授業は、1・3年生が週2単位時間、2年生は週2単位時間と週1単位時間を交互に実施している。65分授業により、生徒の運動量を十分に確保できるとともに、球技などでは試合形式の授業内容に多くの時間を充てることができ、体力向上につながる要因となっていると推察している。

(2) 準備運動

ラジオ体操第二に加え、補強運動として腕立て伏せ、腹筋運動、背筋運動を毎時間実施している。補強運動は、生徒の体力レベルに応じて内容をアレンジしており、例えば、2人ペアで行う腕立て伏せやスクワットなど、飽きずに取り組める活動を導入している。楽しみながら筋力の向上を図るとともに、仲間との交流を深める場としても機能している。



【写真1 補強運動の例】

(3) 活動例

ア 毎時間の目標設定とメリハリのある活動

前述のとおり、生徒の運動量を十分に確保できるため、球技などでは「目標設定→目標達成を目指した活動→タスクゲームで目標達成の確認」という流れを毎時間展開している。目標の達成が困難な生徒に対しては、教師が観察しながら個別指導を行い、できることから段階的に支援している。また、試合形式の時間を十分に確保することで、生徒は技能や体力を効果的に高めることができる。

イ 仲間との言語活動を多く取り入れる活動

目標達成のために、教師からの一方的な指導だけでなく、仲間同士で教え合う活動や、グループで課題を設定し、その解決方法を考えさせる活動を取り入れている。言語活動を充実させることで、仲間の考えや意見などを共有することができ、生徒が主体的に課題に取り組むことが可能になると考えている。



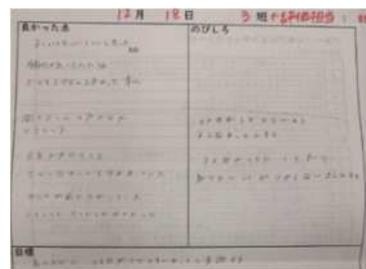
【写真2 課題解決の場面の例】

ウ 振り返りの充実

毎時間の目標に対して、生徒がどれだけ達成に向けて取り組めたか振

り返る時間を設けている。自己の取組をシートにまとめたり、仲間と意見交換したりすることで、次時以降の活動に役立てることができる。

また、模範的な活動を行った生徒を全体の場合において評価することで、自己肯定感の向上につなげる工夫や、仲間とのコミュニケーションで得られた気づきなどを共有することで、次の授業において「課題に再挑戦したい」という課題解決への意欲を高める授業展開の工夫をしている。



【写真3 振り返りシートの場合】

3 特別活動の充実

(1) 体育祭

9月と10月に「藤波祭」として文化祭と体育祭を実施している。体育祭の運営は生徒会を中心に、各クラスの体育委員や運動部の生徒が担っている。特徴は、学年の壁を越えて団結できるよう、3学年を1クラスずつ縦割りにして8ブロックを編成し、種目の得点に応じて優勝を決めるブロック制を採用していることである。また、運動嫌いの生徒も楽しめるよう、リレーや綱引きなど競技性の高い種目に加え、身体能力の高さが結果に直結しにくい独自の種目（宅配便リレーなど）を導入している。これにより、生徒全員が参加・活躍することで、体育祭は毎年大いに盛り上がっている。



【写真4 宅配便リレーの様子】

(2) 球技大会

球技大会はバスケットボール、サッカー、バレーボール、バドミントン、ソフトボール、ドッジボールの6種目の中から、クラスで出場する種目を話し合って決定させている。多くの種目を設定し、選択の幅を広げることで、生徒の主体的な取組を促している。また、各種目においては、ルールや用具を工夫している。例えば、バレーボールではサーブをアンダーハンドに限定してレシーブをやすくしている。また、連続ポイントの場合でもローテーションして、すべての生徒が様々なポジションを担うことで、一方的なゲーム展開とならないようにしている。また、ドッジボールは柔らかいボールを使用することで、恐怖心の軽減を図っている。こうした配慮により、運動嫌いな生徒も安心して競技に取り組むことができる。



【写真5 球技大会の様子】

4 部活動

本校は17の運動部と、8の文化部が県大会や全国大会出場を目指して精力的に活動している。運動部の活動場所は、グラウンド、体育館、武道場、プール、テニスコート、弓道場など多岐にわたるが、特に体育館を使用する8つの部については、ローテーションを組んで使用時間を割り振り、効率的な活動場所の確保に努めている。令和7年度は体育館の空調工事があり、活動場所の確保が困難であったため、教室等でのトレーニングや外周のランニング、近隣スポーツ施設の活用など、各部活動が工夫を凝らして活動した。

5 おわりに

生徒が生涯にわたって自発的に運動に親しむ資質・能力を身に付けるためには、体育の授業や特別活動、部活動などの内容を日々精選し、創意工夫を凝らした学習環境を整備することが重要である。こうした環境整備は、運動が得意な生徒とともに、運動嫌いの生徒も楽しく運動することにつながり、結果として体力の向上にも寄与すると考える。今後も学校や生徒の実態に即した創意工夫を凝らした学習環境を整え、生徒が「運動は楽しい」と感じられる授業づくりに努めていきたい。

高め、励ましあい、生涯につながる運動意識を育成する体育活動

—実態に応じた運動で、学校ならではの体力向上を目指す—

愛知県立西尾東高等学校

1 本校の実態

本校の生徒は明るく活気のある雰囲気を持ち、日常の学校生活において何事にも前向きに取り組む姿勢が特徴である。授業前後の挨拶や準備・片付けの場面では、生徒同士が声を掛け合いながら協力しており、円滑なコミュニケーションが図られている様子がうかがえる。こうした良好な人間関係は、学習活動のみならず、授業や部活動といった集団での活動においても大きな強みとなっている。学習面においては、授業に真面目に取り組む姿が見られ、体育の授業や部活動においても、体力向上を目的としたトレーニングや技能の習得を必要とする課題に対して、途中で投げ出すことなく継続して努力する生徒が多い。また、これらの場面では仲間同士が互いの頑張りを認め合い、声を掛け合うことで個々の運動意欲が高まり、その結果、授業や部活動全体の一体感の醸成につながっている。こうした経験を3年間積み重ねることで、体力向上が図られるとともに、協働する力や継続して努力する態度が着実に育まれ、豊かな体育文化が根付いていると感じている。

2 体力づくりのための取組

(1) 各学年の実態に応じた体力づくりのための運動

本校の体育では、整列と挨拶を行った後、ラジオ体操第2を実施し、さらに体力づくりのための運動を取り入れている。これらの運動は、各学年の体力テスト結果や授業での生徒の反応をもとに毎年度見直し、学年ごとの実態に応じた内容を設定している。

例えば、今年度の1年生は20mシャトルランの平均得点が例年と比較して低かったため、持久力の向上を目的として2分間走やグラウンド一周のランニングを実施した。

3年生ではボール投げや上体起こし等の平均点が低かったことから、腕立て伏せや腹筋運動を中心とした補強運動を行っている。また、授業中の生徒の動きを観察し、下半身の筋力が弱いと判断した場合にはスクワットを取り入れるなど、指導者間で情報を共有しながら内容の調整を行っている。柔軟性に課題が見られた際にはストレッチを重点的に行うなど、基礎的な体力要素をバランス良く育てる工夫をしている。

こうした取組の継続により、生徒が自らの体力や課題を意識し、仲間と声を掛け合いながら運動に取り組



【写真① 体育の授業で補強運動をしている様子】

む姿が多く見られるようになった。補強運動では、互いに回数を確認したり、運動フォームをアドバイスしたりする生徒も見られ、体力の向上とともに、集団全体の協力的な雰囲気づくりにもつながっている。

(2) 西尾東名物「のぼり路」を活かした体力づくり

本校には正門から正面玄関までの間に「のぼり路」と呼ばれる約60mの坂道があり、部活動のトレーニング場所として有効に活用されている。特に、グラウンドや体育館での活動ができない部活動は、のぼり路を利用して走り込みや体力トレーニングを行い、活動の質を維持している。時には複数の部活動が同じ時間帯に使用することもあり、部活動の垣根を越えて互いに励ましの声を掛け合う姿が見られる。「最後までがんばれ」「負けるな」と声を掛け合う光景は、生徒の体力向上のみならず、仲間を思いやり、互いに高めようとする望ましい姿である。



【写真② のぼり路】

(3) 各部活動の取組

本校には19の運動部と10の文化部を設置しており、どの部活動も活発に活動している。運動部はどの部も高い目標を掲げ、達成に向けて日々取り組んでおり、その結果、多くの部活動が県大会に出場している。

本校は敷地面積が広く、メイングラウンドでは野球、サッカー、ソフトボール、陸上の4つの部活動が同時に活動できるほか、ハンドボールコート2面、テニスコート8面を設置している。体育館はバレーボールコート2面分の広さのため、使用時間の調整が必要となるが、使用時間外の活動は校舎周辺やのぼり路を走るなどの工夫を凝らしている。

このように活動環境の制限が比較的に少ないことは、生徒が思いきり体を動かせる時間の確保につながり、部活動の活発化と生徒の体力向上を支える要因となっている。

3 まとめ

本校では、生徒同士が互いに励まし合い、高め合いながら運動に取り組む環境が整っており、こうした日々の実践が体力の向上と、生涯にわたって運動に親しむ意識の育成に結び付いていると考える。その一方で、運動が得意な生徒と苦手な生徒が混在する中、運動への意識や体力の差が依然として課題として存在している。

今後は、運動が得意かどうかにかかわらず、すべての生徒が運動の意義や楽しさを実感できる授業づくりを進めるとともに、生徒一人一人の実態に応じた支援をより丁寧に行っていききたい。これらの取組を継続・発展させることで、本校ならではの体力づくりを一層推進し、生徒の健やかな成長と豊かな体育文化の醸成につなげていきたい。

リズムを取り入れたウォーミングアップの発展

—新エアロビクスを用いて—

愛知県立時習館高等学校

1 はじめに

本校は本年度、創立132周年を迎える歴史と伝統を有する学校である。その中で、古くからの良き伝統を大切にしつつ、変化を恐れず、新しい時代にふさわしい取組を取り入れる「不易流行」の精神を掲げている。この精神のもと、体育の授業におけるウォーミングアップでは、従来のラジオ体操に代わり、エアロビクスを実践している。この取組は、平成28年度から令和元年度の4年間で実施した研究に端を発し、令和元年度には、全国学校体育研究大会において全国学校体育研究優良校として表彰された。当時の研究テーマは「効果的なウォーミングアップの検討—体育授業時のウォーミングアップにおけるエアロビクスの実践について—」であり、生徒が1曲の動きを覚えて繰り返し実践する形で取り組んだ。その後も、継続してエアロビクスを導入し、効果を実感してきたが、3年間を通した体育授業の中で、さらに発展的な学習ができないものかと考えた。そこで新たに振り付けを創作し、「新エアロビクス」として実践することとした。

2 研究概要

(1) 目的

本研究では、これまでウォーミングアップで取り組んできた「エアロビクス」(曲:tora tora tora)に加え、新たに本校保健体育科が創作した「新エアロビクス」(曲:Love&joy)を導入し、心拍数の変化及びアンケート結果から、その効果を検証する。これにより、体育授業におけるウォーミングアップの充実を図るとともに、生徒の体力向上を目的とする。

(2) 「新エアロビクス」作成の狙い

従来の「エアロビクス」に加え、新たに「新エアロビクス」を取り入れた理由は2点ある。1点目は、従来のエアロビクスのマンネリ化を解消するためである。従来の取組に生徒が慣れ、動きが形骸化してきており、本来の目的である「ウォーミングアップとして心身を整える」という効果が十分に得られなくなっていた。そこ

で、新しい刺激を与えることで、活動の質を高められると考え、新エアロビクスを導入した。2点目は、採用した楽曲「Love&joy」への生徒の親和性の高さである。この曲は以前から体育授業のランニング時に頻繁に使用しており、生徒にとって馴染み深く、自然と身体が動く楽曲であった。そのため、この曲を活用したエアロビクスであれば、生徒がより積極的かつ楽しみながら取り組むことができるだろうと考え



【写真1 新エアロビクスを踊る生徒たち】

た。

(3) 方法

授業開始時のウォーミングアップとして、従来の「エアロビクス」を行う日と、「新エアロビクス」を行う日を設定し、それぞれ実践前後の心拍数を測定して、運動強度を比較する。また、「新エアロビクス」を行った日については、授業終了後にアンケートを実施し、分析・検証する。なお、どちらも約3分30秒の曲であり、BPMは従来の「エアロビクス」が128、「新エアロビクス」が145である。一般にBPMが高いほど心拍数が上昇しやすく、運動強度も高いと考えられる。

(4) 実践内容・結果

ア 心拍数の変化による比較

どちらも実施前の安静時の心拍数に差はなく、同じ条件で実施・比較ができた。それぞれ4回ずつ計測し、「エアロビクス」は平均心拍数が120～130拍/分であったのに対し、「新エアロビクス」では140～150拍/分であった。この結果から、「新エアロビクス」の方が運動強度が高いことがわかる。心拍数の上昇が大きい分、より効果的なウォーミングアップとするためには、軽いストレッチなどを組み合わせ、安全面にも配慮することが必要であると考えられる。

イ アンケート結果

設問1の『「エアロビクス」と『新エアロビクス』ではどちらが楽しいか』では、半数以上が「新エアロビクス」と回答した。その理由として、「テンポが速く難しい点」、「曲が盛り上がる」、「1曲のみでは飽きてしまう」ことなどが挙げられた。難しさを楽しさと捉える生徒が多かったことは興味深く、新しい動きへの挑戦が動機付けになっているものと考えられる。

設問2の『「エアロビクス」と『新エアロビクス』ではどちらの方が運動強度が高いと感じたか』では、ほとんどの生徒が「新エアロビクス」と回答した。想定したとおり、BPMの高い「新エアロビクス」の方が運動強度は高かった。

設問3の「今後どちらを実践したいか」では、「どちらも行いたい」という意見が多かった。

設問4の「ウォーミングアップにおけるエアロビクスの導入は、運動量確保において有効か」では、ほとんどの生徒が「有効である」と回答し、運動量確保に寄与していることが改めて確認できた。

3 まとめ

これまでウォーミングアップとして実施してきた「エアロビクス」は、運動強度の確保や心理的な導入として有効である点に変わりはない。今回、新たに取り組んだ「新エアロビクス」は、心拍数の上昇や運動量の確保の面で、より高い効果が見られた。また、2曲を交互に取り入れることで、生徒の興味・関心の低下を防ぎ、継続的な意欲の保持に寄与した。このように、リズムを取り入れたウォーミングアップの工夫・発展により、安全かつ効果的に心拍数を上昇させられるとともに、生徒の体力向上につなげることができた。さらに、運動を楽しむ生徒も増え、運動に親しむ動機付けとしても有効であると考えられる。

主体的に体力の向上に取り組む幼児児童生徒の育成

愛知県立豊橋豊学校

1 はじめに

本校は、東三河地区に所在し、聴覚障害を有する幼児・児童・生徒が通う聾学校である。令和7年度の在籍状況は、幼稚部5名、小学部11名、中学部6名、高等部14名である。

本校の特色は、幼小中高の一貫教育を行っている点にある。一人ひとりのよさや能力、特性を踏まえ、子どもの可能性を最大限に伸ばすとともに、発達段階に応じた継続的な教育活動を展開している。また、「よし、やってみよう！きっと心が動くから」をキャッチフレーズに掲げ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりに取り組んでいる。さらに、11月中旬から2月頃までの冬季には、体力の向上と健康の保持増進を目的として「体力づくりの時間」を設定し、各部で特色ある活動を実践している。本稿では、その取組の概要を報告する。

2 実践の内容

(1) 幼稚部「忍者ごっこ」

幼稚部では、3・4・5歳児全員が一緒に活動する「合同活動」の時間がある。合同活動では、行事に合わせた製作活動や季節の遊び等に取り組んでいる。12月の合同活動では、遊びの要素を取り入れた「忍者ごっこ」を実施し、多様な動きを取り入れ、ボディイメージの向上や筋力・調整力の育成を図った。障害物の種目とねらいについては【表1】に示す。子どもたちは俊敏な忍者の動きを模倣し、「かっこいい忍者になろう！」という気持ちで楽しみながら、前向きに運動に取り組んでいた。また、各障害物の始めと終わりに「にんにん！」と大きな声を出し、教師や仲間と楽しく関わり合う場面も見られた。忍者のポーズは視覚的に分かりやすく、「にんにん」という合言葉は短いフレーズで認識しやすいため、聴覚障害を有する幼児にとって馴染みやすい決めポーズ、決めゼリふとなり、興味・関心を高めた。また、1月から2月には200mのトラックを1～3周走る「マラソン」や「縄跳び（長縄・短縄）」にも取り組む。楽しい遊びから体力づくりへと発展させ、教師や仲間と関わり合いながら健やかな体を育むことが、幼稚部段階での体力づくりにおいて重要であると考えた。

(2) 小学部「ジョギングタイム～ラン Run フェスティバルへ挑戦しよう～」

小学部では、11月中旬から12月中旬まで「ジョギン

種目	ねらい
棒跳び	物の大きさを把握して、ジャンプで跳び越える力を高めること
ジグザグ走	瞬発的に走りだしたり、止まって体の向きを変えたりする力を高めること
壁隠れとダッシュ	他者の動きに合わせて状況を判断し、走ったり止まったりする力を高めること
雲梯+ぶら下がり	体を支えて、ぶら下がる力を高めること
片足跳躍・両足跳躍	着地に使う足を考えて、続けて跳び続ける力を高めること
台上跳び降り	高い位置から飛び降りて両足で着地する力を高めること
平均台わたり	平均台の上でバランスを保ちながら交互に足を繰り出して前に進む力を高めること
トンネルくぐり	くぐり抜けることで、体の大きさと周囲の環境を把握する力を高めること
手裏剣的当て	的をめがけて、物を投げる力を高めること

【表1 「忍者ごっこ」で設定する種目とねらい】



【写真1 「忍者ごっこ」の様子】

グタイム」と題して、長距離走に取り組んだ。個々の実態に応じて、200mトラックまたは特設の100mコースを選び、10分間走り続け、周回数を記録した。小学部の「ジョギングタイム」は特別時間割を設定し、授業時間を調整して活動時間を確保している。毎日10分間、諦めずに走り続けることを一番の目標とし、完走や自己の記録が積み重なることで、子どもたちは喜びや達成感を感じ、前向きに長距離走に取り組む姿が見られた。また、毎年12月には近隣の小学校で開催される

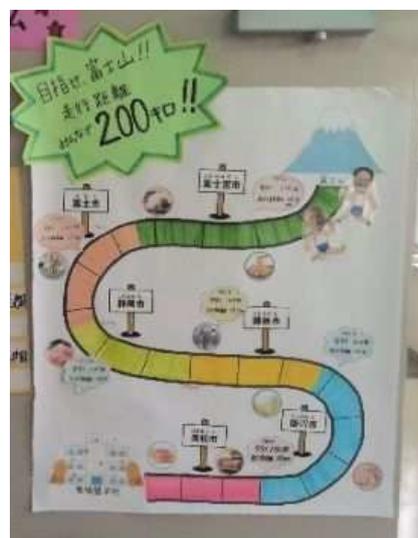


【写真2】
小学部「ジョギングタイム」の様子

されるマラソン大会「ランRun フェスティバル」に交流を兼ねて参加している。大会への参加は日々の努力の成果を発揮する場となり、子どもたちは順位や記録に目標をもって挑戦していた。障害の有無に関係なく、互いを称え合いながら自己の記録に挑戦する様子からは、心身の成長がうかがえた。

(3) 中学部・高等部「ジョギングタイム～めざせ富士山200km～」

11月中旬から12月中旬にかけて小学部と同様に「ジョギングタイム」を実施し、中学部と高等部が合同で長距離走に取り組んだ。今年度は、200mのトラックを20分間走り続け、周回数を記録し、成果を振り返った。活動を通して自己の体力を知り、ペース配分を考えながら長く走り続けたり、記録の向上を目指して挑戦したりする姿が見られた。また、今年度は「めざせ富士山200km」を目標に設定し、全員の距離を合算して達成を目指した。成果を可視化するため掲示物を作成し、本校のある豊橋市から約200km離れた富士山を目指すこととした【写真3】。走った距離に応じてマス目に色を塗り、数字で距離を把握することが苦手な生徒でも進捗や成果を視覚的に把握できるよう工夫した。総距離が更新されるたびに、色を塗ったマス目を指差し、残りの距離を確認する生徒の姿も見られた。今年度は、最終的な総距離が201.8kmに達し、一人ひとりの努力の積み重ねによって目標を達成した。取り組んだ生徒の表情は自信に満ち、充実した活動となった。



【写真3】
中高ジョギングタイムの
成果表「目指せ富士山200km」

3 おわり

本校の強みは、幼小中高の一貫教育に基づき、発達段階を踏まえた継続的な指導を行っている点にある。幼稚園では、遊びを通して体の使い方を学び、楽しく運動に親しむことを重視している。小学部では、自己の力を高める努力を経験し、マラソン大会への挑戦を通じて、仲間と運動する楽しさや喜び、達成感を味わうことができる。小学部で身に付けた体力は、中学部・高等部においてさらなる向上を目指すことで、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質・能力の育成へとつながっている。「よし！やってみよう。きっと心が動くから」というキャッチフレーズのように、前向きな目標を設定し、運動計画を立て、健康で活力ある生活を営むことができる力を育てていきたい。今後も、幼児・児童・生徒が主体的に体力づくりに取り組めるよう、発達段階に応じた指導の工夫と改善を重ねていく。

体育的活動を基盤とする主体的な学びの創造

—授業・行事・部活動を通じた生徒の成長と協働—

日本福祉大学附属高等学校

1 はじめに

本校は、愛知県知多郡美浜町にある私立の高等学校で、日本福祉大学を母体とする附属校として設立された。創立は昭和33年（1958年）で、当時の校名は「日本福祉大学附属立花高等学校」であった。開校当初は、名古屋市昭和区杵中の大学敷地内に設置されていたが、昭和57年（1982年）に、現在地である知多郡美浜町奥田に移転し、知多半島の自然豊かな環境の中で教育活動を行っている。平成30年（2018年）には創立60周年を迎え、この節目を機に、ICT教育の導入、英語教育の充実、キャリア教育の強化など、時代の変化に対応した教育改革を進めている。

現在は、普通科に「文理コース」「グローバル英語コース」「総合進学コース」「スポーツコース」の4つのコースを設け、生徒一人ひとりの個性や将来設計に応じた学びを提供している。また、母体である日本福祉大学と連携し、高大接続教育や地域貢献活動を積極的に展開している。大学の教育資源を活用した専門的な学びや、地域社会との協働活動を通じて、「ふくし」を実践する教育を行っている。

2 授業カリキュラムと本校の特徴

本校の科目「体育」は、1年生で2単位、2・3年生で3単位を履修する。特に3年生で3単位履修することは、運動機会を確保し、部活動引退後の体力低下を防ぐとともに、生涯にわたり運動に親しむ態度の育成につながっている。体育の授業は全学年で男女共習とし、男子の運動能力を生かしたダイナミックな活動と、女子の柔軟性や協調性を生かした活動を組み合わせ、互いに助け合いながら学び合う姿が見られる。スポーツコースでは専門的な学びを充実させ、2年生で「スポーツ演習Ⅰ」（4単位）、3年生で「スポーツ演習Ⅱ」（2単位）、「スポーツ探究」（2単位）を履修する。

本校の体育の活動を支えているのは、大学と共有する広大な敷地にある充実した体育施設である。人工芝グラウンド、陸上用タータントラック、テニスコート、野球場、ゴルフ練習場、武道場、6面分のバスケットボールを備える体育館など、各競技に適した環境が整っている。これらの施設は、生徒が思い切り体を動かしながら学ぶことができる場であり、高大連携教育の取組にも活用されている。

3 実践内容

(1) 体育授業の充実

前述のとおり、体育の活動は、広大な敷地にある充実した施設に支えられている。また、施設・設備は安全性が高く、競技の特性や技能、戦術を安心して快適に学ぶことができるため、授業への意欲が高まり、運動量の確保にもつながっている。

スポーツコースの「スポーツ演習」は2時間続きで授業を行っており、けがの予防等安全への配慮から、ウォーミングアップやクーリングダウンの時間を十分確保している。また、課題解決のための練習

計画や戦術練習、試合に向けた作戦の立案など、学びの質を高めるための対話を重視した取組を進めている。これにより、生徒は技能の習得だけでなく、主体性や思考力を養うことができている。

さらに、高校教員による授業に加えて、日本福祉大学の教授や外部講師による講義を取り入れ、専門的な知見を深めるとともに、多角的な視点の形成を図っている。



【写真1 スポーツ演習の様子】

(2) 体育的行事の充実

体育祭はスポーツコースの授業の一環として位置付けられており、準備や種目の選定、ルールの検討、運営などを生徒が中心となって担っている。生徒会役員、体育祭実行委員、色別対抗の各団長、演劇部による音響担当など、様々な役割を担う生徒が互いに関わ合うことで、協調性や主体性、責任感を育成している。

体育祭は、国際大会も開催可能な美浜町運動公園陸上競技場を会場とし、プロのスポーツDJによる実況を依頼するなど趣向を凝らし、活気ある行事となっている。また、種目は参加しやすさを重視し、運動が苦手な生徒でも楽しめるような内容や応援合戦を取り入れて、全生徒が主体的に参加できるよう工夫している。



【写真2 陸上競技場】



【写真3 スポーツコース発表】



【写真4 体育祭運営の様子】

(3) 部活動

部活動は、男女各8種目の運動部と、男女合同で8つの文化部を設置しており、日々活動に取り組んでいる。特に運動部は、大学のトレーニングジムの利用や、専門トレーナーによる指導など、本校の充実した環境を生かし、県大会や東海大会への出場など成果を上げている。

さらに、強化指定部をはじめとする運動部の生徒が、体育の授業や体育的行事においてリーダーシップを発揮し、活動全体を活性化している。こうした好循環は、生徒たちの運動への関心や意欲を高め、主体性の向上にもつながり、その結果、体力向上にも寄与していると考えられる。

4 終わりに

本校では、体育の授業・体育的行事・部活動を、生徒の主体性や協働性を育む重要な教育活動として位置づけている。これらの活動を通して、生徒は仲間とともに考え、支え合いながら成長し、体力の向上も図られている。

今後も、生徒一人ひとりが心身の健康を維持しながら可能性を大きく広げていけるよう、さらなる教育活動の充実を図っていきたい。

体力づくり優良校一覧

●昭和53年度

名古屋市立幡下小学校
名古屋市立浮野小学校
名古屋市立村雲小学校
名古屋市立野立小学校
稲沢市立稲沢東小学校
一宮市立貴船小学校
大山市立犬山北小学校
西春日井郡西枇杷島町立西枇杷島小学校
東海市立横須賀小学校
知多郡南知多町立豊丘小学校
海部郡弥富町立白鳥小学校
東加茂郡下山村立花山小学校
西加茂郡三好町立北部小学校
岡崎市立連尺小学校
岡崎市立岩津小学校
西尾市立矢田小学校
北設楽郡東栄町立粟代小学校
南設楽郡作手村立開成小学校
豊橋市立吉田方小学校
豊川市立天王小学校
蒲郡市立三谷東小学校
名古屋市立鳴海中学校
愛知郡東郷町立東郷中学校
常滑市立常滑中学校
海部郡弥富町立弥富中学校
東加茂郡下山村立下山中学校
豊田市立松平中学校
岡崎市立甲山中学校
北設楽郡稲武町立稲武中学校
新城市立東郷中学校
蒲郡市立三谷中学校
県立安城東高等学校
県立千種高等学校
県立三好高等学校
県立豊橋東高等学校
県立一宮高等学校
県立東郷高等学校
県立半田商業高等学校定時制課程
名古屋市立桜台高等学校
私立名城大学付属高等学校

●昭和54年度

名古屋市立千種小学校
名古屋市立富士見台小学校
名古屋市立伝馬小学校
名古屋市立太白小学校
一宮市立千秋小学校
中島郡祖父江町立長岡小学校
丹羽郡大口町立大口西小学校
春日井市立篠木小学校
知多市立岡田小学校
海部郡美和町立正則小学校
東加茂郡下山村立羽布小学校
東加茂郡足助町立足助小学校
豊田市立元城小学校
安城市立志貴小学校
刈谷市立亀城小学校
額田郡額田町立宮崎小学校
北設楽郡東栄町立中央小学校
南設楽郡作手村立協和小学校
宝飯郡音羽町立長沢小学校
渥美郡渥美町立清田小学校
名古屋市立日比野中学校
丹羽郡大口町立大口中学校

知多郡美浜町立野間中学校
海部郡甚目寺町立甚目寺中学校
豊田市立朝日丘中学校
知立市立竜北中学校
北設楽郡設楽町立田口中学校
南設楽郡作手村立作手中学校
豊川市立南部中学校
豊橋市立高豊中学校
県立三好高等学校
県立一宮高等学校
県立小坂井高等学校
県立天白高等学校
県立豊橋東高等学校
県立一宮商業高等学校
県立熱田高等学校定時制課程
名古屋市立若宮商業高等学校
私立中京高等学校

●昭和55年度

名古屋市立旗屋小学校
名古屋市立松原小学校
名古屋市立西味碗小学校
名古屋市立高木小学校
中島郡平和町立三宅小学校
一宮市立丹陽西小学校
岩倉市立岩倉東小学校
瀬戸市立古瀬戸小学校
春日市市立高森台小学校
知多市立旭南小学校
海部郡弥富町立弥生小学校
東加茂郡旭町立敷島小学校
豊田市立市木小学校
岡崎市立梅園小学校
北設楽郡豊根村立豊根小学校
南設楽郡鳳来町立中部小学校
豊橋市立鷹丘小学校
名古屋市立宝神中学校
一宮市立奥中学校
愛知郡日進町立日進中学校
知多郡美浜町立河和中学校
東海市立加木屋中学校
海部郡佐織町立佐織中学校
東加茂郡足助町立足助中学校
豊田市立猿投中学校
岡崎市立矢作中学校
北設楽郡津具村立津具中学校
新城市立八名中学校
蒲郡市立中部中学校
豊川市立代田中学校
県立安城東高等学校
県立西尾東高等学校
県立一宮北高等学校
県立惟進高等学校
県立岡崎商業高等学校
県立天白高等学校
県立岡崎高等学校定時制課程
名古屋市立向陽高等学校
私立名古屋短期大学付属高等学校

●昭和56年度

名古屋市立矢田小学校
名古屋市立山吹小学校
名古屋市立千代田橋小学校
名古屋市立八事小学校
中島郡祖父江町立山崎小学校

海部郡蟹江町立学戸小学校
東加茂郡旭町立小渡小学校
豊田市立畷部小学校
岡崎市立城南小学校
北設楽郡設楽町立田口小学校
一宮市立富士小学校
丹羽郡扶桑町立山名小学校
西春日井郡師勝町立師勝東小学校
小牧市立桃ヶ丘小学校
大府市立大府小学校
知多郡阿久比町立草木小学校
新城市立八名小学校
宝飯郡小坂井町立小坂井西小学校
渥美郡渥美町立神戸小学校
春日井市立松原中学校
常滑市立鬼崎中学校
海部郡立田村立立田中学校
東加茂郡旭町立旭中学校
豊田市立逢妻中学校
幡豆郡幡豆町立幡豆中学校
豊橋市立南部中学校
蒲郡市立蒲郡中学校
名古屋市立笹島中学校
名古屋市立南光中学校
尾西市立第一中学校
県立瀬戸高等学校
県立春日井東高等学校
県立犬山南高等学校
県立碧南高等学校
県立豊橋南高等学校
県立豊丘高等学校
県立新城高等学校
県立第二愛知工業高等学校
名古屋市立西陵商業高等学校
県立春日台養護学校

●昭和57年度

名古屋市立上野小学校
名古屋市立御園小学校
名古屋市立しまだ小学校
名古屋市立神の倉小学校
名古屋市立千鳥小学校
瀬戸市立東明小学校
愛知郡日進町立西小学校
春日井市立鳥居松小学校
江南市立古知野南小学校
稲沢市立坂田小学校
知多郡南知多町立日間賀小学校
知多郡東浦町立生路小学校
海部郡七宝町立伊福小学校
東加茂郡足助町立萩野小学校
西加茂郡三好町立中部小学校
碧南市立大浜小学校
北設楽郡津具村立津具小学校
渥美郡渥美町立和地小学校
豊川市立東部小学校
豊橋市立東田小学校
名古屋市立御幸山中学校
名古屋市立城山中学校
名古屋市立猪高中学校
尾張旭市立西中学校
葉栗郡木曾川町立木曾川中学校
一宮市立萩原中学校
半田市立青山中学校
西加茂郡藤岡町立藤岡中学校

安城市立安城北中学校
宝飯郡音羽町立音羽中学校
県立千種高等学校
県立西春高等学校
県立常滑北高等学校
県立安城東高等学校
県立西尾東高等学校
県立三好高等学校
県立東海商業高等学校
県立稲沢高等学校定時制課程
県立名古屋雙学校

●昭和58年度

名古屋市立戸笠小学校
名古屋市立梅森坂小学校
名古屋市立砂田橋小学校
名古屋市立伊勝小学校
名古屋市立本郷小学校
豊明市立大宮小学校
小牧市立三ツ瀨小学校
豊田市立土橋小学校
東加茂郡旭町立築羽小学校
新城市立庭野小学校
蒲郡市立竹島小学校
豊橋市立下地小学校
西春日井郡西春町立西春小学校
丹羽郡扶桑町立扶桑東小学校
海部郡甚目寺町立西小学校
知多市立佐布里小学校
幡豆郡吉良町立吉田小学校
名古屋市立桜田中学校
名古屋市立明豊中学校
名古屋市立守山中学校
春日井市立坂下中学校
中島郡祖父江町立祖父江中学校
海部郡蟹江町立蟹江北中学校
東海市立上野中学校
西尾市立福地中学校
一宮市立浅井中学校
北設楽郡東栄町立東栄中学校
豊川市立西部中学校
県立東郷高等学校
県立旭野高等学校
県立一宮高等学校
県立横須賀高等学校
県立豊田北高等学校
県立豊橋東高等学校
県立半田農業高等学校
県立東山工業高等学校
県立岡崎高等学校定時制課程
県立岡崎養護学校

●昭和59年度

瀬戸市立深川小学校
一宮市立末広小学校
海部郡立田村立南部小学校
東海市立加木屋南小学校
安城市立里町小学校
豊田市立滝脇小学校
渥美郡赤羽根町立高松小学校
名古屋市立昭和橋小学校
名古屋市立平和が丘小学校
名古屋市立東山小学校
海部郡七宝町立北中学校
知多郡東浦町立北部中学校

刈谷市立雁が音中学校
宝飯郡一宮町立一宮中学校
名古屋市立北山中学校
県立豊明高等学校
県立江南高等学校
県立安城高等学校
県立半田商業高等学校
県立小牧養護学校

●昭和60年度

春日井市立勝川小学校
西春日井郡清洲町立清洲小学校
江南市立宮田小学校
東海市立加木屋小学校
高浜市立港小学校
額田郡額田町立大雨河小学校
東加茂郡足助町立御蔵小学校
南設楽郡鳳来町立鳳来小学校
名古屋市立正色小学校
名古屋市立正保小学校
小牧市立小牧中学校
中島郡平和町立平和中学校
豊田市立若園中学校
豊橋市立羽田中学校
名古屋市立東陵中学校
県立高蔵寺高等学校
県立五条高等学校
県立岡崎高等学校
県立豊川工業高等学校
県立一宮養護学校

●昭和61年度

一宮市立西成東小学校
尾張旭市立城山小学校
海部郡佐屋町立佐屋西小学校
西尾市立西野町小学校
豊田市立童子山小学校
北設楽郡東栄町立下川小学校
豊川市立御油小学校
名古屋市立大須小学校
名古屋市立鶴舞小学校
名古屋市立吹上小学校
瀬戸市立東中学校
東海市立富木島中学校
碧南市立東中学校
名古屋市立八王子中学校
名古屋市立本城中学校
県立春日井高等学校
県立佐屋高等学校
県立半田東高等学校
県立刈谷東高等学校
県立豊橋西高等学校

●昭和62年度

尾西市立開明小学校
春日井市立玉川小学校
豊明市立三崎小学校
岩倉市立五条川小学校
刈谷市立東刈谷小学校
豊田市立青木小学校
蒲郡市立西浦小学校
宝飯郡音羽町立赤坂小学校
名古屋市立東白壁小学校
名古屋市立中川小学校
犬山市立城東中学校
海部郡佐屋町立佐屋中学校

岡崎市立竜南中学校
渥美郡渥美町立福江中学校
名古屋市立港明中学校
県立桃陵高等学校
県立豊田南高等学校
県立作手高等学校
県立豊川養護学校
名古屋市立名東高等学校

●昭和63年度

稲沢市立大塚小学校
小牧市立一色小学校
海部郡甚目寺町立甚目寺小学校
知多郡武豊町立緑丘小学校
安城市立桜井小学校
豊田市立寿恵野小学校
豊橋市立飯村小学校
名古屋市立大野木小学校
名古屋市立味鋤小学校
名古屋市立愛知小学校
一宮市立北方中学校
愛知郡日進町立日進中学校
額田郡幸田町立幸田中学校
新城市立新城中学校
名古屋市立神丘中学校
県立津島高等学校
県立岡崎北高等学校
県立愛知商業高等学校
県立国府高等学校
県立武豊高等学校

●平成元年度

一宮市立今伊勢小学校
春日井市立神領小学校
半田市立雁宿小学校
岡崎市立竜谷小学校
幡豆郡一色町立一色南部小学校
渥美郡渥美町立中山小学校
北設楽郡設楽町立名倉小学校
名古屋市立西山小学校
名古屋市立滝川小学校
名古屋市立福田小学校
東海市立平洲中学校
豊田市立高岡中学校
豊橋市立石巻中学校
名古屋市立川名中学校
名古屋市立はとり中学校
県立昭和高等学校
県立一宮西高等学校
県立半田高等学校
県立西尾高等学校
県立成章高等学校

●平成2年度

西春日井郡豊山町立新栄小学校
岩倉市立皆野小学校
愛知郡日進町立東小学校
海部郡弥富町立栄南小学校
岡崎市立六ツ美南部小学校
東加茂郡足助町立大原小学校
豊川市立国府小学校
豊橋市立天伯小学校
名古屋市立東桜小学校
名古屋市立大磯小学校
瀬戸市立光陵中学校
知多郡阿久比町立阿久比中学校

西尾市立東部中学校
豊橋市立南稜中学校
名古屋市立南陽東中学校
県立名古屋南高等学校
県立五条高等学校
県立常滑北高等学校
県立岡崎高等学校
県立豊橋工業高等学校

●平成3年度

豊川市立金屋小学校
豊橋市立植田小学校
安城市立桜林小学校
名古屋市立猪高小学校
名古屋市立八社小学校
名古屋市立鳴海東部小学校
名古屋市立石ヶ瀬小学校
海部郡蟹江町立蟹江小学校
一宮市立今伊勢西小学校
尾張旭市立端鳳小学校
渥美郡田原町立田原中学校
刈谷市立刈谷東中学校
名古屋市立扇台中学校
春日井市立岩成台中学校
海部郡佐屋町立永和中学校
県立一宮高等学校
県立武豊高等学校
県立岡崎北高等学校
県立豊丘高等学校
県立春日台養護学校

●平成4年度

名古屋市立御器所小学校
名古屋市立表山小学校
名古屋市立前山小学校
稲沢市立小正小学校
西春日井郡新川町立新川小学校
知多市立八幡小学校
豊田市立東山小学校
安城市立作野小学校
蒲郡市立三谷小学校
豊橋市立大崎小学校
名古屋市立原中学校
名古屋市立八幡中学校
犬山市立南部中学校
瀬戸市立水無瀬中学校
岡崎市立新香山中学校
県立美和高等学校
県立岡崎西高等学校
県立時習館高等学校
県立桃陵高等学校校定時制課程
私立栄徳高等学校

●平成5年度

知多郡美浜町立奥田小学校
愛知郡東郷町立東郷小学校
岩倉市立岩倉北小学校
小牧市立篠岡小学校
碧南市立日進小学校
豊田市立五ヶ丘小学校
南設楽郡鳳来町立連谷小学校
豊橋市立多米小学校
名古屋市立植田北小学校
名古屋市立枇杷島小学校
知多市立旭南中学校
稲沢市立稲沢西中学校
岡崎市立葵中学校

豊橋市立豊城中学校
名古屋市立東星中学校
県立瑞陵高等学校
県立横須賀高等学校
県立刈谷北高等学校
県立豊橋商業高等学校
県立名古屋盲学校

●平成6年度

尾西市立起小学校
豊明市立豊明小学校
海部郡弥富町立弥生小学校
半田市立雁宿小学校
宝飯郡一宮町立一宮南部小学校
安城市立新田小学校
岡崎市立細川小学校
名古屋市立鳴海小学校
名古屋市立南押切小学校
名古屋市立神宮寺小学校
一宮市立大和南中学校
瀬戸市立祖東中学校
豊川市立西部中学校
額田郡額田町立額田中学校
名古屋市立天神山中学校
県立日進西高等学校
県立丹羽高等学校
県立岡崎東高等学校
県立新城東高等学校
県立一宮東養護学校

●平成7年度

一宮市立神山小学校
尾張旭市立城山小学校
知多郡阿久比町立東部小学校
額田郡幸田町立中央小学校
東加茂郡足助町立大蔵小学校
豊田市立上鷹見小学校
豊橋市立二川南小学校
名古屋市立榎小学校
名古屋市立御園小学校
名古屋市立大清水小学校
海部郡蟹江町立蟹江中学校
幡豆郡一色町立一色中学校
豊橋市立豊岡中学校
名古屋市立御田中学校
名古屋市立鳴海中学校
県立春日井南高等学校
県立新川高等学校
県立阿久比高等学校
県立知立東高等学校
県立豊田工業高等学校

●平成8年度

渥美郡渥美町立福江小学校
岡崎市立六ツ美中部小学校
豊橋市立賀茂小学校
幡豆郡吉良町立白浜小学校
稲沢市立稲沢西小学校
西春日井郡西春町立栗島小学校
犬山市立犬山西小学校
海部郡佐織町立北河田小学校
名古屋市立港楽小学校
名古屋市立那古野小学校
豊田市立末野原中学校
南設楽郡鳳来町立鳳来中学校
日進市立日進東中学校
東海市立横須賀中学校

名古屋市立山王中学校
県立太白高等学校
県立木曾川高等学校
県立刈谷高等学校
県立御津高等学校
県立一宮豊学校

●平成9年度

小牧市立桃ヶ丘小学校
瀬戸市立八幡小学校
中島郡祖父江町立領内小学校
常滑市立大野小学校
西尾市立寺津小学校
豊田市立五ヶ丘東小学校
蒲郡市立形原小学校
名古屋市立瀬古小学校
名古屋市立平田小学校
名古屋市立中島中学校
一宮市立今伊勢中学校
海部郡美和町立美和中学校
知立市立知立南中学校
豊橋市立石巻中学校
名古屋市立一柳中学校
県立明和高等学校
県立半田高等学校
県立成章高等学校
県立岡崎商業高等学校
県立春日井高等養護学校

●平成10年度

名古屋市立白金小学校
名古屋市立桶小学校
名古屋市立小幡北小学校
西春日井郡西春町立栗島小学校
一宮市立葉栗小学校
知多郡武豊町立富貴小学校
刈谷市立小垣江東小学校
岡崎市立矢作南小学校
豊田市立寺部小学校
豊川市立豊小学校
名古屋市立南光中学校
名古屋市立白山中学校
愛知郡長久手町立長久手中学校
丹羽郡扶桑町立扶桑中学校
宝飯郡一宮町立一宮中学校
県立旭野高等学校
県立一宮興道高等学校
県立東海南高等学校
県立豊田西高等学校
県立豊橋商業高等学校

●平成11年度

名古屋市立福生小学校
名古屋市立楠小学校
豊明市立唐竹小学校
知多郡東浦町立藤江小学校
岡崎市立常磐小学校
北設楽郡津具村立津具小学校
名古屋市立有松中学校
海部郡蟹江町立蟹江中学校
岡崎市立六ツ美中学校
蒲郡市立塩津中学校
県立昭和高等学校
県立津島高等学校
県立安城東高等学校
県立国府高等学校
県立安城養護学校

●平成12年度

稲沢市立稲沢東小学校
海部郡大治町立大治小学校
西加茂郡三好町立緑丘小学校
豊橋市立大崎小学校
名古屋市立本郷小学校
名古屋市立笠寺小学校
瀬戸市立南山中学校
知多郡美浜町立河和中学校
刈谷市立富士松中学校
名古屋市立沢上中学校
県立松蔭高等学校
県立丹羽高等学校
県立東海商業高等学校
県立岡崎高等学校
県立豊川工業高等学校

●平成13年度

高浜市立高浜小学校
蒲郡市立三谷東小学校
名古屋市立野立小学校
名古屋市立八熊小学校
尾張旭市立本地原小学校
一宮市立丹陽南小学校
西加茂郡三好町立南中学校
渥美郡渥美町立福江中学校
名古屋市立振甫中学校
江南市立古知野中学校
県立千種高等学校
県立一宮西高等学校
県立西尾高等学校
県立時習館高等学校
県立三好養護学校

●平成14年度

名古屋市立諏訪小学校
名古屋市立小碓小学校
愛知郡東郷町立高嶺小学校
大府市立共長小学校
東加茂郡足助町立萩野小学校
新城市立舟着小学校
名古屋市立原中学校
中島郡祖父江町立祖父江中学校
西春日井郡西枇杷島町立西枇杷島中学校
豊川市立中部中学校
県立明和高等学校
県立一宮興道高等学校
県立半田高等学校
県立刈谷高等学校
県立豊橋東高等学校

●平成15年度

江南市立古知野北小学校
半田市立有脇小学校
豊田市立根川小学校
宝飯郡一宮町立一宮南部小学校
名古屋市立筒井小学校
名古屋市立守山小学校
豊明市立豊明中学校
岡崎市立甲山中学校
北設楽郡豊根村立豊根中学校
名古屋市立浄心中学校
県立天白高等学校
県立木曾川高等学校
県立知多東高等学校
県立豊田北高等学校
県立小坂井高等学校

●平成16年度

刈谷市立亀城小学校
豊橋市立高師小学校
名古屋市立猪高小学校
名古屋市立東丘小学校
海部郡甚目寺町立南小学校
瀬戸市立品野台小学校
碧南市立新川中学校
名古屋市立鳴海中学校
一宮市立中部中学校
知多郡南知多町日間賀中学校
県立瑞陵高等学校
県立一宮高等学校
県立岡崎高等学校
県立新城東高等学校
県立佐織養護学校

●平成17年度

名古屋市立篠原小学校
名古屋市立長根台小学校
稲沢市立牧川小学校
清須市立星の宮小学校
額田郡幸田町立豊坂小学校
田原市立若戸小学校
名古屋市立宮中学校
犬山市立東部中学校
豊田市立竜神中学校
豊橋市立羽田中学校
県立愛知商業高等学校
県立五条高等学校
県立横須賀高等学校
県立刈谷北高等学校
県立豊橋南高等学校
私立東邦高等学校

●平成18年度

豊田市立加納小学校
豊川市立千両小学校
名古屋市立成章小学校
名古屋市立明德小学校
丹羽郡扶桑町立山名小学校
知多市立新知小学校
新城市立千郷中学校
名古屋市立名南中学校
津島市立神守中学校
日進市立日進西中学校
県立東郷高等学校
県立西春高等学校
県立豊田高等学校
県立成章高等学校
県立豊橋豊学校

●平成19年度

名古屋市立正木小学校
名古屋市立春日野小学校
美和町立美和小学校
小牧市立北里小学校
知立市立八ツ田小学校
蒲郡市立竹島小学校
名古屋市立山田東中学校
美浜町立野間中学校
岡崎市立福岡中学校
小坂井町立小坂井中学校
県立豊明高等学校
県立津島東高等学校
県立阿久比高等学校
県立岡崎西高等学校
県立国府高等学校

●平成20年度

江南市立門弟山小学校
東海市立平洲小学校
西尾市立鶴城小学校
豊橋市立下池小学校
名古屋市立杉村小学校
名古屋市立天白小学校
東郷町立春木中学校
稲沢市立大里東中学校
豊田市立前橋中学校
名古屋市立川名中学校
県立旭丘高等学校
県立一宮南高等学校
県立半田養護学校
県立豊田西高等学校
県立蒲郡東高等学校
私立杜若高等学校

●平成21年度

名古屋市立大須小学校
名古屋市立呼続小学校
一宮市立浅井南小学校
豊明市立沓掛小学校
一色町立一色南部小学校
新城市立八名小学校
名古屋市立あずま中学校
愛西市立佐織西中学校
岡崎市立北中学校
田原市立野田中学校
県立旭野高等学校
県立一宮工業高等学校
県立常滑高等学校
県立豊田東高等学校
県立豊橋工業高等学校
私立至学館高等学校

●平成22年度

名古屋市立笠寺小学校
名古屋市立大森小学校
あま市立七宝小学校
東海市立大田小学校
岡崎市立矢作北小学校
豊川市立御津南部小学校
名古屋市立南陽東中学校
犬山市立犬山中学校
瀬戸市立水野中学校
蒲郡市立大塚中学校
県立春日井高等学校
県立津島高等学校
県立岡崎北高等学校
県立三谷水産高等学校
県立名古屋養護学校
私立名城大学附属高等学校

●平成23年度

稲沢市立六輪小学校
春日井市立小野小学校
豊田市立野見小学校
田原市立衣笠小学校
名古屋市立西城小学校
名古屋市立猪高小学校
名古屋市立御田中学校
知多市立知多中学校
安城市立安城西中学校
設楽町立設楽中学校
県立昭和高等学校
県立尾北高等学校
県立半田商業高等学校
県立三好高等学校
県立みあい養護学校
私立大成高等学校

●平成24年度

岡崎市立岡崎小学校
蒲郡市立蒲郡南部小学校
名古屋市立栄生小学校
名古屋市立天白小学校
岩倉市立五条川小学校
津島市立高台寺小学校
幸田町立北部中学校
名古屋市立扇台中学校
一宮市立尾西第一中学校
豊明市立栄中学校
愛知県立松蔭高等学校
愛知県立一宮西高等学校
愛知県立西尾高等学校
愛知県立時習館高等学校
愛知県立名古屋豊学校
私立愛知啓成高等学校

●平成25年度

名古屋市立清水学校
名古屋市立植田東小学校
一宮市立千秋南小学校
美浜町立河和小学校
みよし市立緑丘小学校
設楽町立清嶺小学校
名古屋宝神中学校
江南市立布袋中学校
豊田市立猿投中学校
新城市立作手中学校
愛知県立明和高等学校
愛知県立一宮工業高等学校
愛知県立大府高等学校
愛知県立知立東高等学校
愛知県立岡崎養護学校
私立豊田大谷高等学校

●平成26年度

名古屋市立高見小学校
名古屋市立西築地小学校
江南市立藤里小学校
尾張旭市立瑞鳳小学校
刈谷市立平成小学校
豊橋市立豊小学校
名古屋市立桜田中学校
あま市立七宝北中学校
南知多町立師崎中学校
豊川市立東部中学校
愛知県立名古屋西高等学校
愛知県立一宮興道高等学校
愛知県立大府東高等学校
愛知県立岡崎東高等学校
愛知県立豊川工業高等学校
愛知県立豊川特別支援学校本宮校舎

●平成27年度

名古屋市立平子小学校
名古屋市立野田小学校
稲沢市立稲沢北小学校
あま市立伊福小学校
西尾市立中畑小学校
新城市立東郷西小学校
名古屋市立山王中学校
豊山町立豊山中学校
岡崎市立美川中学校
豊橋市立高師台中学校
愛知県立天白高等学校
愛知県立一宮北高等学校
愛知県立安城東高等学校
愛知県立豊橋商業高等学校
愛知県立千種豊学校
私立中京大学附属中京高等学校

●平成28年度

名古屋市立桶狭間小学校
名古屋市立下志段味小学校
春日井市立西山小学校
東海市立船島小学校
知立市立知立小学校
豊川市立荻小学校
名古屋市立原中学校
江南市立古知野中学校
一宮市立南部中学校
刈谷市立刈谷南中学校
愛知県立愛知商業高等学校
愛知県立木曾川高等学校
愛知県立横須賀高等学校
愛知県立鶴城丘高等学校
豊田市立豊田特別支援学校
名古屋大谷高等学校

●平成29年度

名古屋市立千石小学校
名古屋市立旭丘小学校
犬山市立犬山南小学校
津島市立蛭間小学校
幸田町立坂崎小学校
豊橋市立八町小学校
名古屋市立志段味中学校
小牧市立味岡中学校
常滑市立青海中学校
西尾市立吉良中学校
愛知県立日進西高等学校
愛知県立一宮高等学校
愛知県立刈谷北高等学校
愛知県立豊橋東高等学校
愛知県立いなざわ特別支援学校
星城高等学校

●平成30年度

名古屋市立砂田橋小学校
名古屋市立正保小学校
一宮市立北方小学校
東郷町立兵庫小学校
豊田市立東広瀬小学校
田原市立田原東部小学校
名古屋市立桜丘中学校
あま市立甚目寺中学校
蒲郡市立大塚中学校
田原市立泉中学校
愛知県立中村高等学校
愛知県立西春高等学校
愛知県立知多翔洋高等学校
愛知県立豊田北高等学校
愛知県立小坂井高等学校
愛知県立岡崎豊学校

●令和元年度

名古屋市立小坂小学校
名古屋市立蓬来小学校
犬山市立犬山西小学校
愛西市立草平小学校
豊田市立岩倉小学校
蒲郡市立蒲郡北部小学校
名古屋市立鳴海中学校
美浜町立野間中学校
岡崎市立北中学校
豊橋市立吉田方中学校
愛知県立旭丘高等学校
愛知県立一宮南高等学校
愛知県立阿久比高等学校
愛知県立知立高等学校
愛知県立ひいらぎ特別支援学校
私立岡崎城西高等学校

●令和2年度

新型コロナウイルス感染症の影響により実施せず。

●令和3年度

名古屋市立浦里小学校
名古屋市立六郷小学校
瀬戸市立幡山西小学校
東浦町立森岡小学校
刈谷市立小高原小学校
設楽町立田口小学校
名古屋市立名塚中学校
稲沢市立治郎丸中学校
愛西市立佐織中学校
岡崎市立額田中学校
愛知県立千種高等学校
愛知県立尾北高等学校
愛知県立刈谷高等学校
愛知県立宝陵高等学校
愛知県立豊田高等特別支援学校
私立滝高等学校

●令和4年度

名古屋市立楠小学校
名古屋市立本郷小学校
一宮市立起小学校
扶桑町立扶桑東小学校
みよし市立黒笹小学校
豊橋市立汐田小学校
名古屋市立長良中学校
北名古屋市立立春中学校
刈谷市立依佐美中学校
東栄町立東栄中学校
愛知県立瑞陵高等学校
愛知県立津島高等学校
愛知県立半田東高等学校
愛知県立三好高等学校
愛知県立岡崎盲学校
私立豊川高等学校

●令和5年度

名古屋市立御器所小学校
名古屋市立前山小学校
日進市立香久山小学校
南知多町立内海小学校
豊田市立浄水小学校
新城市立東陽小学校
名古屋市立高針台中学校
江南市立宮田中学校
津島市立神守中学校
豊川市立一宮中学校
愛知県立春日井高等学校
愛知県立一宮西高等学校
愛知県立西尾高等学校
愛知県立新城有教館高等学校
愛知県立豊橋特別支援学校
私立東邦高等学校

●令和6年度

名古屋市立上名古屋小学校
名古屋市立正保小学校
稲沢市立大里東小学校
長久手市立東小学校
安城市立明和小学校
豊川市立御津北部小学校
名古屋市立高杉中学校
東浦町立東浦中学校
西尾市立福地中学校
新城市立八名中学校
愛知県立熱田高等学校
愛知県立一宮工科高等学校
愛知県立半田商業高等学校
愛知県立岡崎北高等学校
愛知県立大府もちのき特別支援学校
私立東海学園高等学校

●令和7年度

名古屋市立成章小学校
名古屋市立上志段味小学校
蟹江町立須西小学校
扶桑町立柏森小学校
幸田町立中央小学校
豊橋市立八町小学校
名古屋市立駒方中学校
稲沢市立稲沢西中学校
東郷町立東郷中学校
碧南市立西端中学校
愛知県立愛知総合工科高等学校
愛知県立江南高等学校
愛知県立西尾東高等学校
愛知県立時習館高等学校
愛知県立豊橋聾学校
私立日本福祉大学付属高等学校

愛知県教育委員会学校体育研究委嘱校の研究主題一覧

(小・中学校)

昭和33年度

- ・愛知郡長久手村立長久手小学校
- ・望ましい体育環境における学習指導
- ・額田郡幸田町立坂崎小学校
- ・体育学習における段階指導
- ・知多郡大府町立大府中学校
- ・パーソナリティーと技術向上をめざした体育教育
- ・蒲郡市立蒲郡中学校
- ・体育管理10年のあゆみ

昭和34年度

- ・知多郡美浜町立布土小学校
- ・基礎的運動技能向上をめざしての体育学習指導
- ・渥美郡田原町立北部小学校
- ・器械運動における系統的段階指導
- ・一宮市立中部中学校
- ・体育活動への意欲的参加
- ・豊田市立朝日丘中学校
- ・基礎的技術の養成

昭和35年度

- ・中島郡祖父江町立丸甲小学校
- ・せまい運動場での体育学習
- ・岡崎市立男川小学校
- ・基礎到達をめざしての体育学習指導
- ・愛知郡日進町立日進中学校
- ・特別教育活動における科学的な体育クラブ活動
- ・渥美郡田原町立田原中学校
- ・器械運動における基礎的技術向上をめざしての学習指導

昭和36年度

- ・一宮市立大和西小学校
- ・学習効果を高めるための指導法並びに施設について
- ・豊川市立牛久保小学校
- ・学習意欲を高めるための体育指導
ー体育管理ー
- ・常滑市立鬼崎中学校
- ・望ましい体育の体験をめざす学習指導
- ・西尾市立平坂中学校
- ・学習効果を高めるための体育指導法
ーバレーボールの学習指導法ー

昭和37年度

- ・西春日井郡春日村立春日小学校
- ・器械運動の効果的指導のための問題点について
- ・幡豆郡吉良町立横須賀小学校
- ・基礎運動能力を伸ばす学習指導はいかにあるべきか
- ・丹羽郡岩倉町立岩倉中学校
- ・学習指導要領にそくした指導はいかにしたらよいか
ーバスケットボールをととしてー
- ・南設楽郡鳳来町立長篠中学校
- ・球技(バスケットボール)の評価はどのようにしたらよいか

昭和38年度

- ・豊橋市立福岡小学校
- ・認識を深める体育学習
ー水泳の初心者指導についてー
- ・海部郡大治村立大治小学校
- ・体育学習における効果的指導の一考察
ー陸上運動を中心としてー
- ・小牧市立味岡中学校
- ・器械運動と格技(相撲)の効果的指導について
- ・碧海郡高浜町立高浜中学校
- ・サッカーの効果的指導について

昭和39年度

- ・知多郡大高町立大高小学校
- ・体育科における集団行動の指導
ー生涯化をめざしてー
- ・刈谷市立富士松南小学校
- ・基礎到達をめざしての体育指導
ー器械運動の学習を深めるための効果的指導ー
- ・海部郡弥富町立弥富中学校
- ・陸上競技における評価を通しての学習指導
ー運動技能を中心としてー

- ・蒲郡市立三谷中学校
- ・中学校における格技(剣道)の効果的指導法

昭和40年度

- ・丹羽郡大口町立大口北小学校
- ・学習効果を高めるための諸施設の管理と活用
- ・宝飯郡小坂井町立小坂井西小学校
- ・器械運動の効果的指導
ー特に鉄棒運動を中心としてー
- ・知多郡知多町立知多中学校
- ・器械運動の効果的指導
- ・岡崎市立葵中学校
- ・体力増強をめざした体育教育
ー陸上・器械運動を中心としてー

昭和41年度

- ・春日井市立篠木小学校
- ・器械運動の技能を伸ばすための体育指導
- ・西加茂郡三好町立北部小学校
- ・体力増強をめざした体育指導
ー器械運動をととしてー
- ・中島郡祖父江町立祖父江中学校
- ・能力差に応じた体育指導
ー器械運動・バスケットボールを中心としてー
- ・北設楽郡津具村立津具中学校
- ・到達基準に関する研究
ー学習の動機づけについて(陸上競技)ー

昭和42・43年度

- ・尾西市立三条小学校
- ・リズム運動の効果的指導について
ー表現を主体としてー
- ・渥美郡渥美町立中山小学校
- ・体育的学校の効果的な指導管理について
ー運動会を中心としてー
- ・東春日井郡旭町立旭中学校
- ・体育クラブにおける運営と管理
- ・安城市立安城南中学校
- ・徒手体操における体力づくり

昭和44・45年度

- ・知多郡東浦町立緒川小学校
- ・体操をととしての体力づくり
- ・碧南市立大浜小学校
- ・進んで体力づくりのできる子
ー陸上運動の指導を中心に体育の生活化をめざしてー
- ・江南市立古知野中学校
- ・基礎体力を養成するためには如何にしたらよいか
- ・豊川市立東部中学校
- ・体操による体力づくり
ー主体的な学習活動をととしてー

昭和46・47年度

- ・一宮市立浅井南小学校
- ・個々の体力向上をめざす体育指導
- ・豊橋市立高師小学校
- ・豊かな活動力をめざして
ー自主性を育てる体育学習ー
- ・知多郡美浜町立河和中学校
- ・自発性をもった体育学習
ー自分の力を知り、自ら努める姿を求めてー
- ・豊田市立上郷中学校
- ・技能向上をめざす体育学習
ー自主性の開発をめざして(陸上・器械)ー

昭和48・49年度

- ・岡崎市立岩津小学校
- ・活動力あるからだづくり
ーボール運動ー
- ・一宮市立奥中学校
- ・体育的行事の望ましいあり方

昭和50・51年度

- ・海部郡弥富町立白鳥小学校
- ・ねばり強くたくましいからだづくり
ースポーツ領域を通してー
- ・北設楽郡稲武町立稲武中学校
- ・ひとりひとりの技能を高める体育学習

<p>昭和52・53年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒲郡市立三谷東小学校 ・春日井市立西部中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきとした活動をめざす体育指導 ・心身ともにたくましい生徒の育成をめざして ー体育的諸活動を通してー 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に問題を解決し、高め合う生徒をめざして ー集団とのかかわりを通して、個を生かし、伸ばす学校教育ー
<p>昭和54・55年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大府市立大府小学校 ・安城市立安城北中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともにたくましく、生き生きと活動する児童の育成をめざして ・たくましい心とからだを育成する学校教育のあり方 ー生活化をめざし生徒と教師がともに実現する体育活動ー 	<p>平成7・8年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刈谷市立かりがね小学校 ・知多郡南知多町立豊浜中学校
<p>昭和56・57年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊川市立東部小学校 ・海部郡蟹江町立蟹江北中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の生活化とたくましい子どもづくり ー自らとりくみ、確かめ、伸びる活動を通してー ・たくましく、さとく、明るい生徒の育成をめざして ー教育活動全体をとおしての体づくりー 	<p>平成9・10年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海部郡佐織町立北河田小学校 ・宝飯郡一宮町立一宮中学校
<p>昭和58・59年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉栗郡木曾川町立黒田小学校 ・豊田市立衣丘小学校 ・豊田市立若園中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・たくましく、生き生きとした黒田っ子の育成 ーわかる、できる、創造する喜びを旨とした体育の授業ー ・ひとりひとりが、運動の楽しさを味わい、意欲的に取り組む体育学習 ー指導方法の工夫を通してー ・一人ひとりが運動の楽しさや喜びを知る体育学習を求めて 	<p>平成11・12年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾張旭市立旭中学校
<p>昭和60・61年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝飯郡音羽町立赤坂小学校 ・豊田市立杏掛中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己学習能力を育てる体育学習をめざして ー指導と評価の一本化ー ・能力開発のための指導過程のあり方 ー適切な課題・適度な負荷の研究ー 	<p>平成13・14年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新城市立舟着小学校
<p>昭和62・63年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡崎市立小豆坂小学校 ・東海市立平洲中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかで、活力あふれる子どもの育成をめざして ー一人ひとりが生き生きと取り組む体育学習ー ・生徒が意欲的・主体的に活動する授業の展開を旨として ー体育学習メニューの活用を通してー 	<p>平成15・16年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一宮市立大和東小学校
<p>平成元・2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸市立水野小学校 ・知立市立竜北中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな心身を自らつくりあげる児童の育成 ー主として体育活動をとおしてー ・自ら学ぶ力を育てる授業をめざして ー自主選択を取り入れた体育学習ー 	<p>平成17・18年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・碧南市立南中学校
<p>平成3・4年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒲郡市立三谷小学校 ・稲沢市立大里東中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ力を育てる指導 ー一人ひとりができる喜びを味わえる体育学習をめざしてー ・個性を發揮し、主体的にとりくむ生徒の育成 ー一人一人が学習課題を選択・設定し、自らの力を伸ばし、發揮できる授業の創造を中心としてー 	<p>平成19・20年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江南市立北部中学校
<p>平成5・6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩倉市立岩倉北小学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを味わえる子を育てる学校教育 ー個が生きる、ひびきあう場の設定を通してー 	<p>平成21・22年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安城市立梨の里小学校
		<p>平成23・24年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大府市立神田小学校
		<p>平成25・26年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田原市立泉中学校
		<p>平成27・28年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あま市立美和中学校
		<ul style="list-style-type: none"> ・仲間とともに学び合い、生き生きと活動できる生徒の育成 ー運動生活習慣づくりを目指してー ・豊かな心を育み、未来に向けて、たくましく生きる児童の育成 ー心と体、一体となって成長する体育学習をめざしてー ・やっつるで！ ー体が動く 心が動くー ・運動大好き！たくましい梨っ子の育成 ーできる・わかる・かかわる体育学習を通してー ・進んで運動 みんなで健康 神田っ子 ーわかる・できる・かかわる体育の授業を通してー ・楽しみながら、進んで体を動かそうとする生徒の育成 ー『チーム泉』を活用した学校体育の充実ー ・「やってみたい 高めたい 続けたい」と自ら学ぶとする生徒の育成 ー自他を大切にする「あまっ子」をめざしてー

平成29・30年度

- ・豊橋市立吉田方小学校
- ・心と体の健康に関心を持ち、運動やスポーツに親しむ子どもを育成する体育活動
- 授業改善・運動施設の有効活用・学校独自の体育的行事を柱に据えた取り組みを通して-

令和元年度以降指定なし

(高等学校)

昭和32・33年度

- ・県立名古屋西高等学校

<協力校>

- ・渥美農, 岡崎商, 小牧, 猿投農, 新城, 津島商工, 豊川工, 西尾実, 碧南, 津島

昭和34・35年度

- ・県立松蔭高等学校

<協力校>

- ・豊橋工, 刈谷, 昭和稲沢

昭和36・37年度

- ・県立端陵高等学校

昭和38・39年度

- ・県立熱田高等学校

<協力校>

- ・尾北, 一宮商, 半田東山工, 足助, 猿投農, 碧南, 蒲郡, 豊橋商

昭和40・41年度

- ・県立時習館高等学校
- ・県立明和高等学校
- ・県立瀬戸窯業高等学校
- ・県立横須賀高等学校

昭和42・43年度

- ・県立愛知商業高等学校
- ・県立刈谷高等学校
- ・県立西尾高等学校

<協力校>

- ・安城農, 西尾実

昭和44・45年度

- ・県立豊橋東高等学校
- ・県立木曾川高等学校
- ・県立名古屋西高等学校

昭和46・47年度

- ・県立東郷高等学校
- ・県立半田農業高等学校
- ・県立古知野高等学校

昭和48・49年度

- ・県立中村高等学校
- ・県立岡崎北高等学校

昭和50・51年度

- ・県立豊橋工業高等学校
- ・県立緑丘商業高等学校

昭和52・53年度

- ・県立第二愛知工業高等学校

- ・県立刈谷東高等学校

昭和54・55年度

- ・県立春日井西高等学校
- ・県立衣台高等学校

- ・体育の学習活動と集団行動
- ・学校教育の評価
- ・地域及び学校の現状に即した体育科年間指導計画の樹立

- ・基礎体力を向上させるための方策

- ・高等学校教育課程改訂に伴う諸問題

- ・高等学校体育の運動技能到達目標設定について

- ・高等学校体育の運動技能到達目標の設定について

- ・高等学校体育の運動技能到達目標の設定について

- ・体力の向上はどのようにしたらよいか

- ・体育的クラブ活動の指導はどのようにしたらよいか

- ・体育施設の効果的利用と安全管理について

- ・職業課程高等学校生徒の体力・運動能力と普通課程高等学校生徒の体力・運動能力との比較考察
- ・職業課程高等学校における女子生徒の体力向上をめざす指導はどのようにしたらよいか

- ・多様化してきている定時制の体育はいかにあるべきか

- ・保健体育授業における生徒選択について

昭和56・57年度

- ・県立犬山南高等学校
- ・県立太白高等学校

昭和58・59年度

- ・県立豊田北高等学校

昭和60・61年度

- ・県立知多高等学校

平成元・2年度

- ・県立半田東高等学校

平成3・4年度

- ・県立美和高等学校

平成5・6年度

- ・県立岡崎東高等学校

平成7・8年度

- ・県立半田高等学校

平成9・10年度

- ・県立小坂井高等学校

平成11年度以後指定なし

- ・選択制導入に伴う評価について

- ・生徒が主体的・意欲的に取り組む体育授業のあり方

- ・生徒が意欲的に取り組む体力つくりのあり方について
- ― 体育授業の中で自ら進んでおこなう体力つくり―

- ・本校における体育的行事の実践について
- ― 教育目標の具現化を目指して―

- ・新指導要領における「体育の選択制授業」のあり方について
- ― 選択制授業の導入実践―

- ・選択制授業の展開について
- ― より進んだ生徒選択による授業の展開及びそれに伴う新しい評価の考え方―

- ・選択制授業の充実を目指して
- ― 選択制授業における男女共習の展開とその評価について―

- ・男女共習授業における指導法の改善と評価

令和7年度

学 校 体 育 報 告 書

発行 愛知県教育委員会

(担当 保健体育課)